

# 昭和十年代における郷土研究の体制化

課題番号 16520396

2004(平成16)年度・2005(平成17)年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)

研究成果報告書

2005(平成17)年3月

研究代表者 鶴見太郎  
(早稲田大学文学部助教授)

## 目 次

報告書作成にあたって	1
研究経費・研究発表	2
「橋浦泰雄関係文書」の来歴と内容	5
橋浦泰雄略年譜	13
柳田民俗学の体制化の意味	19
「橋浦泰雄関係文書」の目録	29
○蔵書一覧（書籍）	
○所蔵資料一覧（抜刷、パンフレット、希少単行本・雑誌、メモ、その他）	
○関連雑誌（寄稿雑誌）	
○肉筆原稿一覧	
○採集手帖・カード一覧	
○書簡一覧	
添付 CD-R「橋浦泰雄関係文書」	

## 報告書作成にあたって

研究代表者 鶴見太郎

柳田国男が築き上げた郷土研究の体制は、戦中戦後を通して大きな影響力を誇った。その体制が持つ構造については、今日に到るまで地方研究者を中央の柳田、およびその弟子たちに従属させることによって、各地から得られた民俗の記録を独占したという批判が根強い。

筆者もまた、動かしがたい事実としてその批判を受け止める。しかし研究史を見る限りにおいて、その批判の矛先がそうした地方と中央の構造だけに収斂してしまったきらいがある。硬直した体制を批判する様式自体が硬さをともなうことで、その後、見るべき進展がないというのが現状である。

本研究では仔細にその体制化の過程で収集された同時代の資料を分析しながら、昭和十年代においてその体制がどのような機能を果たしたのかを検討した。そこから浮かび上がってきたのは、学術の世界が研究と成果発表の両面で著しく統制を受けたこの時期、柳田民俗学の体制が考証的・経験的な学風を守った数少ない事例であること、加えてその体制が同時代に蓄積された地方史家を中心とする人的ネットワークに支えられていたことである。この相互にわたって形成された信頼関係は、民間でなされただけに、いっそうその重みを増す。

本研究は橋浦泰雄の残した資料「橋浦泰雄関係文書」を基盤とするものである。本編において言及する通り、橋浦は一九三五年の「民間伝承の会」設立時、その組織方針を決定したほか、一九三八年から戦後の四七まで『民間伝承』の編集長として困難な環境の中で地方の郷土史家と緊密な連絡を保ち続けた。文字通り柳田民俗学の体制化を身をもって進めた人物である。

今回の研究において特に心がけたのは、この「橋浦泰雄関係文書」の整理とデータベースの構築である。内容は蔵書、肉筆原稿からフィールドノート、そしておびただしい書簡と多岐にわたったが、それらが示すのは橋浦が丹念に自身と志を同じくする人士と長期にわたって交流し続けてきた軌跡である。それはまた、長い時間軸の中で対象を捉えようとする柳田民俗学の方法そのものといえてよい。

数年間にわたって膨大な文書のデータ入力を担当してくれた立石尚史君（立命館大学大学院生 当時）、と上林亮介君（京都教育大学大学院生 当時）、そして報告書作成にあたって一部の作業を引き受けてくれた廣木尚君（早稲田大学大学院生）に感謝する次第である。

2006年4月

平成16年度・17年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書

研究課題 昭和十年代における郷土研究の体制化

課題番号 16520396

研究代表者 鶴見太郎（早稲田大学文学学術院）

研究経費 平成16年度 130万円

平成17年度 100万円

計 230万円

研究発表

(1) 学会誌

- 鶴見太郎 「昭和戦前期における郷土研究の組織化—橋浦泰雄の人脈構成に見る—」  
（『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第50輯 2004年度） 3～16頁
- 〃 「“その場所”に託す—東筑摩郡と柳田国男—」  
（『季刊 東北学』第二期第一号 2004年秋） 102～111頁
- 〃 「戦時下の「モヤヒ」—「柳田国男先生古稀記念會」に見る—」  
（『人文学報』 京都大学人文科学研究所 91号 2004年12月） 39～60頁
- 〃 「柳田国男」（『季刊 環』 22号 2005年夏） 291～296頁

(2) 出版物

- 鶴見太郎 「「家」はいかにして戦争に対峙するか—渋谷敬三とその周辺—」  
（『動員・抵抗・翼賛』 岩波講座アジア・太平洋戦争 第3巻 2006年  
1月 281～306頁
- 〃 「柳田民俗学の東アジア的展開」  
（『地域研究としてのアジア』 岩波講座「帝国」日本の学知 第6巻 2006  
年4月 105～132頁

(3) 口頭発表

- 鶴見太郎 「郷愁とマルクス主義者」 日本民俗学会第817回談話会（第57回日本民俗  
学会年会プレ・シンポジウム「野の学問とアカデミズム：民俗学の学史か  
ら検討する」） 2005年7月10日（成城大学）
- 〃 「戦後京都学派における柳田国男の受容について」 柳田国男の会第11回大  
会（共催・京都大学人文科学研究所共同研究「近代京都研究」、国立歴史民



俗博物館共同研究「日本における民俗研究の形成と発展に関する基礎研究」 2005年7月30日（京都大学人文科学研究所）

〃 「戦時下日本民俗学と東アジア」 地域研究企画交流センター・シンポジウム「旧日本植民地と人文社会諸科学 東アジア人類学と植民地主義」 2005年12月16日（国立民族学博物館）

\* 地域研究企画交流センターは2006年4月より京都大学地域研究統合情報センターに再編。

## 「橋浦泰雄関係文書」の来歴と内容

### はじめに

筆者と「橋浦泰雄関係文書」（以下、「文書」）との出会いは一九八九年にまでさかのぼる。卒業論文で柳田国男に師事したマルクス主義者を題材に選んだことから、その「典型」と当時は目されていた橋浦に照準を合わせ、久我山の御遺族を訪れたことに始まる。その時、橋浦が寄稿した希少な雑誌の複写をとったことを手始めに、その後、修士・博士論文と進むにあたって、ますます「文書」の手助けを借りることとなった。

一九九七年に筆者は橋浦家の当主・橋浦赤志から、生前橋浦が保管していた蔵書、原稿、パンフレット、書簡その他の資料を然るべき機関に寄贈する相談を受けた。幸い橋浦の故郷である鳥取の県立図書館に受け入れを承諾していただくことができ、その上、「文書」の移送は整理が完了するまで筆者が行うことを許されるという望外の環境を与えられることとなった。

「文書」は大きく分けて書籍と書簡、そして原稿類、採集カード、書簡以外の資料（パンフレット、その他）となる。整理するに当たって筆者が発見したのは、資料の配列と纏まり方にひとつの「意図」があることだった。橋浦は生前、『五塵録 民俗的自伝』（創樹社 一九八二年）を残したが、その執筆の際、これら資料を自分が引き出しやすいように配置していたと見られるのである。とりわけそれがはっきりしているのは書簡以外の資料と原稿類である。『五塵録』は大正一二年のところで中絶したが、橋浦自身はまだ続編を書く予定だったと見られ、将来の執筆のため、いまだ使われていない資料も準備段階ですでにひとつの束に纏められていたと見られる。

一九九八年にはこのうち書籍の入力を終え、その部分だけを鳥取に送ったが、その際にもなるべく書籍の並び方をそのままの状態にして入力することを心がけた。本来ならば、それ以外の資料の入力を急ぐべきだったが、ひとたび作業にかかると、これが膨大な量であることが判明した。特に書簡は一万通を超え、多大な時間を費やすこととなった。その際にも、心掛けたのはなるべく橋浦が行った配置に留意しながら、なおかつ最低限、系統的な分類項を崩さない、という方針だった。

以上の行程を経ることで、一連の作業は書かれなかった橋浦の自伝の後半部を「発掘」という新たな課題を帯びはじめた。以下、その橋浦の構想にありながら、ついに『五塵録』に収められなかった部分を含め、彼の足跡を辿ることとする。

### 半生と人的交流

大正末から昭和初年にかけての数年間、柳田民俗学にとって組織化に向けての胎動の時期といってよい。いまだ「民間伝承の会」に代表される全国組織を持たない柳田にとって、この時期は直接にそれぞれ個性ある人物と出会い、民俗学の感化を与える機会が多く、

それだけに「顔」の見える多くの研究者を周囲に持っていた。

この頃、個人的に柳田へ接触し、戦中戦後と長期にわたる師事を続けた民俗学者の代表が橋浦泰雄である。肩書きの上で見ると、橋浦泰雄は民俗学者・社会主義運動家・日本画家として近現代史上に位置づけられる。しかし、その経歴を特徴付けるのは、まず稀有の組織者としての人物像であろう。とりわけその手腕が発揮されたのが、「民間伝承の会」を中心とした日本民俗学の体制化においてである。

橋浦泰雄は、一八八八年に鳥取県岩美郡宇岩本の地主兼雑貨商の家に生まれ、地元の高小を卒業後、家業を手伝うかたわら、近隣の文芸サークル活動に投じ、若き日の井上星蔭（白井喬二）、野村愛正らと交流した。一〇人兄弟であったことから、両親が弟妹の面倒を見たことによって、その分幼少期多くの時間を祖父母とともに過ごした。

「民俗的自伝」と副題が付された『五塵録』（一九八二年）に描かれた幼少期のくだりには、後に民俗学者となってからの分析も入っているものの、農事歴に即しながら郷里岩本の細かな年中行事が季節を追ってほぼ、完全な形で復元されている。さらに少年期の創作意識が橋浦の高等教育を受ける意志を希薄化させたこともあって、より経験的な思考を身に付けることとなった。このことは長じて橋浦が社会主義運動に飛び込んだ時にも、同時代に影響力を誇った思想書にほとんど関心を払わず、もっぱら現場で運動の担い手となった人物そのものの方に指針を置いたこととも深く関わっている。彼の蔵書に山川均、河上肇、あるいは福本和夫など、戦間期の思想界を彩った思想家の書が少ないのはそのためである。

祖父にあたる増五郎は進取に富んだ人物で、次男であったことから、少年期より鳥取の呉服商へ奉公に出た。のち、故郷に帰って酒造業をはじめ、成功するに従って、多くの田畑山林を購入した。経営の才があった反面、感情の起伏の激しい人物であり、家族・使用人についても時折、癩癩を爆発させることがあった。ただし、修行時代の苦労を下地とした正義感から、周囲で争いごとが起こると、弱者・貧者の側に立つ人物だった。晩年になるにしたがって、穏やかな人柄となり、郷土の民話を、泰雄をはじめ孫たちに語って聞かせた。

父親の雄次郎は生来温厚な気質で、こうした増五郎の振る舞いを早くから見て育ったことから、母とともに絶えず父親と家族・使用人の間に立って気苦勞が多かった。しかしその一方、自分の代で雑貨商に転じるなど果敢な側面を併せ持っていた。その人柄が端的に示されたのが、後に日本共産党（第一次）の結党にも加わった五男の橋浦時雄が、大逆事件の余波で検挙され懲役五年の判決を受けた折、これに動じることなく社会主義者の中にも人徳のある人物がいることを明言した時だった。その後、橋浦家は雄次郎の次の代で、子供たちの岩本にとどまった長男の増雄を除けば、一九二七年ブラジルへ移民した次男・昌雄をはじめ、養子へ行ったり他家に嫁いでいったことから次第に零細化を余儀なくされていく。

一九〇八年、橋浦は兵役に服し、鳥取歩兵第四十連隊に入隊する。入営期間は二年に及

び、そのうちの一年間は満州に勤務した。帰郷後、しばらくは地元の文士サークル活動に参加していたが、野村、井上らが雁行して上京していくのに続き、一九一二年橋浦もまた上京する〔橋浦 一九八二年〕。

大正期を通じての橋浦は、独学による日本画修行、講義録の出版、在京の同郷文士との交遊など自由気ままな活動を繰り広げる。一九二〇年代以降は社会主義運動への参加、ナップ（全日本無産者芸術聯盟）をはじめとする左翼芸術運動が加わる。併行して橋浦は東北帝国大学農科大学に学んでいた弟・季雄を介して知り合った有島武郎をはじめ、多くの知己を得ることとなる。興味深いことに、郷土との行き来を頻繁にしていたものの、東京における橋浦の生活は、まったく現在の単身の都市生活者と変わるところがない。大正一〇年から一二年にかけて付けられた日記帳を見ても、有島武郎をはじめとする知己たちとの交流が詳細に綴られている反面、民間暦にかかわる節目を意識した記述はない。青年期の橋浦にとってこうした習俗よりも、既知の仲間たち、そして新たに出会った人士との交流の方に多くの比重が置かれていた。

以上の行程から浮かび上がる橋浦の特色は、まず、上京することによって故郷との回路を切るという、大正・戦前昭和期の青年にありがちな傾向から免れていた点である。そして郷里に残された家族、親族はもとより、少年期に得た知己たちとの交流を維持した。『五塵録』には、戦後になってからの記述であるが、家族とりわけ祖父・父親、そして親族たちに対して多くの記述を割かれている。それらの素材となったのは、散発的に付けられた日記以外に、故郷を離れて以降継続された家族・親族からの来信であり、決して後からの回顧によって増幅されたものではないことが分かる。

さらに橋浦の生涯を通じて一貫しているのは、知り合った折、それが信頼の置ける人物であると自らが判断した時、長期にわたって交流が続く点である。その原点ともいえるべきものが郷里の「家」であったことが、橋浦に狭義の思想よりも、その思想そのものを体現する人物の人柄に傾斜する要素を付与した。そしていざという時、鞠躬如としてその人物に対する援助を惜しまず、なおかつその努力はその人物の没後も続いた。戦前戦後を通じて明確な政治思想の違いにもかかわらず、柳田に師事し民俗学界の組織基盤に腐心し、一九二三年の有島没後、震災の折には直後に安否を気遣い有島家を訪れたほか、有島を偲んで刊行された『泉』にも積極的に関わったのは、その一例である。

こうした橋浦の姿勢は都市生活者として奔放な活動を送る一方、郷里に居た頃の記憶とそれを体現する人物たちとの往還を維持するという構造の中で身についたものであり、そこには自ずから郷里の「家」を基点とする多くの人間形象が堆積していた。この交流の様式は一九二五年橋浦が原始共産制の発掘を志して柳田民俗学の門をくぐって以降、学術的な領分で十二分に発揮されることとなる。

橋浦が柳田と交流しはじめた時期、柳田はちょうど『民族』編集の上で、岡正雄ら年少の文化人類学者と軋轢を起しつつ、地方の郷土史家との交流をはかりながら自身の考える民俗学について思案をめぐらしていた。柳田にとって同誌の基調はあくまで彼ら地方史

家であり、欧米民族学の業績翻訳を中心に置こうとする岡との間には、当然、確執が潜在した。このことが顕在化した結果、一九二九年をもって『民族』は休刊し、かわって岡、折口信夫らによって設立された「民俗学会」が『民俗学』を創刊する。折口自身は柳田がこの学会の長として加わってくれることを期待したが、柳田は同会について距離をとり、実質的に学界で孤立の道を選ぶ。

この時、柳田に従った数少ない民俗学者が橋浦だった。柳田が執筆に苦しんだ『明治大正史世相篇』（一九三一年）では第十一章にあたる「労力配賦」に関わる部分を執筆したほか、柳田が当時、郡誌編纂のため重点的に訪れていた長野県東筑摩郡を精力的に訪れ、柳田によって開拓された胡桃沢勘内をはじめとする郷土史家との交流をさらに密なものとした。

一九三五年の日本民俗学講習会は、それまでの折口・岡と柳田の確執に象徴される学界対立に終止符を打つこととなったが、橋浦はこれに講師として参加したほか、「民間伝承の会」設立の端緒となった八月初旬の組織方針決定の際、各地に支部を置くことを主張する宮本常一の主張を退け、在来の郷土研究会の活動を尊重して、その組織を緩やかに繋ぐ案を提案し、以後これが同会の基調となった。この組織方針に乗って「民間伝承の会」は順調に各地に支持基盤を広げ、翌年には全都道府県に会員を獲得するに到った。この傾向は一九三八年に橋浦が『民間伝承』の編集長となることによって、さらに加速され、一九四四年には七〇〇名を超える新入会員が記録される。

この間、社会主義者としての橋浦は一九三四年、日本プロレタリア美術家同盟の解体を決議したほか、一九三八年には関東消費組合聯盟が解消し、実質的に抛るべき組織は「民間伝承の会」に限られていた。一九三七年にはかつてのプロレタリア文化運動の仲間と、旧知の民俗学者を中心に、橋浦にアトリエを持たせるため、彼の絵画を買う運動が展開され、同年一二月、五〇歳の祝賀会を兼ねてアトリエ完成を祝う会が開かれた。

これ以降、橋浦は自宅を発行所として戦時下も『民間伝承』を刊行し続けるが、かつての運動仲間が橋浦の生活を救うという趣旨から開かれた頒布会が大きな役割を果たしたことを見落としてはなるまい。頒布会に名を連ねた人々は、野村愛正をはじめとする青年期鳥取における文学サークル仲間から、大正末の社会主義運動において出会った同志、さらに昭和期に入って顕著となる多くの郷土史家と、それまで橋浦が築いた交流がそのまま反映されている。民俗学を含めて運動の盛衰にかかわらず、長期にわたって橋浦が維持した人的交流がこうした頒布会を可能にしたといえる。

大正末から一九三〇年代とは、社会主義者にとってアナ・ボル論争、大量転向と、思想的に変転の激しい時期である。しかし橋浦に関する限り、運動離脱者に有り勝ちな人間関係の激変がない。この点においてイデオロギーというものについて橋浦がどれだけの価値を置いたか、はなはだ疑わしい。

ひるがえってみるならば、橋浦の組織方針とは、こうした長年にわたって交流を続けることを重視する橋浦の人間観そのものから引き出されたといえよう。本研究が扱う「文書」

はまさに、橋浦によって積み上げられた交流の跡とあってよい。

## 「文書」の内容

### ①「蔵書一覧」

「蔵書（書籍）」は全体で889冊ある。これは橋浦家の中で、特に蔵書として別置されたものを対象とする。番号を付すにあたっては、橋浦自身によって配置された順番を採用した。

総じていえば、民俗学関連の文献が多数を占める一方、社会主義関係の文献は意外に少ない。そしてその多くは戦後に購入されたものである。書き込みについてもあるものは極めて少数である。例えば、橋浦にとって原始共産制の遺制発掘というテーマを与え、民俗学の道に入るきっかけとなったクロポトキン『相互扶助論』（大杉栄訳）〔番号92〕にも、傍線はほとんど入っていない。これは読書の際、カードを使用することの多かった橋浦の癖にも由来すると思われる。それらのメモは②に多く含まれる。

いまひとつ注目すべきなのは、橋浦が装丁、挿絵を担当した書籍が幾つか含まれていることである。代表的なものとしては、柳田国男『國史と民俗学』（六人社 一九四四年装丁）〔番号 750〕、同『野草・野鳥雑記』（甲鳥書林 一九四〇年 挿絵）〔番号293、294〕、堺利彦『楽天囚人』（売文社 一九四八年 装丁）〔番号 259〕などである。実弟の時雄が第一次共産党結成に加わったのに対し、橋浦泰雄はナップ（全日本無産芸術聯盟）の委員長を務めるなど、むしろ第二次共産党の下での活動が目立ったが、個人の交流として堺利彦ら売文社の人々との関係を維持し、戦後になって同書復刻の折にも、装丁を買って出たとみられる。

### ②「所蔵資料一覧」

ここに含まれるのは抜刷、パンフレット、希少単行本・雑誌、日記、メモ、その他の資料である。本来ならば、①の「書籍」と類別を厳しくしなければならないはずだが、これらは橋浦によって、特に蔵書から外された上で保管されていた。したがって、単行本・雑誌の体裁ではあっても、橋浦にとっては蔵書以外の扱いでそれ以外の資料とともに置く必要のあったものと推察される。

その傍証として特にこの「一覧」で目に付くのが、一九二〇年代後半から三〇年代後半にかけて繰り返し行われた橋浦の個展、絵画頒布会に関わる資料である〔番号761ほか〕。この催し自体は、旧くは一九二二年に行われた個展にまでさかのぼることができるが〔番号 11〕。この種の頒布会はその後、プロレタリア文化運動が壊滅するに及んで、困窮するかつての仲間たちを救う目的で頻繁に開催される〔番号77、番号106番号109ほか〕。運動が潰れて後も、相互扶助的な関係が続いていたことが示される点で興味深い事例を提供している。

さらにもうひとつ、橋浦が重点的に民俗調査をおこなった場所、ないし主題ごとに大

きな資料的区分けがなされていた点が注目される。これは④の「肉筆原稿」と類別することも検討したが、パンフレット、断片的なメモと一緒に保存されていることが多いため、敢えてこの項目の中に入れた。例えば、柳田から教示を受けて原始共産制の残存を求めて歩いた一九二五年の調査記録〔番号277〕、一九二八年に長期滞在した五島での調査記録〔番号265〕、一九三〇年代における全国山村生活調査で担当した村々の調査記録〔番号275、番号276ほか〕などがこれに相当する。

### ③「関連雑誌（寄稿雑誌）」

ここに纏められたのは、橋浦自身が投稿、ないしその運営に関わった雑誌で生前の橋浦によって①の「蔵書」、②の「所蔵資料」から、さらに分離されてひとつの束を構成しているものである。多くはほとんどが継続的に並んだものが多く、橋浦の文章が掲載された箇所には本人によって付箋が付けられている場合が多い。『泉』は無論、有島武郎没後、有島を偲んで旧友たちが集って刊行された雑誌であり、貴重本である。量的に多くないため、系統番号は付していない。

### ④「肉筆原稿」

先述したとおり、②「所蔵資料」の項目と重なるが、特に生前の橋浦によって分別された原稿類を指す。多くは青年時代、同士とともに鳥取で結成した文学サークル・水脈での活動と、そこで橋浦が発表したもので、②が断片的なメモの多かったのに対し、ここでは短くてもひとつの体裁をとり、完結した内容のものが多い。橋浦自身の単著となった原稿で、刊行された後、出版社から返却を受けた原稿も数点含まれる〔番号30、番号31、番号32など〕。

### ⑤「採集カード」

この項目で纏められたのは、統一された形式のカードに書き込まれたメモ、民俗採集事項である。一九二〇年代後半から三〇年代、柳田国男は民俗調査の上で、統一された形式の採集手帖、採集カードによって異なる地域で同様の主題毎に調査を行うことを試みた。この実践は一九三〇年代、全国山村生活調査、海村調査で実現され、各地の民俗事項は採集手帖に記録され、現在、成城大学民俗学研究所で閲覧可能である。しかし採集カードの方は戦時下に行われた食習調査で試みられたが、その活用はいまだ十分になされていないと言いがたい。

「橋浦泰雄関係文書」には、当時、柳田及びその周辺で流通していた採集カードの多くが残されている。そしてその殆どは橋浦が自身の民俗採集で使用したものである。とりわけ長期にわたって足を運んだ東筑摩郡で行った樹木に関する信仰にかかわる組織的な調査は、地元の有志にカードを配布し、書き入れてもらうという形式が採用され、貴重な記録となっている。

それ以外にも直接民俗学とは関係のないメモにも、同じカードが使用されていた事例が散見されるが、それらも敢えてこの項目に入れた。

#### ⑥「書簡」

橋浦本人に向けて発信された情報という点で、柳田民俗学の体制化そのものを知る上で貴重な資料である。総量は一万通を超え、返信の場合が多く「民間伝承の会」運営上、橋浦が書いた書簡の数は膨大な量だったと察せられる。

柳田国男からのものだけで八五通、中野重治六通、有島武郎三三通などが穏当にいけば重要視されるだろうが、柳田民俗学の体制化という観点で興味を引くのは、三〇年代以降、加速度的に増えていく地方の郷土史家からの手紙である。多くは事務的な連絡であるが、これらの手紙の宛名は「民間伝承の会御中」、「柳田国男先生」、「橋浦泰雄先生（様）」と、三通りの書かれ方をしていることが多い。内容は入会希望、『民間伝承』バックナンバーの申し込み、会発行の書籍購入の希望などであるが、少なくとも地方の郷土史家にとって組織面から見た場合、橋浦泰雄とは柳田国男、ないし「民間伝承の会」そのものと置き換えられる存在だったことが伺える。

時間軸的に来信の推移を見て分かることは、先述した通り、橋浦に宛てて思想を問わず幅広い人物から連絡があること、そしてそれらの人物と長期にわたる交流がある点であろう。

時代とともに俯瞰すれば、まず青年期、鳥取での文学サークルを通して知り合った知己たちとの手紙にはじまり、その来信はその後、大正期を経て戦後に到るまで継続される。次いで大正末から始まるプロレタリア文化運動での同志たちからの来信が加わり、運動の解体以降も、彼等と橋浦は親密に交流する。そして一九三〇年代後半から民俗学の組織化に本腰を入れると、先の郷土史家から数多くの手紙がこれに加わる。

書簡を見ることで浮かび上がってくるのは、地方文壇、プロレタリア文化運動、そして民俗学の組織化と、その時代時代における仕事を誠実にこなし、なおかつそこで出会ったそれぞれの個人と一対一で交流し、信頼を築いていった橋浦泰雄の人物像である。



## 橋浦泰雄略年譜

- 一八八八（明治二一）年十一月三〇日 鳥取県岩井郡大岩村字岩本（現在の岩美郡岩美町岩本）に生まれる。
- 一八九四（明治二七）年 大岩尋常小学校に入学。
- 一八九八（明治三一）年 岩井高等小学校に入学。同級に松岡駒吉がいた。
- 一九〇一（明治三四）年 鳥取第一中学（鳥取一中）入学試験に落第。一九〇三年、再び落第。
- 一九〇四（明治三八）年 『平民新聞』を読む。
- 一九〇八（明治四一）年 一二月、鳥取歩兵第四十連隊へ入隊。二年間の兵役。うち一年間は満州で過ごす。
- 一九一〇（明治四三）年 一〇月、大逆事件の余波により、弟・時雄が検挙。
- 一九一一（明治四四）年 二月、野村千茅（愛正）から同人誌『回覧』に誘われ、同誌の母体である白日社に加わる。井上星蔭（白井喬二）、吉村秀治（撫骨）を知る。
- 一九一二（明治四五）年 一月、白日社を水脈文芸会と改名。二月、『水脈』を創刊。九月、上京。月末に明治天皇死去にともなう恩赦で出獄した時雄を迎える。
- 一九一三（大正二）年 七月、予備役召集のため、帰郷。
- 一九一四（大正三）年 四月、阪田家への養子縁組がまとまり、再上京。阪田稔子と結婚。阪田姓となる。
- 一九一五（大正四）年 四月、国民実科大学院を設立し、講義録を発行。資金難から一九一七年断念。
- 一九一六（大正五）年 四月、弟・季雄と有島武郎を訪問し、交流が始まる。また、この頃、足助素一、藤森成吉を知る。
- 一九一八（大正七）年 一月、「初心会」を結成。十一月、白井喬二の紹介でペーリン化粧品会社に入社。宣伝部長を務める（一九一九年五月退社）。
- 一九一九（大正八）年 三月、望月桂らによって黒耀会（革命芸術研究会）が結成され、これに加入する。四月、妻・稔子死す。この頃より足助素一の叢文閣にて編集業務に従事。
- 一九二〇（大正九）年 九月、橋浦姓に復す。一二月、日本社会主義同盟創立大会に参加。この年、創刊された『國粹』一二月号から数号、木版画を発表。この頃、出版従業員組合の創立に参加。

- 一九二一（大正一〇）年 五月一日、第二回メーデーで涌島義博とともに検挙。四五日間の拘留。一〇月、同郷の文士と『壊人』を創刊。翌年一月に自然終刊。
- 一九二二（大正一一）年 一月、仲宗根源和宅にてこの年のメーデーをめぐる計画会議。五月二日、第三回メーデーで検挙。即日釈放となる。七月、牛込の矢来倶楽部で初めての個展。十一月、鳥取市仁風閣で第二回個展。
- 一九二三（大正一二）年 四月、有島武郎、秋田雨雀と鳥取へ文化講演会。六月、有島武郎情死。九月二七日、虐殺された大杉栄の骨上に行く。一〇月、依頼で兄・義雄を訪ねて札幌に行く。以後、数年間しばしば渡道。
- 一九二五（大正一四）年 五月、「原始共産制」を求めて尻屋村紀行。九月五日、柳田国男を訪れ、以後指導を仰ぐ。一二月まで、僻村調査。一二月、日本プロレタリア文芸聯盟創立にともない、美術部長となる。この頃、関東消費組合理事となる。
- 一九二六（大正一五）年 一月、鳥取無産県人会を結成する。十一月、日本プロレタリア芸術聯盟（プロ芸）中央委員長となる。
- 一九二七（昭和二）年 一月、岩黒アヤと結婚。この年、時雄らと消費組合西郊共働社（のち城西消費組合）を創立。
- 一九二八（昭和三）年 一月、柳田と長崎県五島へ調査。三月、「三・一五」事件による検挙の報に接し、急遽帰京。三月、全日本無産者芸術聯盟結成（ナップ）にともない、中央委員長となる。五月、「小品画會」が行われる。一二月、ナップ示威運動で検束。
- 一九二九（昭和四）年 一月、日本プロレタリア美術家同盟（AR）の結成に参加し、中央委員。三月六日、前日暗殺された山本宣治の「死に顔絵」をスケッチ。四月、『戦旗』編集長・佐藤武生の葬儀で弔辞を読む。五月、松本市で個人展覧会。六月、野方町政研究会の結成に参画。七月、「民俗学会」に入会するも、ほどなく退会。
- 一九三〇（昭和五）年 五月、鳥取で講演会。その途上、生田春月、自殺。一〇月、足助素一、死去。秋から年末、柳田の『明治大正史世相篇』の執筆を補助。

- 一九三一（昭和六）年 五月、『東筑摩郡道神図絵』（郷土研究社）刊行。  
十一月、日本プロレタリア文化聯盟（コップ）の創立に参加。
- 一九三二（昭和七）年 五月、「米よこせ運動」指導のため、北海道へ。帰京後、三週間の拘束。
- 一九三三（昭和八）年 九月、「木曜会」に参加。
- 一九三四（昭和九）年 一月、日本プロレタリア美術家同盟の解散を決議、三月に解散声明。八月、「全国山村生活調査」で静岡県周智郡気多村を訪れる。
- 一九三五（昭和一〇）年 七～八月、柳田国男の還暦記念で「日本民俗学講習会」を行う。官本常一と知り合う。この会の成功により、「民間伝承の会」が結成される。八月はじめ、同会および『民間伝承』の運営方針についての提言を行う。
- 一九三七（昭和一二）年 三月、「橋浦泰雄日本畫頒布会」が行われる。十一月、杉並区久我山に自宅兼アトリエを持つ。一二月二〇日、新宿の明治製菓屋上で五〇歳の誕生会が開かれる。
- 一九三八（昭和一三）年 一月、関東消費組合聯盟が解体決議。五月、因伯芸術家懇談会の結成に参加。九月、大藤時彦から『民間伝承』編集長を引き継ぐ。
- 一九四〇（昭和一五）年 六月、『日本評論』で、柳田、秋田雨雀らと座談会。  
十一月、因伯芸術家懇談会主催で「紀元二六〇〇年奉祝綜合芸術祭」を鳥取にて開催し、白井喬二、野村愛正らと講演。
- 一九四二（昭和一七）年 前年から大政翼賛会の委嘱により、「民間伝承の会」による「食習調査」。三月、『民間伝承』を六人社からの刊行に切りかえる。
- 一九四三（昭和一八）年 六月から「柳田國男先生古稀記念會」事業に従事。  
十一月、『民間伝承』に「日本民俗学の現段階と方法」発表。
- 一九四四（昭和一九）年 八月、空襲激化のため、『民間伝承』休刊。
- 一九四五（昭和二〇）年 一〇月、再建された日本共産党に入党。十一月、久我山生活協同組合を設立。
- 一九四六（昭和二一）年 東京都生活協同組合連合会を創立、理事長となる（翌年まで）。四月、『日本評論』に「天皇制と家

- 一九四七（昭和二二）年  
 族制度」を發表。八月、『民間伝承』が復刊する。三月、「木曜会」が民俗学研究所に発展改称するに際して代議員となる。同月、都議選に立候補、落選。九月、『民間伝承』に「政治と民俗学」を發表。この年、日本美術会を創立し役員を務める（五年まで）。
- 一九四八（昭和二三）年  
 一二月一四日、神奈川県登戸にて還暦記念会。
- 一九五〇（昭和二五）年  
 九月、日本民俗学会第二回大会で柳田国男、折口信夫とともに、名誉会員に推薦される。
- 一九五一（昭和二六）年  
 三月、都議選に立候補、落選。
- 一九五二（昭和二七）年  
 五月一日、メーデーに参加。八月下旬から和歌山県勝浦に滞在。
- 一九五三（昭和二八）年  
 一月一八日、前年の「血のメーデー事件」に於ける騒乱容疑によって勝浦で検挙。東京へ護送。数日で釈放される。
- 一九五八（昭和二三）年  
 秋、和歌山県太地町町長・庄司五郎の招きで「熊野太地浦捕鯨史編集委員会」に加わる。
- 一九六〇（昭和三五）年  
 七月、ソ連共産党からの招聘により、約一ヵ月間訪ソ団副団長としてソ連旅行（団長は江口渙）。
- 一九六二（昭和三七）年  
 一月、「五塵録」の連載が『日本海新聞』で始まる（一九六八年六月まで）。
- 一九六四（昭和三九）年  
 六月、太地町に赴き以後、二年間同町に滞在して捕鯨史編纂に従事。翌年、『鯨に挑む町』（平凡社）刊行。
- 一九六九（昭和四四）年  
 二月一〇日、弟・時雄死去。三月、『熊野太地浦捕鯨史』（平凡社）刊行。四月、「橋浦さんをねぎらう会」が西荻窪で開催される。
- 一九七三（昭和四八）年  
 六月、『季刊 柳田国男研究』にインタビュー「柳田国男との出会い」が掲載される。
- 一九七五（昭和五〇）年  
 九月、三回にわたって『赤旗』に「柳田国男と私」を發表。
- 一九七九（昭和五四）年  
 五月七日、鳥取へ帰郷。二〇日、鳥取市福祉文化会館にて鳥取民俗学会主催による講演（「民俗学の原点」）。一九日～二二日、同会館で橋浦泰雄回顧展。六月二日、帰京。十一月二一日、死去。享年九〇歳。東京青山の無名戦士の墓、小平霊園の橋

浦家墓所、和歌山県那智妙法寺の人民解放戦士之  
碑、そして故郷・鳥取県岩美郡岩美町岩本の橋浦  
家先祖の墓にそれぞれ納骨。

## 柳田民俗学の体制化の意味

### 「体制」の再検討

日本民俗学史の上で一九三〇年代後半とは、柳田国男の民俗学が飛躍的にその組織的基盤を整えていった時期である。

一九三五年の「民間伝承の会」設立、および機関誌『民間伝承』の創刊によって、柳田ははじめて地方末端に到るまで各地の郷土史家に影響を与える条件を持つにいたった。三六年には全都道府県に会員を獲得し、四〇年代に入るとその組織網は樺太、朝鮮、台湾、北京、満州、張家口にまで及んだ。とりわけ一九四二年から敗戦時にいたるまでの新入会員は飛躍的な伸びを示し、毎年、三〇〇名から七〇〇名を記録した。この過程で入会した会員は敗戦をはさんで、ほぼ変動することなく戦後、同会の復旧とともに、その活動を支えた。「民間伝承の会」が日本民俗学会へとスムーズに発展解消したことも、その背景には戦時下における組織基盤があった。

こうした推移を思想史の側から説明する時、再三強調されてきたのは、柳田民俗学とは、多くの地方研究者を民俗採集に専門特化させることで従属を余儀なくさせ、中央（東京）の柳田、ないし柳田直属の民俗学者たちが集積した民俗の記録を独占的に扱ったとする批判である。柳田民俗学を「一将功成万骨枯」の学とする岡正雄の位置づけも、この中から生まれてきたといえよう。しかしながら、ここでいま一度考える必要があるのは、こんにちから見て、戦時下という思想環境を見た場合、実証・経験に徹した学風を民間の側から守ったという点において、柳田民俗学は稀有の研究の場だったことである。これは戦中戦後を通して柳田に民俗の記録を送り続けた地方の郷土史家の意識とあいまって、検証すべき対象である。

ここから多少とも判明するのは、従来の柳田批判において、柳田民俗学という体制そのものに関する具体的な検証が十分なされないまま、「一将功成万骨枯」（「柳田国男との出会い」『季刊柳田国男研究』創刊号 一九七三年）という言葉が一人歩きしているという現状である。ここで問われてくるのは、その種の批判を行う場合にも、柳田民俗学の体制とはどこに特色があったのか、そしてそれはどの様に機能したのか、同時代の文脈に照応させながら分析する視角であろう。

体制化とは、往々にして一元的な理論のもとに統合された秩序が想定される場合が多い。郷土研究を対象とする時、それは採集された民俗事象が生活全般にわたっており、しかもそれらを送り出している場所に地域的な偏差がない、というシステムが確立されていることを意味する。しかし、こと「民俗」という経験的な領域を扱う場合、そうした組織の型はどれだけ郷土研究という現場との整合性を持ちえるのだろうか。この問いかけは矢張り避けて通ることはできない。どれだけその理論に基づいた組織原理に「権威」があろうと、一度は具体的に同時代の資料によってそれがどれだけ有効足りえたか検証されなくてはな

らない。

### 内的・外的要因

柳田民俗学の体制化を論じる際、ひとつ注意する必要があるのは、その体制化が決して柳田国男その人だけの手腕に帰せられるものではない、という点である。大正初期の『郷土研究』において表面化した共同編集者・高木敏雄との対立、あるいは大正末から昭和初期にかけて『民族』をめぐる顕在化した岡正雄との確執に見られる通り、柳田自身は民俗学の領分を過剰に意識する余り、異なる専攻の学者との軋轢を繰り返すことが多かった。確かに大正期から信州東筑摩郡を嚆矢として地域単位で地方研究者が柳田民俗学に傾倒することは起こっていた。しかし、それはあくまでも局地的なものに止まり、全国組織というには程遠い状況だった。

その柳田民俗学が何故、一九三〇年代に入るや、組織体として順調に発展をし続けたのか。内側の要因としてひとつ挙げられるのは、この時期から柳田が民俗学の方法について概説することに強い関心を示しだしたことであろう。一九三三年の連続講義「民間伝承論」にはじまるこの試みは、初めて総論的な立場から民俗学の目指す対象、そこに到る方法、ならびに研究者の在り方が系統付ける一方、大藤時彦、瀬川清子、大間知篤三ら少壮の民俗学者が聴衆となったことで、柳田は直接指導する弟子を持つとともに、地方研究者を結ぶ媒介項を得た。

これに加え、外的な要因として「民俗学会」をめぐる続いていた折口信夫、岡正雄らとの学会対立が、この頃になってようやく終息しつつあったことが柳田に幸いした。本来、折口はこの学会の中心に柳田を引き入れるべく期待をしていたが、『民族』の編集で論争点となった、地方研究者の育成と直截な採集報告を重視する柳田と、欧米民族学の成果を掲載することを優先する岡の対立は、そのまま「民俗学会」設立に持ち越される形で続き、柳田は同会に入会せず、機関誌『民俗学』にも寄稿しないというかたくなな態度を貫いていた。

「民間伝承論」が行われたのはちょうど、この対立関係が緩和しつつあった時期であり、「民俗学会」もまた、その活動を縮小・解消の方向へ向けようとしていた。こうした内外双方の条件が整うことによって、柳田民俗学は次なる段階として地方の組織化に乗り出していく。

### 「民間伝承の会」

一九三五年七月末から八月初旬にかけて行われた「日本民俗学講習会」は、柳田の還暦を記念して各都道府県からそれまで既知となっていた郷土史家を集めて、東京・日本青年会館で行われた、文字通り学界を挙げての一大事業だった。講習会の発表題目を見ると、『民族』時代、柳田と確執のあった文化人類学者と、連続講義「民間伝承論」以降、柳田が指導した民俗学者との「棲み分け」が明示されていることに気付く。日本国内において生活

習俗を採集することが民俗学の領分と定められており、両者の間に軋轢が起こる要素はなく、少なくとも柳田にとって、民俗学の領域が明確化されたことを窺わせる配置となっていた。

これ以外に毎日、その日の講習が終了すると、各地から集まった郷土史家を一堂に集めてテーマを絞って各地の習俗事例を思いつくままに出し合い、比較する茶話会が設けられ、参加した人士は互いに刺激を与え合った。会期が終わりに近くなるにつれ、会衆の間から全国的な民俗学研究の組織を作る声が聞かれ始め、これを受けて橋浦泰雄、宮本常一が周到な根回しをすることによって、「民間伝承の会」が設立される。

その際、橋浦が中心になって組織方針が採択されるが、この決定が柳田民俗学の体制そのものを大きく性格づけることとなる。橋浦が提案したのは、それまで各地で活動していた郷土研究会を尊重して、上からは敢えて支部を作らない、というものだった。ここで顕著となるのは、昭和初期における社会主義運動を特徴付ける上からの強い統制に基づくトップダウン型の組織作りが最初から想定されていないことである。なにより、従来の研究史において運動から離脱した旧無産主義活動家がかつての組織作りの才を郷土研究の体制化に発揮することで、柳田民俗学の基盤が固まったとする立場（福田アジオ 「日本の民俗学とマルクス主義」『国立歴史民俗博物館研究報告』二七集 一九九〇年）に立つならば、橋浦こそ、まさにその典型であるが、ここでは橋浦はそれらの組織論を排除し、敢えて従来の組織を援用する柔軟な方針を採択しているのである。

この方針に沿って、「民間伝承の会」は昭和十年代、全国各地に会員を浸透させていくが、その成功の淵源にあったのは、民俗学というすぐれて経験、事実立脚した領域に属する学問を体制化させる場合、組織作りの方法もその学風に拠りつつ、一人ひとりの地方会員の「顔」が見えるように、彼らとの交流を堆積させていく形式がふさわしいという判断が結成当初からなされていたことが大きいといえる。

したがって、柳田民俗学がこの時期作り上げた体制を文字通りの上意下達の組織と捉えることは、そこにいたる過程で積み重ねられた「民間伝承の会」事務局と地方史家との交流を見失わせることになり、一定の留保をつける必要があるといえよう。

### 古希記念事業

こうした組織方針によって成立した郷土研究体制は、官学アカデミズムとは別個に民間が考証的態度に立脚した場を確保するという点において、戦時下の思想環境として稀有の位相を占めることとなる。

その「完成点」ともいべきものが、一九四三年六月から計画された「柳田国男先生古希記念事業」である。一九四五年七月末に柳田が古希を迎えることをにらんで計画されたこの事業は、「民間伝承の会」設立一〇周年を記念する以外に、柳田の学風を顕彰するという意味で、民俗学・郷土研究だけでなく、歴史学、文化人類学、地理学その他の隣接分野以外にも、一部ジャーナリズム、政財界人を含んだ文字通り、柳田民俗学そのものに対し



てその学風に賛同するという相貌を持つものだった。事業運営について直接の陣頭指揮をとったのは、当時『民間伝承』編集長だった橋浦泰雄だった。実行委員に折口信夫を推戴し、実部面を橋浦泰雄ら「木曜会」主力メンバーが支え、発起人に石黒忠篤、那須皓、渋沢敬三、新村出、金田一京助らを擁する布陣に見る通り、ここに連なった面々はそれまでに柳田と交流を重ね、各自の政治的立場を超えて、経験的思考を守る柳田の民俗学に理解のあるという一点において結集したといつてよい。

事業の大きな骨子のひとつは、記念論文集の刊行である。この文集自体は戦後、一九四七年、『日本民俗学のために』の題名で全一〇巻が六人社から刊行されるが、原稿は既に四四年から各執筆者から寄せられており、ちょうど敗戦をまたぐ形で編集業務がなされた。四〇名以上に及ぶ執筆陣は、和辻哲郎、西岡虎之助、梅原末治などを例外とすれば、柳田と交流の深い郷土史家、民俗学者を基調としており、選択基準も時局にかかわらず、考証的態度を守っている人物か否かが問われたことを示す。一九四三年段階で各自が提出した論文題目と、四七年に刊行された時点での論文を見ると、その間に変更点がないことを見る通り、戦争に対する不易性がはからずも明示されている。それはまた、柳田民俗学が戦時中に占めた位相でもあり、昭和十年代において蓄積された柳田による郷土研究の体制における「成果」を示しているといつてよい。

#### 戦時下の東アジアへ 1. 満州

あくまで組織面から柳田民俗学を見た時、それが「最大版図」ともいうべき広がりを見せたのは、一九四三年から敗戦までの間である。その照合の尺度となったのが古稀記念事業のもうひとつの支柱である講演会だった。

八月七日に行われた打ち合わせ会では、それまで開催候補地として挙がっていた九州、近畿、東北のほか、新たに新京が付け加えられた。次いで九月二日、実行委員が柳田と協議した中で、さらに朝鮮、北京、台湾も加えられた。懸案事項となったのはここでも講師の選定であったが、折口によって、海外で「共同民俗学大会」を行う場合、現地と日本側と双方で選出する原則を出し、これが確認された。『民間伝承』九月号には事業の全貌が紹介され、発起人と実行委員の名前が掲載された。

以上の基本線に沿いつつ、十月から事務局は候補地との折衝に入った。候補地についておしなべていえることは、記念論文集と同様、柳田国男、そして柳田民俗学を人選上の尺度としている点である。その視野に沿いつつ、実行委員から見て信頼できる人物が候補地たるその場所に腰を据えて組織と研究の両面にわたる蓄積を持っているかが判断基準とされた。

最も早く候補地にのぼった新京は、満州建国大学で先に述べた大間知篤三が民族学を担当していた。

民俗学者として大間知を見た場合、柳田の許で全国山村生活調査をはじめとする一連の採集事業において、聞き取り、そして民俗語彙を中心とする柳田の調査方法を周到に守り、

草創期の民俗学の基盤を作った三〇年代、そして満州においてツングース系少数民族の調査に従事する中でそうした柳田の方法を捨て、民俗事象そのものの相互関係から分析を行う、社会学的方法を導入した四〇年代以降というおおまかな区切りがなされてきた。

その反面、大間知は満州において柳田民俗学の普及につとめようと努力しており、着任後も再三にわたって『民間伝承』に近況報告を投稿するほか、書簡によって柳田、橋浦に満蒙地域において民俗学に関心のある人士を紹介している。大間知の柳田民俗学への献身は、一九四二年五月、満州民族学会の結成にも如実に現れている。協和会民生部の協力を得て設立されたこの学会は、大間知にとってこの地における自らの二つの課題、すなわち新しく試行しつつあった調査方法と、柳田民俗学の組織的展開の双方を実現する場として認識されていた。

あくまで満州民族学会という組織運営から見た場合、大間知にとって懸案となったのは、柳田民俗学の浸透をはかるため、満州学会など、すでに満州で先行して発足していた有文学会、及び学界人との関係を円滑にしておくことだった。こうした配慮は古希記念事業が日程にのぼった時、ひととき重要度を増した。

一九四四年三月一〇日付で橋浦に宛てた書簡は、関係学会と絶えず良好な関係を保ちながら、新京の地に柳田民俗学を組織として認知させようとする大間知の苦慮が伝わってくる。すなわち、大間知はここでまず、当地における古希記念事業は、満州民族学会だけの主催とするのではなく、満州学会、満州心理学会の顔を立てて三学会共催とすること、したがって「講演会」もそれぞれの学会から一名ずつ出る形式がいいこと、その際、特に他の二学会からの講師は瀧川政次郎（満州学会会長）、千葉胤外（満州心理学会会長）とすることが望ましいため、東京からの講師は一、二名にならざるをえないことを伝え、敢えて「民間伝承の会」の影響を抑えたプログラムを薦めている。

大間知の入念な根回しの結果、新京での講演会は後述する北京での講演会との兼ね合いで四四年九月頃となった。しかしその後の戦局の悪化に伴う渡航難から新京での開催は中止された。

## 戦時下の東アジアへ 2. 台湾

台湾は平素、安易な海外事例との比較を厳しく戒めてきていた柳田が珍しく楽観的な視野を抱き、かつ比較民俗学を実践する場として有力視した地域として知られる。そして柳田が展望を披瀝したのが、『民俗臺灣』に集った台湾在住の日本人民俗学者との間で取り持たれた交流の場であった。

台湾における事業の策源地となったのは台北帝国大学である。一九二八年に設立された同大学は、文政学部にはハーヴァード大学で博士号を取得した文化人類学者・移川子之蔵によって土俗学講座が開設され、馬淵東一など少壮の学者が育ちつつあった。当初から発起人には台北帝国大学総長安藤正次が名を連ねていたが、台湾における古希記念事業の実質的な推進役となったのは、これも発起人の一人であり同大医学部教授をつとめる金関丈夫

だった。専攻は解剖学であったが、形質人類学から広くその視野は考古学、民俗学にまで及んでおり、また、台湾人学生を差別しない篤実な物腰をもって学内でも定評があった。

一九四一年、金関によって『民俗臺灣』が刊行されるに到った政治的背景には小林躋造総督時代の皇民化政策が、一九四〇年十一月以降、小林にかわって着任した長谷川清総督によって一部で緩和されるという環境上の変化があった。それまでの台湾人に対する日本文化強制が多少とも修正されたほか、それまでなおざりにされていた旧慣記録への意識が高まりつつあった時期でもあった。これらの事情を踏まえて『民俗臺灣』は創刊時より絶えようとする習俗保存を編集方針の中心に掲げ、これに賛同する一部台湾人研究者をすすんで同人に加えた。柳田から見て、異なる文化伝承を尊重する日本人と既存の民族を含んだ編集体制が、現地における調査活動とともにすすめられるこうした環境は、まさに自らの「世界民俗学」が実現可能な場として映ったはずである。

金関が発起人を内諾してから間もない一九四三年九月、橋浦泰雄は台湾在住の研究者の中から古希記念事業に何らかの形で参画できる人物がいないかどうか、探してほしいと依頼していた。ほどなく届いた金関からの返信にはそれに叶う人物として移川子之蔵、浅井惠倫、馬淵東一、池田敏雄、宮崎孝治郎、国分直一らが紹介されていた。ここで金関が見せた迅速かつ積極的な呼応は、『民俗臺灣』の側からも柳田が古希を迎えることをひとつの契機として、これを台湾における民俗研究の飛躍台にしようとしたことがうかがえる。

さらに同年一〇月一七日、金関は上京して柳田邸を訪れた。来訪の目的は『民俗臺灣』誌上における座談会「柳田國男氏を囲みて」を行うことだった。参加者は柳田、金関のほか、台北帝大教授の中村哲、『民俗臺灣』同人で東京高師教授の岡田謙、そして橋浦泰雄の計五名だった。

座談会記録は同年十二月の『民俗臺灣』に掲載されるが、この中で柳田は、ヨーロッパの民俗学が国際学会を発足させ、協同で研究が進められる素地を持っているのに対し、東アジアに同様の組織がいまだ確立されていないことを嘆き、そうした組織が生まれる求心力を持っている場所として台湾を挙げている。その要因として柳田は、日本のことを熟知した「本島人」の存在と、山岳の少数民族の分布などを掲げ、これらの条件を備えた台湾こそ「大東亜圏民俗学とでのいふやうなものを目標として進むには非常にいゝ稽古臺である」と、その地域的に優れた諸点を称揚する。日頃の柳田に似合わないこの楽観的な展望は、戦時下のアジア主義と柳田民俗学の連続性の典拠として研究史上、俎上に載せられることが多かった。しかし考慮しなくてはならないのは、この座談会自体が海外における古希記念事業の準備作業として行われていることであろう。

同じ座談会において橋浦が記念事業で計画された日本国内の地方大会のあらましを紹介しながら、「外地では此方で指導するといふことはいへませんから、連絡と提携の為めの大會を催したいと希望して居ります」と発言したことにみる通り、東京からの掣肘が加えられることのない運営が基礎となっていた。これは同時に、「民間伝承の会」結成時において各地に自生する研究会の連絡を重視した橋浦の組織案を援用したものといえる。

こうした脈絡から見えてくるのは、『民俗臺灣』という活気のある雑誌の強い学界興隆への編集意識が、そのまま古希記念事業と連動しているという新しい様相である。すでに『民間伝承』では古希記念事業の一環として毎号特定の民俗を題目にした特集を組んでいたが、「柳田國男氏を圍みて」において橋浦は、「その中の可能な問題なり共通の問題を豫め選定して、その結果を例えば満州、北京、臺灣といった所でお互に発表するといふことが出来れば大變有効で愉快だと思ひます」と発言し、共通課題を通じた各地との連携を模索し始めていた。この発言から間もない、翌四四年一月の『民間伝承』に「國際共同研究課題の提案」が掲載され、「異境人に對する款待」、「祖先に對する考へ方」、「結婚道德」の三項が立てられた。提案対象は「國外諸學會」となっていたが、これにやや遅れて『民俗臺灣』にも同じ提案文が掲載されたことから見て、明らかに『民間伝承』がこれに踏み切ったのは前年一〇月の座談会にあったと見てよい。

### 戦時下の東アジアへ 3. 北京

候補地の中で、北京は仮に実現されたならば戦時下のアジア地域における重大な精神的な対話が起りえた可能性を秘めている。一方は無論、柳田國男、そしていま一方の極にあるのは周作人である。周作人の名前は早くも九月二日の会合において、北京でもし大会を開くならば、周作人に連絡を取ることが実現の近道である、という意見を那須皓が出した段階で登場していた。ちょうど同席していた梅原末治が、ほどなく中国渡航を控えていたため、まず梅原を通じて事前に北京への根回しをはかることとなった。

周作人と日本民俗学のつながりについては長い前史がある。さかのぼって留学時代、三五〇部しか配られなかった『遠野物語』（一九一〇年）の初版本を購入しており、同時代の日本の文壇にさきがけて柳田の仕事が持つ獨創性に着目していた。帰国後は奉職先の北京大学内に自ら歌謡徵集處を設けて俗謡収集の拠点とした。三〇年代以降も日本民俗学の動向には常に注意を払っており、江間修の『山の民』（一九三八年）に注目して、江間の編集にかかる郷土研究誌『ひだびと』ほか、日本の各地方で発行されている主要な民俗雑誌にまで目を通し、それらの論考に行き届いた理解を示していた。

新京の大間知、台北の金関と同様、この地において実行委員たちとのパイプ役をつとめたのが直江広治である。直江は東京文理科大学学生時代から木曜会に出入りしており、卒業後は北京の日本人中学校を経て、北京輔仁大学文学院日本語文学系（日本政府による寄付講座）講師を務めていた。

輔仁大学はドイツ人研究者エーデルを中心に北京における民俗学研究の一大拠点として知られており、直江もまた講義のほか、大学付属の東方人類博物館研究員として民俗採集に従事していた。また、一九四三年の新学期からは日本文学以外に日本民俗学を分担し、ここで北京語による講義を試みようとしていた。その直江が「大会」に向けてその下準備として設立にかかわったのが東方民俗研究会である。会長に永井潜、幹事長に橋川時雄、顧問に周作人、坂本龍起、そして柳田と折口を配したこの学会は、「中華民國及東亞諸民族

ノ言語、風俗、習慣、信仰等ノ科学的研究ノ発達ニ資スルヲ以テ目的ト」していた。このほか機関誌として『東方民俗』のほか、折口と橋川を編集顧問に民俗叢書の刊行を計画されていた。

一方この時期、周作人の中で柳田の民俗学は特別な位相を占めていた。これより数年前、周作人はひたすら文学美術に頼って一国の文化を理解しようと努めてきた自身の行程に反省を加え、それら表象芸術の深層にある「感情生活」へ分け入っていくことの重要性に改めて気付いたとし、「もし捲土重来を期するなら、民俗学から入ってゆくほかない」（「縁日」『日本談義集』 平凡社東洋文庫 二〇〇二年 二二九―二三〇頁）とまで言い切っていた。

青年期に触れた柳田民俗学に対する愛着が三〇年以上を経て、再びこの時期、急速に強まっていったのも、柳田の創造した領域が良質で経験的な言語、そして美的形象の心によって語られる生活世界（＝生活感情）だったことが最大の要因だったのではないか。この点に於いて周と柳田は戦時下の北京と日本にあって、事実の上に立った精密な考証による日中文化比較を説く一方、裏付けなしのまま声高に叫ばれる「大東亜共栄圏」の構想については、民俗学的な視野から一定の留保を、それぞれ独自に取り続けていた。

ちょうど同じ時期、大東亜文学者会議が一九四二年から四四年まで三回にわたって開催され、周もまた再三出席を懇請されたが、関係者の高飛車な態度への辟易から、いずれも婉曲に断り続けていた。これらの事態を踏まえる時、周作人が「柳田先生招待のこと語りしに大賛成なり」と言ったのは決して儀礼的なものではなく、同じ戦時下の事業でも、方法・視点の上で独自の領分を守る柳田との交歓を望んでいたものだいえよう。この頃の周が個人的に柳田の「蝸牛考」と「日本の祭」の翻訳を思案中だったとの指摘はその傍証といえる（一九四三年一二月二日付 直江広治から橋浦泰雄宛書簡）。

北京での「大会」は一九四四年に入ると準備は具体的な事務折衝に入り、主催は東方民俗学会のほか、北京文化協会、翼賛会北京支部と決定した。特に熱心だったのが北京文化協会で旅費の北負担を申し出た。秋には柳田のところへ実行委員が何度も足を運び、北京行きについて協議している。渡航する講師陣は折口信夫、関敬吾、そして橋浦の三名が挙げられ、日程は一九四四年一月一〇日から三日間になった。しかし戦局の影響による渡航事情悪化に伴い、結局が繰り延べになり、一月一七日には折口が柳田邸を訪れ、北京行きを延期した旨を告げた。追い討ちをかけるように翌四五年四月以降、実行委員と北京との間で来信が途絶し、ここに講演会の中止はほぼ決定したと見られる。

### おわりに

一九三〇年代後半より、柳田民俗学は地方末端までその組織網を浸透させた。これを「体制化」と位置付け、柳田が多くの方研究者を従属的地位に追いやったことは、既に多くの先行研究で指摘されている。しかしながら、「民間伝承の会」結成時における申し合わせに見られる通り、その組織方針は地方にそれまで自生してきた郷土研究会を尊重し、それ

を横からつなぐという、柔軟なものだった。

支部を置かないこの組織案は、それら支部が活動を代替するという基盤をそもそも持たないため、各郷土研究会と個別に連絡を取り合う必要に絶えず迫られる。すなわちこの方針に沿う限り、事務局は常に各地の郷土史家と一対一で交信する必要があり、効率という側面から見れば、体制というには甚だ愚直とも言うべき側面を持っていた。しかし、地道な民俗採集という行為を媒介に郷土を繋いでいき、日本民俗学を構築するという展望の下では、この手間を惜しまず各地との連絡を行うこの方針こそ、まさに適合していたといえよう。

こうした組織は、もはや柳田単独ではその運用がむづかしい。各地の郷土史家から認知され、なおかつ彼等と交信する労を厭わない人物が、事務運営を肩代わりする必要があった。そして橋浦泰雄こそ、まさにそれに相応しい人材として戦時下の「民間伝承の会」をまとめたといえよう。

「民間伝承の会」がこの運営姿勢を維持する限りにおいて、戦時下の柳田民俗学は初発の考証的・経験的な学風を守る同時代でも稀有の組織体として独自の思想環境を守り抜くこととなる。一九四三年に計画された柳田の古稀記念事業は、その総決算としての意味を持ち、発企人・実行委員として名を連ねた人々は各自の政治的な立場とは別個に、柳田民俗学の持つ位相を理解してこれを守るという観点からこれに参画した。

さらにこの事業が海外の植民地まで拡大された時、柳田民俗学は組織面においてアジア規模で同好の士を束ねることができるか、というひとつの試練に向き合うこととなる。一九三〇年代のほとんどを柳田が「一国民俗学」に傾注してそのアジア的展開を遅らせたことは、それまでにアジア各地で基盤を整えていた異民族を対象とする研究環境に新規参入せざるをえない拘束条件を柳田民俗学に与えた。満州における大間知の苦慮はその一例である。

他方において「民間伝承の会」は、海外の植民地に向けて展開をはかる時、各地に自生する研究会を尊重するという一九三五年の結成段階で決定されたあの組織方針を、一部に組み入れて浸透拡大をはかった。台湾に寄せた柳田の強い期待感も、それまで金関丈夫によって形成されていた『民俗臺灣』における活況を反映しており、同地に信頼できる在来の研究会が出来上がっている、との観測を得ていたことが大きかった。あるいは北京においては、直江広治を媒介として周作人という稀有の理解者が居たことが、比較民俗学の実現にむけて大きな展望を柳田に与えたといえよう。

異郷の土地と日本が或る民俗事象に限ったとき、いきなり繋がることもある。これと同様に、信頼できる研究者であれば、異なる民族であっても交歓が可能である。しかし比較民俗学の構築と同様、この人的交流の輪もまた、ゆっくりと形作っていかなくてはならない。扱う対象と同様、担い手となる研究者についても柳田は慎重だったことがここから判明する。

敗戦と同時に、柳田の構想したアジア規模での民俗学はその少なくとも、研究組織とい

う面においてその可能性を絶たれた。しかしここで展開された柳田民俗学のアジア的拡大が同時代の民族研究と性格を異にしている最大の理由は、対象となるその地に柳田自身がその仕事の性格をよく理解していることが、支持を寄せる尺度となっていた点であろう。日本国内において地方末端まで整備された柳田の組織網が、ひとたび国外になると対象地域によって粗密の差が著しくなるのはそのためである。その意味でこのネットワークはすぐれて経験的な柳田民俗学の手法そのものを反映していたといえるのではないか。

## 橋浦泰雄 蔵書一覧

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
1	相川春喜小伝	相川春喜小伝刊行会	1955		
2	愛知県伝説集	愛知県教育会編	1937	郷土研究社	
3	マルコ伝 福音書	ケニ、イ一、アウレル	1918	米国聖書会社	
4	アイヌの伝説と其情話	青木純二	1924	富貴堂書房	
5	上代日本の社会及家族制度 前編	青木直記			
6	三つの魂	秋田雨雀	1918	文昭堂	
7	五十年生活年譜	秋田雨雀	1936	ナウカ社	
8	続秋田雨雀 その全仕事	秋田雨雀研究会編	1976	共栄社出版	
9	秋田雨雀 その全仕事	秋田雨雀研究会編	1975	共栄社出版	
10	足助素一集	秋田雨雀・吹田順助編	1931	足助たつ	中野重治が借りたもの
11	昭和十五年三宅島噴火記録	浅沼悦太郎	1941	六人社	
12	ジャパ勘定余話	浅野晃	1944	白水社	謹呈著者
13	人間裁判 死と生をかけた抗議/朝日茂の手記	朝日茂	1965	草土文化	
14	日本業書8 四季の気象	荒川秀俊	1945	生活社	
15	日本歴史概説	荒木俊馬	1943	山口書店	贈呈
16	創設十年	アリアンサ 移住地十年史刊行会	1936	信濃毎日新聞株式会社	
17	有島武郎著作集		1922	叢文閣	
18	有島武郎著作集		1914	新潮社	
19	小作問題対話	有馬頼寧	1923	日本教育者教会	
20	日本家族制度と小作制度	有賀喜左衛門	1943	河出書房	
21	近世俳句大索引	安藤英方	1959	明治書院	
22	佐久間象山の省録	飯島忠夫	1942	日本精神叢書	
23	日本民謡集	生田春月編	1921	越山堂	謹呈著者
24	円光以後	生田長江	1919	緑葉社	謹呈著者
25	西伯方言集	生田彌範	1943	縮葉書房	
26	辞海	郁文舎編集所	1914	郁文舎	
27	石	池上隆祐	1978	木耳社	謹呈出版社
28	信州の石仏	池田三四郎	1966	東峰書房	謹呈著者
29	露の末葉	石居芳雄編	1915	樹田屋印刷所	
30	町村誌編纂の栞	石川県図書館協会	1938	石川県図書館協会	
31	町村誌編纂の栞	石川県図書館協会	1938	石川県図書館協会	
32	町村誌編纂の栞	石川県図書館協会	1939	石川県図書館協会	
33	魚の世界・獣の世界	石川寅吉	1928	興文社	
34	島根	石塚尊俊	1973	第一法規	著者謹呈
35	たたらと鍛冶	石塚尊俊	1972	岩崎美術社	
36	日本の憑きもの	石塚尊俊	1959	未来社	謹呈著者



番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
37	日本文化論	石田英一郎	1969	成城大学	謹呈著者
38	こひに居る話	石塚尊俊	1947	山陰民俗学会	
39	油絵具の研究	石原正夫訳	1926	求龍堂出版部	謹呈著者
40	市川正一著作集 上	市川正一	1962	日本共産党中央委員会出版局	
41	市川正一著作集 下	市川正一	1963	日本共産党中央委員会出版局	
42	シンポジウム 日本国家の起源	石田英一郎編	1966	角川書店	
43	草上	伊藤うた	1947	草上書屋	
44	旅の趣味	伊藤喜久男	1939	旅の趣味会	
45	保谷村塾作品集 第一集	伊東月草編	1944	草上発行所	
46	保谷村塾作品集 第二集	伊東月草編	1944	草上発行所	
47	保谷村塾作品集 第三集	伊東月草編	1944	草上発行所	
48	昔話とわらべうた	伊藤信吉	1942	四元社	
49	鳥取の民話	稲田和子編	1976	未来社	
50	鳥取の民話	稲田和子編	1976	未来社	謹呈著者
51	伊那民俗業書第2集 昔ばなし	伊那民俗研究会	1934	信濃郷土出版社	
52	弘法表	稲村謙一編	1995	村田和雄	
53	家族制度と日本法(上)	井上和夫	1942	日本法理研究会	
54	家族制度の日本法(下)	井上和夫	1942	日本法理研究会	
55	民事法の原則と家族制度	井上和夫	1941	日本法理研究会	
56	民事法の原則と家族制度	井上和夫	1941	日本法理研究会	
57	俳句の國	井上洗耳	1945	目黒書店	
58	日本国家の起源	井上光貞	1960	岩波書店	
59	遠野方言誌	伊能嘉矩	1926	郷土研究社	
60	筑摩野の道祖神	今成隆良	1979	柳沢書苑	
61	松本平の道祖神	今成隆良	1975	柳沢書苑	
62	柳田国男編全国昔話記録 御津郡昔話集	今村勝臣	1943	三省堂	
63	ものと人間の文化史 絵馬	岩井宏美	1974	法政大学出版局	謹呈著者
64	沖永良部島昔話	岩倉市郎	1940	民間伝承の会	
65	下伊那観光案内	岩崎清美	1936	山村書院	
66	伊那の伝説	岩崎清美	1933	山村書院	謹呈著者
67	柳田国男編全国昔話記録 磐城昔話集	岩崎敏夫	1942	三省堂	
68	方言集録	岩田考三	1931		
69	聞書抄	岩村たづ子	1966	久松文庫	
70	因伯人情と国俗	因伯史話会編	1926	横山敬次郎書店	
71	実験写真術	上田貞治郎編	1916	上田写真機店	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
72	利根昔話集	上野勇編	1975	岩崎美術社	謹呈著者
73	硝子絵	内田六郎	1942	双林社	
74	愛吟	内村鑑三	1897	警醒社	
75	青年業書5 俗語の語源	梅垣実	1947	関書院	謹呈著者
76	青年業書11 京都のわらべ唄	梅垣実	1947	関書院	謹呈著者
77	講座歴史第四卷	江口朴郎・石母田正	1956	大月書店	
78	北方のビジョン	蝦名賢造	1966	らいらく書房	絵付き
79	山の民 第三部	江馬修	1940	飛騨考古土俗學會	乞御高評
80	山の民 第二部	江馬修	1939	飛騨考古土俗學會	謹呈
81	山の民 第一部	江馬修	1938	飛騨考古土俗學會	謹呈著者
82	飛騨の女たち	江馬三枝子	1942	三國書房	
83	白川村の大家族	江馬三枝子	1943	三國書房	
84	演劇博物館の菜	演劇博物館	1940	演劇博物館	
85	家族・私有財産及び国家の起源	フリードリッヒ・エンゲルス	1927	白揚社	
86	みちのくの長者たち	及川儀右衛門編	1957	未来社	
87	みちのく百姓たち	及川儀右衛門	1958	未来社	
88	館村誌	小井川潤次郎	1934	館村役場	
89	大銀杏 第二号	小井田 幸哉	1948	剣吉中・小学校	
90	孫文伝	王枢之	1931	改造社	
91	ソビエツト旅行記	大沢久明	1961	新読書社	
92	相互扶助論	大杉栄訳	1917	春陽堂	
93	國家と革命	大田黒研究所訳	1930	政治研究社	
94	大竹博吉 遺稿と追憶	大竹博吉	1961	大竹会	
95	支那習俗	太田陸郎	1943	三國書房	
96	言海	大槻	1904	吉川弘文館	
97	生協運動五〇年	大西信治	1978	神奈川県生活組合連合会	
98	民族心理学	大場千秋	1941	弘文堂	謹呈著者
99	柳田國男入門	大藤時彦	1973	筑摩書房	著者謹呈
100	児やらひ	大藤ゆき	1944	三國書房	
101	児やらい-産育の民俗-	大藤ゆき	1968	岩崎美術社	著者謹呈
102	神津の花正月	大間知篤三	1943	六人社	謹呈著者
103	八丈島-民俗と社会-	大間知篤三	1951	創元社	
104	日本家族制度の研究	大間知篤三	1939	国民思想研究所	
105	日本家族制度の研究	大間知篤三	1939	国民思想研究所	
106	大間知篤三著作集 第五卷	大間知篤三	1979	未来社	
107	大間知篤三著作集 第四卷	大間知篤三	1978	未来社	
108	大間知篤三著作集 第三卷	大間知篤三	1976	未来社	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
109	大間知篤三著作集 第二巻	大間知篤三	1975	未来社	
110	大間知篤三著作集 第一巻	大間知篤三	1975	未来社	
111	八丈島-民俗と社会-	大間知篤三		創元社	橋浦泰雄所持
112	山村生活調査第一回報告書	大間知篤三編	1935		橋浦保存用
113	山村生活調査第一回報告書	大間知篤三編	1935		
114	満州民族雑記	大間知篤三	康德11年	満州文芸春秋社	
115	二三日	大村豊吉・藤岡良三	1921	緑葉社	謹呈著者
116	共産部落の研究	大宅壮一記	1927	新潮社	
117	山東のむかしばなし	詩・岡崎純文・金田久章	1976	山東郵趣会	
118	筑波郡昔話集	小笠原謙吉	1942	三省堂	
119	原始社会	岡田謙	1939	弘文堂	
120	日本プロレタリア美術史	岡本唐貴 松山文雄編	1967	造形社	謹呈著者
121	熊野街道 志原川尻古話	岡本実	1972	講談社出版サービスセン ター	
122	人生問題総解決 人間学美術	岡本利吉	1931	純真社	
123	紅雀	小川未明	1923	集成社	謹呈著者
124	竹庵先生言行抄-祖母.伯父.母-	小川龍一	1979	小川とき	
125	因伯の木地屋 山陰文化選書1	荻原直正	1951	鳥取週報社	
126	因伯地名雑話	荻原直正	1953	鳥取週報社	
127	落花落城譜	荻原直正	1954	鳥取週報社	
128	百姓一揆年代記	荻原直正	1959	久松文庫	
129	改訂増補'日本生活協同組合史	奥谷松治	1973	民衆社	謹呈著者
130	日本消費組合年表	奥谷松治編	1934	協同組合研究所	
131	琉球玩具図譜	尾崎清次	1936	笠原小児保健研究所	謹呈著者
132	月明健康談	小澤覚輔	1942	月明会出版部	
133	統合プロレタリア芸術講座 2	小澤正元	1931	内外社	
134	炉辺随集	小田邦雄	1946	白都書房	謹呈著者
135	改訂新教育學	乙竹岩造	1924	培風館	
136	日本民俗学のために	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
137	日本民俗学のために 第2集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
138	日本民俗学のために 第3集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
139	日本民俗学のために 第4集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
140	日本民俗学のために 第4集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
141	日本民俗学のために 第5集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
142	日本民俗学のために 第5集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
143	日本民俗学のために 第5集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
144	日本民俗学のために 第6集	折口信夫代表	1947	民間伝承の会	
144	日本民俗学のために(完結編)	折口信夫	1951	日本民俗学会	
145	歌・俳句・諺	折口信夫・高浜虚子・柳田國男	1930	アルス	橋浦総子所有

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
146	明治文化史13風俗編	開国百年記念文化事業団編	1954	洋々社	謹呈
147	民法學概論	戒能通孝	1956	日本評論新社	
148	財産法研究に於ける二三の問題	戒能道孝	1942	日本法理研究会	
149	解放研究資料論文随筆集 1926年後半 期版	著者多数	1926	解放社	謹呈著者
150	現勢年鑑	解放社編	1927	解放社	
151	解放のいしずえ	「解放のいしずえ」刊行委員会	1956	解放運動犠牲者合葬追 悼会世話人会	
152	能田太郎氏追悼録	加賀治雄	1937	白水荘	謹呈親族
153	地名の語源	鏡味完二・鏡味明克	1977	角川書店	
154	笠原千鶴さんをしのぶ	故笠原千鶴氏追悼集編集委員 会	1967	故笠原千鶴氏追悼集編 集委員会	
155	啓明会第十五回講演集	笠森伝繁編	1925	啓明会事務所	
156	南方熊楠先生小伝	樫山茂樹編	1929	紀州政経社	謹呈著者
157	抗戦日記	鹿地二	1948	九州評論社	
158	片山潜著作集第一巻	片山潜生誕百年記念会編	1959	河出書房新社	
159	片山潜著作集第二巻	片山潜生誕百年記念会編	1960	河出書房新社	
160	片山潜著作集第三巻	片山潜生誕百年記念会編	1960	河出書房新社	
161	婦人の解放-のびゆくちから-	勝目テル	1948	社会書房	
162	仏トンボ去来 桂井和雄土佐民俗選集そ の一	桂井和雄	1977	高知新聞社	
163	土佐昔話集	桂井和雄	1948	高知日報社	
164	土佐風物考	桂井和雄	1959	高知新聞社	桂井和雄の名前入り
165	耳たぶと伝承	桂井和雄	1954	高知県社会福祉協議会	
166	明治大正時代国府村民俗語彙集	桂井和雄編	1961	土佐民俗学会	
167	岡山県下妊娠出産育児に関する民俗資 料	桂又三郎	1936	恩賜財団愛育会	
168	諸釜図會	桂又三郎	1938	文献書房	
169	沼田博士	桂又三郎編	1937	岡山歴史地理学会	
170	先駆者普意識	角石寿一	1977	民生館	
171	善光寺別富大歎進	加藤芳太郎編	1922	善光寺別富大歎進	
172	金井満 協同組合に生きる	金井満の思いで集刊行会	1978	金井満の思いで集刊行 会	
173	観光北海道	加畑勝太郎	1958	北海道新聞社	
174	神美村誌	神美村誌編算委員会	1957	兵庫県出石郡神美村役 場	
175	有島武郎-日本文学アルバム9-	亀井勝一郎・野田宇太郎・白井 吉見編	1955	筑摩書房	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
176	亀戸事件の記録	亀戸事件建碑実行委員会	1971	亀戸事件建碑実行委員会	
177	謡曲楽譜		1938		6冊組
178	因幡のふるさと 国府町の歴史と文化	川上貞夫	1968	矢谷印刷所	
179	因幡のふるさと 国府町の歴史と文化	川上貞夫	1968	矢谷印刷所	
180	岡盆の石堂	川上貞夫	1960	久松文庫	
181	岡盆の石堂	川上貞夫	1966	矢谷印刷所	謹呈著者 謹呈
182	干魚	川上純子			
183	日本の笑い話	川崎大治	1968	童心社	
184	日本の不思議話	川崎大治	1971	童心社	
185	家族法講話	川島武宣・磯田進	1950	日本評論社	
186	河原町誌	河原町誌編集委員会	1959	河原町役場	
187	消費組合必携 中巻	関東消費組合連盟編	1931	鉄塔書院	
188	消費組合必携 中巻	関東消費組合連盟編	1931	鉄塔書院	
189	関東消費組合連盟要覧	関東消費組合連盟編	1927	関東消費組合連盟教育出版部	
190	消費組合必携 上巻	関東消費組合連盟編	1937		
191	二戸の昔話	菊池勇	1937	二戸印刷局	
192	日本業書6 すまいの伝統	岸田日出刀	1945	生活社	
193	日本精神業書50 日本建築の特性	岸田日出刀	1943	文部省教学局	
194	伊豆の民話	岸なみ編	1957	未来社	
195	東江随筆	喜舎場朝賢	1927	球陽堂出版部	
196	裾花峽	北信濃保勝会編	1927	長野新聞社	
197	静物面選集	北原義雄	1930	アトリエ社	
198	和歌山文明開化展覧会出品目録	喜多村進	1935	十日会	
199	小達齋集	木戸忠太郎	1938	木戸達齋堂	柳田國男への謹呈著者 ハガキ入り
200	紀南詩集	紀南詩集編纂委員会編	1954	紀南詩集編纂委員会	
201	解放のいしずえ	紀南地方旧友会	1973	紀南地方旧友会	
202	道11号	紀南文芸の会	1967	紀南文芸の会	
203	反医療組合運動の社会性	木村靖二		全国医療組合協會	
204	竹の美異変のこと	木村博	1970	練馬郷土史研究会	
205	救援会小史 前編	救援会史編纂委員会	1970	日本国民救援会	
206	下北 自然・文化・社会	九学会連下北調査委員会	1967	平凡社	
207	郷土研究 第一冊(復刻版)	郷土会(郷土研究会)	1975	名著出版	
208	郷土研究 第二冊(復刻版)	郷土会(郷土研究会)	1975	名著出版	
209	郷土研究 第三冊(復刻版)	郷土会(郷土研究会)	1975	名著出版	
210	郷土研究 第三冊(復刻版)	郷土会(郷土研究会)	1975	名著出版	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
211	郷土研究 第四冊(復刻版)	郷土会(郷土研究会)	1975	名著出版	
212	プロレタリア芸術教程 第二収	饒平名知太郎	1929	世界社	贈呈
213	プロレタリア芸術教程 第三収	饒平名知太郎	1930	世界社	
214	衣川廣滋 鳥取郷土選書 第五編	桐林太郎	1960	久松文庫	
215	みちのく	草野心平編	1959	宝文館	
216	源氏と平家	楠山正雄	1925	富山房	
217	ファウスト第一部	久保菜詠	1948	中央公論社	謹呈著者
218	熊野の太地 鯨に挑む町	熊野太地補鯨史編算委員会	1965	平凡社	
219	国語と民俗学	倉田一郎	1942	青磁社	謹呈著者
220	農と民俗学	倉田一郎	1944	生活社	
221	農と民俗学	倉田一郎	1944	生活社	
222	福岡三九郎の話	胡桃沢友男	1956	筑摩書房	
223	信濃の年中行事を尋ねて	胡桃沢友男	1941	しなの川柳社	謹呈著者
224	罪刑法廷主義の日本法理的展開	久礼田益喜	1941	日本法理研究会	
225	農業共産制史論	黒正巖	1926	岩波書店	
226	協同組合運動への証言 下巻	桑原実編	1982	日本経済評論社	
227	協同組合運動への証言 上巻	桑原実編	1982	日本経済評論社	
228	お稲荷さん	桑山太市	1942	戯魚堂	
229	慶安太平記(1~20)				和綴じ
230	花咲ける武士道	神坂次郎	1963	春陽堂	謹呈
231	回想の江東消費組合	江東会	1979	江東会	
232	秋水文集	幸徳秋水	1926	解放社	贈呈
233	河31号	郡山文学会	1972	郡山文学会	
234	河32号	郡山文学会	1972	郡山文学界	
235	唯物論と弁証法-哲学入門-	モリス・コーンブォース	1954	理論社	
236	HISTORY OF JAPAN	国際観光局	1939	国際観光協会	
237	日本書目年報	国際文化振興会	1942	国際文化振興会	
238	學術の日本	国民學術協会編	1942	中央公論社	
239	人形文化資料展覧会目録	国立国会図書館編	1949	国立国会図書館	
240	黎明期の対滿移民	小寺廉吉			
241	伊豆伝説集 北豆の巻	後藤江村	1931	郷土研究社	
242	遠山論草稿	後藤総一郎	1972	白鯨社	
243	私たちの生活史衣服編	後藤守一	1948	八重山書店	
244	伊那農民騒動史	小林郊人編	1932	山村書院	
245	下野の昔話	小林農悟	1955	橡の表社	
246	玉石同架	小林存	1958	新潟県民俗学会	
247	常州龍ヶ崎地方俗信俚諺集	小林文夫	1951	民俗社	
248	北のまれびと 上巻	小山一男	1977	現代出版社	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
249	北のまれびと 下巻	小山一男	1977	現代出版社	
250	満州農村雑話	小山貞知編	1939	満州評論社	
251	野の花のように	近藤一男編	1978	こずえ	
252	一無政府主義者の回想	近藤憲二	1965	平凡社	
253	日本人の生活と迷信	今野田輔・森秀男	1955	技報堂	
254	暮らしと住居	今和次郎	1944	三國書房	
255	川越地方郷土研究	埼玉県立川越高等女学校	1938	埼玉県立川越高等女学校	
256	自然科学の旅	斉藤喜八	1939	日本旅行協會	
257	あられ酒	斉藤緑雨	1906	博文館	
258	伯嗜民談記	佐伯元吉	1927	横山敬次郎書店	
259	楽天囚人	堺利彦	1948	売文社	橋浦泰雄
260	世界の酒	坂口謹一郎	1957	岩波新書	
261	食用野生植物	坂庭清一郎	1942	料理の友社	
262	土佐泉川民俗誌	坂本正夫	1965	土佐民俗学会	
263	山村小記	向山雅重	1941	山村書院	謹呈著者
264	農業史-近代日本農業の歩み-	櫻井武雄	1956	新評論社	
265	文学新論	櫻井増雄	1969	全線社	謹呈著者
266	国語文化講座5国語生活編	櫻木俊光	1941	朝日新聞社	
267	漁人	櫻田勝徳	1942	六人社	
268	農民イ里	佐々木喜善	1934	一誠社	
269	筑前の伝説	佐々木滋寛編	1936	九州土俗研究会	
270	新選国語読本	佐々政一	1918	明治書院	
271	デジューンネンギョウジ	佐藤信淵	1967	東京書林	
272	ネゾオの記 1930年代・札幌 文化運動の回想	佐藤八郎	1976	佐藤八郎	謹呈著者・著者からの手紙入り
273	ネゾオの記	佐藤八郎	1976	佐藤八郎	メッセージ入り
274	田島神宮包	佐波古直胤	1943	佐賀県呼子町田島神社	
275	産業組合青年連盟の展望	佐原義雄	1934	開拓社	
276	コタン生物記 北方業書第3集	更科源蔵	1942	北方出版社	謹呈著者
277	飛騨探訪日誌	澤田四郎	1938	澤田四郎	謹呈著者
278	手向草	澤田四郎作	1939	澤田四郎作	
279	ふるさと	澤田四郎作	1931	澤田四郎作	
280	五倍子雑筆第1号	澤田四郎作	1934	澤田四郎作	謹呈著者
281	五倍子雑筆第2号	澤田四郎作	1934	澤田四郎作	謹呈著者
282	五倍子雑筆第3号	澤田四郎作	1935	澤田四郎作	謹呈著者
283	五倍子雑筆第4、5号	澤田四郎作	1936	澤田四郎作	謹呈著者
284	五倍子雑筆第6号	澤田四郎作	1938	澤田四郎作	謹呈著者

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
285	山でのことを忘れたか	澤田四郎作	1969	創元社	
286	続飛騨探訪日誌	澤田四郎作	1938	澤田四郎作	著者恵存
287	うっしばな	澤田四郎作	1941	小林積造	私家版
288	異国より帰りにて	澤田四郎作	1949	双輪印刷株式会社	
289	熊野の謎と伝説	澤村経夫	1981	工作舎	謹呈著者
290	あじなか随筆	山陰民俗の会	1944	日本出版	
291	米子の歴史	山陰歴史観運営委員会編	1962	山陰歴史館	
292	サヴェート・ロシアの農村問題	産業労働調査書記	1929	上野書店	
293	山村生活調査第一回報告書	著者多数	1938	大間知篤三	
294	プロレタリア科学辞典	山洞書院編集部	1931	山洞書院	
295	青年コミンテルンの綱領	産労京都支所訳	1930	マルクス書房	
296	秘録大逆事件 上	塩田庄兵衛・渡辺順三編	1959	春秋社	ブックケースは下と書いてある
297	秘録大逆事件 上	塩田庄兵衛・渡辺順三編	1959	春秋社	
298	日本庭園歴史	重森三玲	1943	晃文社	
299	北安曇郡郷土誌稿 第一集 口碑伝説編 第一冊	信濃教育会北安曇部会	1930	郷土研究社	
300	北安曇郡郷土誌稿 第五集 民謡童言葉編	信濃教育会北安曇部会	1933	郷土研究社	
301	北安曇郡郷土誌稿 第七集 口碑伝説編 第三冊	信濃教育会北安曇部会	1937	信濃毎日新聞社	
302	北安曇郡郷土誌稿 第八集 家及び労働の形態編	信濃教育会北安曇部会	1937	信濃毎日新聞社	
303	東筑摩郡誌別編第二 農村信仰誌 庚申念佛編	信濃教育会東筑摩部会	1943	六人社	
304	南安曇郡郷土調査書第1編 年中行事編	信濃教育会南安曇部会	1935	郷土研究社	
305	信濃怪奇伝説集	信濃郷土誌刊行会編	1934	信濃郷土誌刊行会	
306	信濃の民話 日本の民話1	「信濃の民話」編集委員会編	1957	未来社	
307	瞬間の累積 沢沢篤二明治後期の撮影写真集	沢沢敬三編	1963	慶友社	
308	東北犬歩当棒録	沢沢敬三	1955	産業経済新聞社	謹呈著者
309	日本釣漁技術史小考	沢沢敬三	1962	角川書店	
310	支那童話十三編	澁澤青花	1926	第一出版協会	
311	野良に叫ぶ	渋谷定輔	1964	平凡社	謹呈著者
312	父藤村と私たち	島崎翁助	1948	海口書店	
313	東海道パノラマ地図	清水吉康	1921	金尾文淵堂	
314	上代の土地関係	清水三男	1946	伊藤書店	
315	呼んでくれるな	清水亮	1959	矢谷印刷所	
316	山陰の古寺	下村章雄	1955	山陰古美術研究会	



番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
317	社会経済労働者評論	社会経済研究会	1931	叢文閣	
318	草の中の伝説	周はじめ	1971	法政大学出版局	
319	民俗座談	守随一	1937	民間伝承の会	
320	民俗座談	守随一	1937	民間伝承の会	
321	民俗座談	守随一	1937	民間伝承の会	
322	民俗座談	守随一	1937	民間伝承の会	
323	日本の民俗学的地位探求への新しき途	ウィルヘルム・シユミット	1935	国際文化振興会	
324	国際消費組合運動 1931年	城西消費組合連合	1932	叢文閣	
325	太地	庄司海村	1957	太地水産協同組合	
326	女の本	女性民俗学研究会編	1946	朝日新聞社	
327	監獄部屋打破の叫び	白石健次郎	1922	全国土工総同盟会	
328	山岳語彙	岩科小一郎	1940	体育評論社	
329	心境		1934	郷土研究社	
330	朗読詩集	新協劇團編	1947	大川書店	
331	綜合二千六百年史	神敬尚編	1939	日本評論社	
332	綜合二千六百年史	神敬尚編	1939	日本評論社	
333	毛沢東伝	新中国研究会編	1949	北窓書房	
334	日本の言葉	新村 出	1940	創元社	
335	分会巡回記	末光末雄遺稿		満州帝國協和會中央本部	
336	真澄遊覧記総索引 歳時篇	菅江真澄研究会	1946	菅江真澄研究会	
337	塩と生活	杉二郎	1946	生活科学化協会	
338	昭和11年10月現在会員名簿・付会則	杉並鳥取県人会	1936		
339	八頭郡史考	栖柴竹造	1923	横山書店	
340	柳田国男編全国昔話記録 直入郡昔話集	鈴木清美	1943	三省堂	
341	日向の伝説	鈴木健一郎	1933	文華堂	
342	仙台風俗誌	鈴木省三	1937	雨香園	
343	続仙産風俗志	鈴木省三	1945	鈴木雨香著書刊行会	
344	佐渡民間伝承書第2集 佐渡昔話集	鈴木業三編	1939	民間伝承の会	
345	柳田国男編全国昔話記録 佐渡島昔話集	鈴木業三	1942	三省堂	
346	川越地方昔話集	鈴木業三編	1937	民間伝承の会	
347	佐渡昔話集	鈴木業三編	1939	民間伝承の会	
348	意識をもった生命の思想 鈴木真洲雄・遺稿と追憶	鈴木真洲雄・遺稿と追憶編集委員会編	1976	鈴木真洲雄・遺稿と追憶編集委員会	
349	社会主義建設の為の闘争	スターリン プハーリン	1929	白揚社	
350	憑き物俗信 飛驒の牛蒡種	須田圭三	1969	須田病院	謹呈著者

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
351	村の青年学級	須藤克三	1954	新論評社	
352	ボヘミアン その人と神学	澄田健一郎	1957	キリスト者発行所	
353	漫画投書の手引き	須山計一	1936	日本漫画研究会発行	
354	山本宣治は議会に於いて何故闘争したか?	政獲労農同盟編	1929	希望閣	
355	日本の食文化 昭和初期・全国食事習俗の記録	成城大学民俗学研究所	1990	岩崎美術社	謹呈著者
356	日本の食文化 補遺編	成城大学民俗学研究所	1995	岩崎美術社	
357	世界地理風俗大系 第8巻 ソビエト・ロシア	著者複数	1930	新光社	
358	世界地理風俗大系1	著者複数	1930	新光社	
359	世界文化地理大系3 日本2関東	著者複数	1957	平凡社	
360	漁村生活と婦人	瀬川清子	1946	中央水産業会	
361	村の女たち	瀬川清子	1970	未来社	謹呈著者
362	女のはたらき	瀬川清子	1962	未来社	謹呈著者
363	販女	瀬川清子	1943	三國書房	
364	海女記	瀬川清子	1942	三國書房	
365	しきたりの中の女	瀬川清子	1961	三彩社	謹呈著者
366	海女	瀬川清子	1955	古今書院	謹呈著者
367	見島聞書	瀬川清子	1938	民間伝承の会	
368	食生活の歴史	瀬川清子	1956	講談社	謹呈
369	沖繩の婚姻	瀬川清子	1969	岩崎美術社	謹呈著者
370	日間賀島民俗誌	瀬川清子	1951	刀江書院	謹呈
371	女の民俗誌	瀬川清子	1980	東京書籍	
372	女の民俗誌	瀬川清子	1980	東京書籍	
373	きもの	瀬川清子	1942	六人社	
374	若者宿娘宿聞書	瀬川清子	1935	大日本連合青年團調査部	
375	昔話研究 第二巻	関敬吾	1937	民間伝承の会	
376	柳田国男編全国昔話記録 島原半島昔話集	関敬吾	1942	三省堂	
377	若者宿調査報告	関敬吾	1935		
378	上泉氏武話	妹尾辰編	1936	岡山歴史地理学会	
379	前進する印刷出版労働者	全印総連東京地方連合会編	1968	日産グラフィヤ印刷社	
380	戦旗 別巻(資料編)	戦旗復刻版刊行会	1977	戦旗復刻刊行会	謹呈著者
381	消費生活協同組合法解説と批判	全東京都購買利用組合連合会 企画調査室	1949	全東京都購買利用組合 連合会	
382	紀南民俗学の書	雑貨貞次郎	1942	政経社	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
383	牟婁口碑集	雑賀貞次郎	1941	政経社出版	
384	小倉正夫遺稿集	葬儀委員会遺稿刊行部		小倉正夫葬儀委員会	私家版
385	郷土伊豫と伊豫人	曾我正堂	1942	郷土文化と古典の会	
386	Jarkvio de la Oktobra Revolucio.	L.SOSNOVSKI.	1923	Eldono de centra Komitato	
387	労働	エミール・ゾラ	1920	叢文閣	
388	朝鮮神歌遺編	孫晋泰	1930	郷土研究社	
389	朝鮮民伝集	孫晋泰	1929	郷土研究社	
390	熊野太地浦捕鯨乃話	太地五郎作	1937	紀州人社	
391	若者制度の研究	大日本連合青年団	1936	大日本連合青年団	
392	山袴の話	大日本連合青年団	1937	大日本連合青年団	
393	四國路	田岡典夫編	1962	宝文館	謹呈出版社
394	日本業書3 郡司成忠大尉	高木卓	1945	生活社	
395	日本伝説集	高木敏雄	1913	郷土研究社	
396	赤木忠春大人伝	高野隆文	1915	吉田書院	
397	全国郷土玩具目録	高橋一作	1940	旅の趣味会	「全国郷土玩具番付」「こけし作者 番付」添付
398	ヘッセ詩画小編	高橋健二訳編		木耳社刊	
399	山と人と生活	高橋文太郎	1943	金星堂	謹呈著者
400	資本論第一巻	高島素之		新潮社出版	
401	英国法におけるキングの地位	高柳賢三	1941	日本法理研究会	
402	明治初年に於ける家族制度改革の一研究	高柳眞三	1941	日本法理研究会	
403	技術史話雑稿	多賀義憲	1943	北光書房	柳田國男への献辞
404	滝川貞蔵遺稿 熊野・太地の伝承	滝川貞蔵	1982	沢村経夫	謹呈
405	鹿野小誌	瀧中菊太郎	1928	鹿野小誌社	
406	尋常三年生の試みたる村の調べ	竹内利美編	1936	白塔社	柳田國男への謹呈著者 封書入り
407	鳥取県文芸史	竹内道夫	1975	牧野出版社	
408	山梨農民運動史	竹川義徳	1934	大和屋書店	
409	富士見村民俗聞書 甲斐民俗業書5	竹川義徳	1957	山梨民俗の会	
410	讃岐の民話	武田明編	1958	未来社	
411	西讃岐昔話集	武田明編	1941	郷土研究社	
412	東京の伝説	武田静澄 安西篤子	1977	角川書店	著者恵存
413	民俗慣行としての隠居の研究	竹田旦	1964	未来社	
414	ノイエ・ザハリカイト4	武田忠哉	1936	ノイエ・ザハリカイト学舎	
415	原始的民俗の秘密講	田崎仁義	1915	実業の世界社	
416	東方民俗業書1 北京地名誌	多田貞一	1944	新民印書館	謹呈著者
417	東方民俗業書1 北京地名誌	多田貞一	1944	新民印書館	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
418	総合プロレタリア芸術講座	橘篤郎	1931	内外社	
419	新児童文化	巽聖歌編	1942	有光社	
420	錦とボロの話	龍村平蔵	1967	学生社	謹呈著者
421	因泊の年中行事	田中新次郎	1956	稲葉書房	
422	旅	田中新次郎	1965	中央印刷株式会社	謹呈著者
423	因幡の摩尼寺	田中新次郎	1958	鳥取県民俗研究会	
424	二上山	田中日佐夫	1967	學生社	謹呈著者
425	日本業書4 雨ニモマケズ	谷川徹三	1945	生活社	
426	陰翳礼讃	谷崎潤一郎	1939	創元社	
427	旅の趣味	旅の趣味会	1942	旅の趣味会	
428	近代日本における家族構造 資本制生産の発達と「家」	玉城肇	1956	酒井書店	謹呈著者
429	満州親族相統法の要綱	千種達夫	1942	日本法理研究会	
430	遊撃戦の基礎戦術	中国問題研究会	1951	中国問題研究会	
431	アイヌ民談集	知里眞志保	1937	郷土研究社	
432	妻を欺く	塚原健二郎	1949	櫻井書店	謹呈著者
433	新論の思想と政策	塚本勝義	1943	日本精神叢書	
434	甲斐昔話集	土橋力	1930	郷土研究社	
435	大正十年府縣別小作慣行調査集成 上	土屋番雄	1942	栗田書店	
436	大正十年府縣別小作慣行調査集成 下	土屋番雄	1943	栗田書店	
437	日本歴史の再建	土屋橋雄	1947	新歴史協會	
438	少年少女世界ことわざ百科 日本のことわざ	坪田讓治	1961	弘文堂	
439	山梨県都留市金井の民俗	都留文科大学民俗学研究会	1967	都留文科大学民俗学研究会	
440	民俗学入門	ヴァルター・ディーター	1960	弘文堂	
441	伝統芸術講座第四巻民俗芸能	伝統芸術の会編	1954	河出書房	
442	あなたの借地借家相談室	東京借地借家借間人組合連合会	1977	水曜社	
443	中野区史 昭和編 一	東京都中野区	1971	東京都中野区	謹呈著者
444	コンテラノ第一回大会宣言	東條俊三訳	1929	上野書店	
445	第一回講演論文集	東條操	1941	日本方言学会	
446	第二回講演論文集	東條操	1941	日本方言学会	
447	秋田県の迷信、俗信	東北更新会秋田県支部編	1939	東北更新会秋田県支部編	
448	秋田県の迷信、俗信	東北更新会秋田県支部	1939	東北更新会秋田県支部	
449	世界大衆文学全集永遠の都	戸川秋骨	1930	改造社	
450	於竹大日如来	戸川安章	1938	羽黒山史研究会	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
451	羽州羽黒山中覚書	戸川安章	1941	羽黒山史研究会	
452	羽州羽黒山中興覚書	戸川安章	1941	羽黒山史研究会	
453	羽黒山二百話	戸川安章	1972	中央企画社	
454	伝説と考証 於竹大日如来	戸川安章	1938	羽黒山史研究会	
455	岡山県邑久郡方言	時実黙水	1934	中国民俗学会	
456	岡山県邑久郡方言	時実黙水	1934	中国民俗学会	
457	太藪 第四巻 第一号	徳田泰次郎	1940	太藪発行所	
458	普天隨筆	戸倉普天	1943	不朽洞	柳田国男への著者謹呈
459	戸沢仁三郎	「戸沢仁三郎」編集委員会	1974	三秀舎	
460	十島岡譜	十島村役場編	1933	単美社	
461	日本社会事彙 上巻之一	図書刊行会	1975	図書刊行会	寄贈
462	日本社会事彙 上巻之二	図書刊行会	1975	図書刊行会	寄贈
463	日本社会事彙 下巻之一	図書刊行会	1975	図書刊行会	寄贈
464	日本社会事彙 下巻之二	図書刊行会	1975	図書刊行会	寄贈
465	家族と村落	戸田貞三 鈴木栄太郎	1939	日光書院	
466	大岩教育	鳥取県岩見郡岩美町立大岩小学校	1962	鳥取県岩美郡岩美町立大岩小学校	謹呈著者
467	百年の年輪 鳥取県民の歩んできた道	鳥取県鳥取市	1968	鳥取県鳥取市	
468	続甲斐昔話集	土橋里木	1936	郷土研究社	
469	春秋文庫26 現代美術論集	外山卯三郎	1929	春秋社	
470	国史辞典 一	富山房国史辞典編集部編	1940	富山房	
471	国史辞典 二	富山房国史辞典編集部編	1940	富山房	
472	国史辞典 三	富山房国史辞典編集部編	1942	富山房	
473	国史辞典 四	富山房国史辞典編集部編	1943	富山房	
474	豊原五郎獄中からの手紙	豊原五郎をたえる会	1964	刀江書院	
475	伊那郷土文庫1 飯田のおねり祭り	鳥寒三郎	1938	山村書院	
476	楽郊紀聞1 対馬夜話	中川延良	1977	平凡社	
477	山梨県の道祖神 甲州の石仏	中沢厚	1973	有峰書店	
478	因伯民俗調査郷土研究紀要1	中島正賢	1939	鳥取県師範学校	
479	徳川時代の文学と私法	中田薫	1923	成光館出版	
480	日本業書1 霜柱と凍上	中谷宇吉郎	1945	生活社	
481	日本の郷土玩具	永田久光	1956	創元社	
482	大自然にはばたく 野鳥の四季	中西悟堂編	1958	小学館	
483	小品十三件	中野重治	1970	河出書房新社	謹呈著者・著者からの手紙入り
484	夜明け前のさよなら	中野重治	1937	改造出版	謹呈著者
485	現代日本のエッセイ 風前雨後	中野好夫	1976	朝日新聞社	
486	奥偶奇伝	中道等	1929	郷土研究社	
487	日本固有の法理確認の可能性	中道弘道	1942	日本法理研究会	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
488	むらの四季と祭り	中村吉次郎	1969	家の光協会	
489	日本人と魚食	中村吉次郎	1943	月明会出版部	
490	新露西亜語講話	中村莊太郎・古田信治	1927	日露芸術協会	
491	宮崎安貞	中村吉次郎	1944	多摩書房	
492	故松山幸重記 北炎ニュース特集号	奈良憲	1974	日本文主義文学同盟 北支部	謹呈著者
493	西陣	奈良憲編	1977		謹呈著者
494	一社会運動家の回想	難波英夫	1974	白石書店	
495	ロシア大革命史 第三卷	南蛮書房編集部	1931	南蛮書房編集部	
496	家と戸籍	新見吉治	1942	日本法理研究会	
497	アッジの聖クララ	二階堂眞一	1921	叢文閣	
498	西岡先生追想録	西岡由紀男	1971	中央公論事業出版	
499	村の遊び-民俗芸能の見方-	西角井正慶	1966	岩崎美術社	謹呈
500	村の遊び	西角井正慶	1943	三國書房	
501	航路二十年-婦人民主クラブの記録- 文学・哲学・史学・文献日録 日本文学 篇	二十年史編算委員会 日本学術会議	1967	婦人民主クラブ 日本学術会議	
502			1955		
503	日本共産党綱領集	日本共産党中央委員会宣伝教 育部	1957	新日本出版社	
504	マルクス=レーニン主義の基礎 3	日本共産党中央委員会宣伝教 育部訳	1960	日本共産党中央委員会	著者謹呈
505	藤森成吉追悼集	日本国民救援会	1977	日本国民救援会	
506	難波英夫追悼集	日本国民救援会	1972	日本国民救援会	
507	反動期における消費活動運動	日本消費組合連盟	1934	鉄塔書院	
508	現代日本生活協同組合運動史	日本生活組合連合会	1964	日本生活組合連合会	
509	現代日本生活協同組合運動史	日本生活組合連合会	1964	日本生活組合連合会	
510	日本美術叢書(1) 動物虫魚之巻	合名会社芸艸堂美術出版部編	1828	合名会社芸艸堂	
511	日本プロレタリア詩集1931	日本プロレタリア作家同盟	1931	戦旗社	
512	日本の民衆文芸	日本文学協会編集	1954	東京大学出版会	
513	明治初期の裁判を語る	日本法理研究会	1942	日本法理研究会	
514	日本国家の法理的考察	日本法理研究会	1944	日本法理研究会	
515	日本文学大系6 生活と民俗1	著者多数	1958	平凡社	
516	離島生活の研究	日本文俗学会編	1966	国書刊行会	
517	祖国認識の旅	日本旅行協会	1938	日本旅行協会	
518	血の呻き	沼田流人	1923	叢文閣	
519	天皇家の歴史	ねずまさし	1953	新評論社	
520	続天皇家の歴史	ねずまさし	1953	新評論社	
521	第二天皇家の歴史	ねずまさし	1954	新評論社	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
522	稗食の研究	農村更正協会	1941	農村更正協会	
523	部落と傳記指導	農村更正協会	1939	農村更正協会	
524	旧慣守に依る農業水利調整事例 第一集	農林省農政局	1941	農政省農政局	
525	鳥取県童謡集	野坂薫・京極社藻	1954	稲葉書房	
526	野坂参三のあゆんだ道	野坂参三資料編纂委員会編	1964	新日本出版	謹呈著者
527	村の女性	能田多代子	1943	三國書房	謹呈著者
528	青森県五戸語彙	能田多代子	1963	佐藤森三	
529	能田多代子著作集	能田多代子	1967	津軽書房	
530	みちのくの民俗—南部・五戸の話—	能田多代子	1969	津軽書房	
531	手つきり姉さま	能田多代子編	1958	未来社	
532	黒い流	野村愛正	1919	新潮社	謹呈著者
533	野呂栄太郎全集 上	野呂栄太郎	1965	新日本出版社	
534	野呂栄太郎全集 下	野呂栄太郎	1967	新日本出版社	
535	獄中日記1945年	袴田里見	1975	新日本出版社	
536	党とともに歩んで	袴田里見	1968	新日本出版社	謹呈著者
537	郷土の風習	萩原龍夫	1948	世界社	
538	昔話研究 第一巻	萩原正徳	1936	三元社	
539	上田市付近の伝承 長村郷土資料	箱山貴太郎	1973	上田小泉資料刊行会	謹呈著者
540	歌集 同行	橋浦昌雄	1961	新評論社	
541	東筑摩郡道神図絵	橋浦泰雄編	1931	郷土研究社	自用
542	東筑摩郡道神図絵	橋浦泰雄編	1931	郷土研究社	校正用
543	古代国語の音韻について	橋本進吉	1941	神祇院	
544	唯物史観 日本歴史	橋本弘毅・早川次郎談	1936	白揚社	
545	萩の郷土料理	波多放彩	1967	萩市郷土博物館友の会	
546	日本の民謡	服部知治	1951	三一新書	
547	協同組合運動の潮流	服部知治	1979	日本経済評論社	
548	松本及び安曇地方 修学遠足 前編	羽場金重郎	1934	大成堂書店	
549	雪国 濱谷浩写真集	濱谷浩	1956	毎日新聞社	
550	アイスの民俗	早川昇	1970	岩崎美術社	
551	周防大島方言集	原泰雄著 柳田國男編	1943	中央公論社	
552	神約全書	エフ・パロット	1905	大英・北英 聖書会社	
553	維新勤王史蹟巡	東田清三郎	1935	京阪電気鉄道株式会社 運輸課	
554	東筑摩郡家名一覽	東筑摩部会編	1929	郷土研究社	
555	島 昭和九年前期	比嘉春潮 柳田國男	1934	「島」発行所	
556	黒田人形	日下部新一	1940	山村書院	
557	追想 平田良衛	著者複数	1978	一同舎	謹呈著者

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
558	民俗学入門	R・W・フアース著 須山卓訳	1943	慶應書房	
559	風土記日本 第1巻 九州・沖縄編	著者多数	1957	平凡社	
560	岩手の民話	深澤紅子・佐々木望共編	1957	未来社	
561	福井県の民謡	福井県民俗学会	1967	福井県民俗学会	請求書付き
562	山都年中行事	福田夕咲	1936	飛騨考古土俗学会	
563	私の歩んだ社会主義への道	福永寿雄	1978	中央印刷	
564	新宮地方方言集	福原種吉 中畑幸夫	1938	和歌山県立新宮高等学校	
565	唯物論者のみた鳥	福本和夫	1952	出版東京	謹呈著者
566	日本捕鯨史話	福本和夫	1960	法政大学出版局	
567	香川県民俗誌	福家物衛	1954	四国公論社	
568	生活と民俗の歴史	藤沢衛彦編	1955	新評論社	
569	生活協同組合経営論	藤田逸男	1948	日本協同組合同盟	謹呈著者
570	少年の群	藤森成吉	1924	家庭学校	謹呈著者
571	飢	藤森成吉	1933	叢文閣	
572	蟬じぐれ	藤森成吉	1961	春秋社	謹呈著者
573	五島近古年代記	藤原兵衛	1932	大阪製版書	
574	共産党事件に対する批判と抗議	布施辰治	1929	共生園	
575	民俗学入門	ブツネエジ	1932	郷土研究社	
576	加無波良夜談	文野白駒	1932	玄久社	
577	東遊雑記	古川古松軒	1964	平凡社	著者拝呈
578	日本封建農業史	古島敏雄	1941	四海書房	柳田國男への著者謹呈
579	日本業書2 血液型	古畑種基	1945	生活社	
580	写真日本文化史9 民俗資料	文化財協会	1955	日本評論新社	
581	日本民俗地図 1	文化庁	1969	国土地理協会	
582	日本民俗地図 2	文化庁	1971	国土地理協会	
583	文化地理大系日本シリーズ1 北海道・東北	著者複数	1958	平凡社	
584	文化地理大系日本シリーズ4 近畿	著者複数	1958	平凡社	
585	文化地理大系日本シリーズ5 中国四国九州	著者複数	1958	平凡社	
586	広島悲歌	細田民樹	1949	世界社	謹呈著者・写真添付
587	戦争未亡人	細田民樹	1949	漢書房	謹呈著者
588	唯物史観世界史教程	ボチャロフ ヨアニアニ	1932	白揚社	著者謹呈
589	山の神信仰の研究	堀田吉雄	1966	伊勢民俗学会	
590	ソビエトの東洋学者のみた日本上巻	コンスタンチン・ボポフ	1970	イスクラ産業	
591	ソビエトの東洋学者のみた日本下巻	コンスタンチン・ボポフ	1970	イスクラ産業	



番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
592	昔話の研究	堀江駒太郎編	1939	広島師範学校郷土研究室	
593	新しい人間像の探求	本田喜代治	1955	培風館	謹呈著者
594	一茶はろたふ	前澤淵月	1933	研究社	
595	信濃昔話集	牧内武司	1939	山村書院	
596	日本固有法の	牧健二	1941	日本法理研究会	
597	九津見房子の曆	牧瀬菊枝編	1975	思想の科学社	
598	海の民俗学	牧田茂	1954	岩崎書店	
599	神と祭り日本人	牧田茂	1972	講談社現代新書	謹呈著者
600	生活の古典-民俗学入門-	牧田茂	1952	角川書店	
601	大東亜法秩序と民俗	増田福太郎	1941	日本法理研究会	
602	河原町誌	町史編算委員会	1954	河原町役場	
603	日本民謡集成	町田嘉章 編著	1940	日本民謡レコード分布会	
604	鯨	松浦義雄	1944	創元社	
605	明治初期の鳥取県政	松尾茂	1961	久松文庫	
606	子供愛育展覧会記念調	松川照夫	1936	恩賜財団愛育会	
607	三州奥郡風俗図絵	松下石人	1936	正文館書店	
608	因幡の人形芝居	松田重雄	1959	久松文庫	
609	ハンセンエホン 誰のために	松山文雄	1931	日本プロレタリア美術同盟出版部	
610	農民は都会人にならうたえる	松丸志摩三	1953	新評論社	
611	農民の暮らしと考え	松丸志摩三	1955	新評論社	
612	因泊の民謡	松本穰葉子	1960	久松文庫	
613	渋澤子爵座談要領	松本觀光協会	不明	松本觀光協会	
614	社會科學入門	松本金次郎・松本正雄	1949	東峰書房	
615	コミンテルンの指導原理・規約	松本信夫訳	1931	南蛮書房	
616	過去と記憶 ファシズムと闘った人びと	松本正雄	1974	光和堂	謹呈著者
617	安保廃棄への道	松本善明	1969	みどり書房	謹呈著者
618	柳瀬正夢	まつやまふみお	1956	五味書店	謹呈著者
619	基督教文學鑑賞文選	間山秀麿	1935	厚生閣	
620	野戦風情	丸山 学	1940	倭書院	
621	讃岐民話集	三木春露	1944	旅行文化出版社出版部	
622	越後の民話	水澤謙一編	1957	未来社	
623	食べられる草木(下)	水野葉舟編	1943	月明文庫	
624	食べられる草木(上)	水野葉舟	1942	月明会出版部	
625	塊記の茶料理	水谷川忠麿編	1944	月明会出版部	
626	アイヌの足跡	満岡伸一	1924	三好竹勇	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
627	大阪府下年中行事集	南要	1939	和泉郷土研究会	
628	大池蚕雄遺稿集	宮尾厚	1978	大池蚕雄遺稿集刊行会	
629	風俗画報総覧	宮尾しげを	1942	三元社	
630	私刑類纂	宮武外骨編	1921	成光館	
631	かぶりもの・きもの・はきもの	宮本馨太郎	1968	岩崎美術社	
632	村里を行く	宮本常一	1943	三國書房版	
633	民俗学の旅	宮本常一	1978	文芸春秋	
634	絵巻物に見る日本庶民生活誌	宮本常一	1981	宮本アサ子他	発行者挨拶状込み
635	家郷の訓	宮本常一	1943	三國書房	
636	日本の村	宮本常一	1953	筑摩書房	
637	甘藷の歴史 日本民衆史7	宮本常一	不明	未来社	
638	開拓の歴史 日本民衆史1	宮本常一	1963	未来社	
639	民間暦	宮本常一	1942	六人社	
640	私の日本地図12 瀬戸内海4	宮本常一	1973	同友館	
641	私の日本地図8 沖縄	宮本常一	1970	同友館	
642	民具学の提唱	宮本常一	1979	未来社	
643	ふるさとの生活	宮本常一	1950	朝日新聞社	謹呈著者
644	民俗学への道	宮本常一	1955	岩崎書店	
645	周防大島昔話集	宮本常一	1956	大島文化研究連盟	
646	世界大衆文学全集ステラ・ダラス ラ・ボ エーム	ブローチャー、ミコルゼ	1928	改造社	
647	日本民族図録	民俗学研究所	1955	朝日新聞社	
648	民俗学新講	民俗学研究所編	1947	民俗学研究所	
649	民俗学研究	民俗学研究所	1950	民俗学研究所	
650	民俗学研究 第二集	民俗学研究所	1951	民俗学研究所	
651	民俗学辞典	民俗学研究所編	1951	東京堂	
652	民俗学手帖	民俗学研究所編	1954	古今書院	
653	伝承文芸	民俗学研究会編集委員	1970	國學院大學民俗文学研 究会	
654	秋田農民一揆史	武藤鉄城	1937	秋田県農業会	
655	砂と人と風紋と 砂丘文学昭和史	村尾草樹	1975	村尾草樹	謹呈
656	信濃の伝説	村澤武夫	1942	山村書院	贈呈
657	山の生活	村田祐作	1934	九月会出版部	
658	信濃の伝説	村澤武夫	1941	山村書院	
659	詣り墓	最上考敏	1956	古今書院	謹呈著者
660	御開山様の御日頃	本木福治編	1923	丸山教会本院出版部	
661	統一幕物	森陽外	1910	易風社	
662	ミレー評伝	森口多里記	1881	日本洋書協会	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
663	稲の日本史	盛永俊太郎	1955	農林協会	
664	風雪の碑	森正蔵	1946	鱒書房	
665	ふるさとの味	森村正平	1966	読売新聞社編	
666	阿波の俗信 阿波民俗業書2	森本安市	1942	博栄堂書店	
667	阿波の童戯と童謡 阿波民俗業書1	森本安市	1942	日本文芸社	
668	農業指導の実際	森山三郎	1950	農民教育協会	
669	祝辞と国民精神	文部省教学局編算	1940	印刷局	
670	伝教・弘法と日本文化	文部省教学局編算	1940	印刷局	
671	奈良時代に於ける国家と佛教	文部省教学局編算	1940	印刷局	
672	三経義しよと日本佛教	文部省教学局編算	1940	印刷局	
673	心学精粹	文部省教学局編算	1940	印刷局	
674	日蓮と日本の佛教	文部省教学局編算	1940	印刷局	
675	吉田松陰 講孟余話	文部省教学局編算	1940	印刷局	
676	神学神歌	文部省教学局編算	1940	印刷局	
677	新撰姓氏録と上代氏族氏	文部省教学局編算	1940	印刷局	
678	漢詩と日本精神	文部省教学局編算	1940	印刷局	
679	幕末勤王歌人集	文部省教学局編算	1940	印刷局	
680	世阿弥と其の芸術思想	文部省教学局編算	1940	印刷局	
681	十訓抄と道德思想	文部省教学局編算	1940	印刷局	
682	徒然草と人生観	文部省教学局編算	1940	印刷局	
683	歌人内山真弓	矢ヶ崎栄次郎	1937	歌人内山真弓刊行会	謹呈著者
684	奇峰文集	矢ヶ崎栄次郎	1932	窪田庄次郎	謹呈著者
685	パリ・コムミュンの経験	安田仁訳	1927	共生閣	
686	早物語覚え書	安間清	1964	甲陽書房	謹呈著者
687	筆影	八目女子	1979	八目女子	葉書添付
688	日本業書5 寒さと人間	柳壮一	1945	生活社	
689	現代史学大系第七卷 民間伝承論	柳田国男	1934	共立社	
690	石神問答	柳田国男	1933	白塔社	
691	故郷七十年	柳田国男	1959	のじぎく文庫	
692	小さき者の声	柳田国男	1942	三國書房	
693	野草雑記	柳田国男	1940	甲鳥書林	
694	野鳥雑記	柳田国男	1940	甲鳥書林	
695	柳田国男集第二卷	柳田国男	1963	筑摩書房	
696	妹の力	柳田国男	1940	創元社	
697	蝸牛考	柳田国男	1943	創元社	
698	狐猿随筆	柳田国男	1939	創元社	
699	民謡学書	柳田国男	1940	創元社	
700	方言学書	柳田国男	1942	創元社	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
701	国語の将来	柳田國男	1939	創元社	
702	食物と心臓	柳田國男	1940	創元社	
703	分類児童語集 上巻	柳田國男	1949	東京堂	
704	増補 風位考資料	柳田國男	1935	明世堂	
705	月曜通信	柳田國男	1954	修道社	
706	火の昔	柳田國男	1944	実業の日本社	著者謹呈
707	神道と民俗学	柳田國男	1943	明世堂	
708	先祖の話	柳田國男	1946	筑摩書房	
709	管江眞澄	柳田國男	1942	創元社	
710	昔話覚書	柳田國男	1943	三省堂	
711	昔話と文学	柳田國男	1938	創元社	
712	郷土生活の研究法	柳田國男	1935	刀江書院	
713	桃太郎の誕生	柳田國男	1932	三省堂	
714	山の神とフコゼ	柳田國男	1936	寧楽書院	
715	炭焼き日記	柳田國男	1958	修道社	
716	海南小説	柳田國男	1925	大岡山書店	
717	島の人生	柳田國男	1951	創元社	
718	佐渡年中行事	柳田國男	1938	民間伝承の会	
719	海上の道	柳田國男	1961	筑摩書房	
720	青年と学問	柳田國男	1928	日本青年館	
721	日本農民史	柳田國男	1932	刀江書院	
722	雪国の春	柳田國男	1928	岡書院	
723	禁忌習俗語集	柳田國男	1938	國學院大學方言研究会	
724	族制語集	柳田國男	1943	日本法理研究会	
725	分類農村語集 上巻	柳田國男	1947	東洋堂	
726	分類農村語集 下巻	柳田國男	1948	東洋堂	
727	産育習俗語集	柳田國男	1935	恩賜財団愛育会	保存用
728	葬送習俗語集	柳田國男	1937	民間伝承の会	
729	ことわざの話	柳田國男	1930	ARS(アルス)	
730	新國學談	柳田國男	1946	小山書店	著者謹呈
731	朝日常識講座	柳田國男	1929	朝日新聞社	
732	國語史	柳田國男	1936	刀江書院	
733	年中行事覚書	柳田國男	1956	修道社	
734	秋風帖	柳田國男	1932	梓書房	著者謹呈
735	笑いの本願	柳田國男	1946	養徳社	
736	信州随筆	柳田國男	1936	山村書院	著者謹呈
737	資料としての伝説	柳田國男	1957	村山書店	
738	分類農村語集	柳田國男	1937	信濃教育会	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
739	族制語集	柳田國男	1943	日本法理研究会	
740	地名の研究	柳田國男	1936	古今書院	
741	地名の話その他	柳田國男	1933	岡書院	謹呈
742	日本の祭	柳田國男	1942	弘文堂	著者謹呈
743	遠野物語 増補版	柳田國男	1935	郷土研究社	
744	日本昔話集(上)	柳田國男	1930	アルス	
745	日本昔話集(上)	柳田國男	1930	アルス	
746	日本神話伝説集	柳田國男	1930	アルス	著者謹呈
747	山の人生	柳田國男	1926	郷土研究社	私家版
748	先祖の話	柳田國男			
749	先づ以前の事	柳田國男		創元社	
750	木綿以前の事	柳田國男	1944	六人社	謹呈著者
751	國史と民俗學	柳田國男	1938	民間伝承の會	
752	海村調査報告(第一回)	柳田國男編	1938	民間伝承の會	
753	海村調査報告(第一回)	柳田國男編	1938	民間伝承の會	
754	海村調査報告(第一回)	柳田國男編	1938	民間伝承の會	
755	山村生活調査 第二回報告書	柳田國男編	1936		
756	山村生活調査 第二回報告書	柳田國男編	1936		
757	山村生活調査 第二回報告書	柳田國男編	1936		
758	山村生活調査 第二回報告書	柳田國男編	1936		
759	山村生活調査 第二回報告書	柳田國男編	1936		
760	山村生活調査 第二回報告書	柳田國男編	1936		橋浦保存用 謹呈著者
761	明治大正史・4・世相編	柳田國男	1931	朝日新聞社	
762	族制語集	柳田國男	1943	日本法理研究会	
763	歳時習俗語集	柳田國男編	1939	民間伝承の會	
764	村と学童	柳田國男	1945	朝日新聞社	
765	柳田國男対談集		1964	筑摩叢書	
766	村のすがた	柳田國男	1948	朝日新聞社	
767	こども風土記	柳田國男	1942	朝日新聞社	
768	現代日本文明史第十八卷	柳田國男 大藤時彦	1943	東洋経済新報	
769	婚姻習俗語集	柳田國男 大間知篤三 共著	1937	民間伝承の會	
770	山村海村民俗の研究	柳田國男 大間知篤三 編	1984	名譽出版	編集部からの手紙入り
771	分類漁村語集	柳田國男・倉田一郎	1938	民間伝承の會	
772	柳田國男研究 '73Autumn第三号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
773	柳田國男研究 '74Summer第六号	柳田國男研究編集委員会	1974	白鯨社	
774	柳田國男研究 '73Spring創刊号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
775	柳田國男研究 '73Spring創刊号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
776	柳田國男研究 '73Summer第二号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
777	柳田國男研究 '73Summer第二号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
778	柳田國男研究 '73Summer第二号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
779	柳田國男研究 '73Summer第二号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
780	柳田國男研究 '73Winter第四号	柳田國男研究編集委員会	1973	白鯨社	
781	柳田國男研究 '74Spring第五号	柳田國男研究編集委員会	1974	白鯨社	
782	ひなの一ふし	柳田國男校注	1930	郷土研究社	
783	日本民俗学入門	柳田國男 関敬吾著	1942	改造社	
784	後狩詞記	柳田國男先生喜寿記念会編	1941	実業の日本社	
785	山村生活の研究	柳田國男編	1938	国書刊行会	
786	海村生活の研究	柳田國男編	1949	国書刊行会	
787	庵の春秋	柳田國男編	1930	三元社	
788	庵の春秋	柳田國男編	1930	三元社	
789	昔話採集の菜	柳田國男編	1933	梓書房	
790	山村語集	柳田國男編	1932	梓書房	
791	山村語集(続編)	柳田國男編	1935	梓書房	
792	服装習俗語集	柳田國男編	1938	民間伝承の会	
793	炉辺叢書解題	柳田國男編		郷土研究社	
794	海村生活の研究	柳田國男編	1949	日本民俗学会	
795	海村調査報告(第一回)	柳田國男編	1938	民間伝承の会	
796	山村生活の研究	柳田國男編	1955	民間伝承の会	
797	雪国の民俗	柳田國男 三木茂	1944	養徳社	謹呈著者
798	居住習俗語集	柳田國男・山口貞夫共編	1939	民間伝承の会	
799	柳瀬マサム画集	柳瀬正夢	1930	叢文閣	
800	相川春喜小伝	矢浪さだ	1979	公論事業出版	謹呈著者
801	雅羅俱多文献 民俗・郷土・他	山岡吉松	1939	山岡書店	
802	武家の女性	山川菊栄	1943	三國書房	
803	わが住む村	山川菊栄	1943	三國書房	
804	懐風藻と日本文化	山岸徳平	1942	日本精神叢書	
805	柳田國男編全国昔話記録 老岐島昔話集	山口麻太郎	1943	三省堂	
806	老岐島昔話集	山口麻太郎	1935	郷土研究社	
807	東北の食習	山口弥一郎	1947	河北新報社	謹呈著者
808	津浪と村	山口弥一郎	1943	恒春閣書房	
809	二戸聞書	山口弥一郎	1943	六人社	
810	伊那谷の唄	山崎あきら編	1942	月明文庫	
811	かてももの集	山崎あきら	1944	月明会出版部	
812	鳥取ことば	山住健次	1963	久松文庫	
813	私の愛誦句抄	山田清三郎	1972	秋津書店	謹呈著者・著者からの手紙入り

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
814	現代のおもちゃ	山田徳兵衛	1943	小学館	
815	山梨県下に於ける五人組制度の実証	竹川義徳	1939	山梨県産業組合青年総 聯盟	
816	因伯剣道史考 鳥取郷土選書 第八編	山根幸恵	1961	久松文庫	
817	鹿野城跡	山根幸恵	1955	亀井公崇徳会	
818	レーニンの思想と現代協同組合運動	山本秋訳	1971	生活問題研究所	メモ入り
819	昭和米よこせ運動の記録	山本秋	1976	白石書店	献上著者
820	昭和米よこせ運動の記録	山本秋	1976	白石書店	献上出版元
821	昭和米よこせ運動の記録	山本秋	1976	白石書店	
822	戦前最後の中央委員袴田里見は栄光 だったか、下	山本秋			
823	消費者運動と生協運動	山本秋	1971	生活問題研究所	
824	阿波の民話	湯浅良幸・緒方啓郎	1958	未来社	
825	新潟県の道祖神	横山旭三郎	1977	野島出版	
826	生活芸術	吉井忠編	1956	河出書房	
827	天神さま	吉田一太郎編	1938	東開庵	
828	天神さん	吉田一太郎	1936	東開庵	
829	第三インターナショナル小史	吉田信二訳	1937	極東社	
830	わび 第七巻 第七号	吉田堯文	1943	一條書房	
831	貧乏人根絶論	吉田豊年	1954	凡人社	
832	鳥取県再置秘史	吉村秀治	1930	鳥取県再置記念館	謹呈
833	戦後政治家盛衰記	米沢健一	1963	山陰評論社	
834	せきし・とさしん	米谷利夫	1941	山椒魚庵	謹呈著者
835	木芽集	米谷利夫	1941	山椒魚庵	謹呈著者
836	朝寒	米谷利夫	1936	山椒魚庵	謹呈著者
837	私のあゆんだ道	米原いたる	1968	東京民報社	
838	私のあゆんだ道	米原いたる	1968	東京民報社	
839	本木志 併其付近	万年一	1944	万年一	
840	帝国主義十字軍	タスジンスキー・ラドポルスキー	1930	希望閣	
841	世界を震撼させた十日間	ジョン・リード	1929	マルクス書房	
842	レーニニズム 左翼共産主義小児病	ニコライ・レーニン	1924	改造社	「杉原敏夫」名前入り
843	背教者カウツキー	ニコライ・レーニン	1929	白揚社	ポストカード添付
844	ヘーゲル「論理の科学」大綱	ニコライ・レーニン	1929	叢文閣	
845	因伯道神志	蓮佛重寿	1958	青鳩吟社	
846	因伯道神志	蓮佛重寿	1958	青鳩吟社	
847	天皇伝説	蓮仏重寿	1960	久松文庫	
848	天皇伝説	蓮仏重寿	1960	久松文庫	
849	因幡美人の顔と伝説	蓮仏重寿	1965	久松文庫	

番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
850	伝説	連仏重寿	1968	山陰評論社	
851	因泊美人伝	連仏重寿	1962	久松文庫	
852	因泊美人伝	連仏重寿	1962	久松文庫	
853	小学校百年志 第一巻	連仏重寿	1965	久松文庫	
854	小学校百年志 第二巻	連仏重寿	1965	久松文庫	
855	綾柳田先生はがき集	連仏重寿	1966	久松文庫	
856	ある医院開業史	連仏重寿	1962	久松文庫刊行	
857	秋風の中の旅人	連佛重寿	1950	青嶋吟社	
858	因伯道神志	連佛重寿	1958	青嶋吟社	
859	因伯美人伝	連仏重寿	1962	久松文庫	
860	労働辞典	労働問題研究所編	1927	労働問題研究所	
861	ロシヤ革命と労働組合	ロンウスキイ	1930	マルクス書房	
862	日本民俗学	和歌森太郎	1953	弘文堂	謹呈著者
863	日本人の祭礼	和歌森太郎	1957	岩崎書店	
864	山口麻太郎著作集 説話編	和歌森太郎 谷川健一 鈴木棠編	1973	佼成出版社	
865	山口麻太郎著作集 方言と諺編	和歌森太郎 谷川健一 鈴木棠編	1975	佼成出版社	
866	山口麻太郎著作集 歴史民俗編	和歌森太郎 谷川健一 鈴木棠編	1974	佼成出版社	
867	日本史年表	和歌森太郎編	1957	有精堂	
868	日本文化風土記2東北編	和歌森太郎 吉田精一 小川徹	1955	河出書房	
869	日本文化風土記3関東編	和歌森太郎 吉田精一 小川徹	1955	河出書房	
870	和歌山県の産業と観光	和歌山県物産販売所	1937	和歌山県物産販売所	
871	稲村三泊	湧島義博	1963	久松文庫	
872	忠誠名和一族	湧島義博	1942	道統社	謹呈著者
873	鳥取市民百年史	涌島義博	1953	日本海文化協会	
874	鳥取市民百年史	涌島義博	1953	日本海文化協会	
875	風の話	涌島義博	1918	阿蘭陀書房	謹呈著者
876	国際連帯と日中友好運動	和田一夫	1976	日本中国友好協会	
877	越後岩船郡字名調	渡邊行一	1942	渡邊行一	
878	越後南魚沼郡字名調	渡邊行一	1941	渡邊行一	
879	越後南魚沼郡字名調	渡邊行一	1941	渡邊行一	
880	越後南魚沼郡字名調	渡邊行一	1941	渡邊行一	
881	越後南魚沼郡字名調	渡邊行一	1941	渡邊行一	
882	越後上田荘見聞記	渡邊行一	1940	渡邊行一	
883	烈風の中を	渡辺順三	1971	東邦出版社	



番号	タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
884	烈風の中を	渡辺順三	1959	新読書社	謹呈著者
885	年月重し	渡辺順三	1971	短歌新聞社	謹呈著者
886	ブレイク詩集	渡辺正知	1923	聚英閣	謹呈著者
887	画家人名辞書 上・下	著者不明	1914	大倉書店	
888	レーニン小伝	著者不明	1946	船形書院	
889	東興紀行	著者不明	安政4年		

## 所蔵資料一覧

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
1		NICHI-O-KONZERT 日比谷公会堂	1937.2.8	その他(コンサートチケット半券)	
2	上野勇	平和行進	1977	パンフレット	3冊
3		因伯文化 1944年2月号	1944	雑誌	
4	木村哲也、大津一郎	ある断面 戦後生活史 木村哲也 組合のあゆみ のなかから 大津一郎 おもいだすままに …山口県の生協運動		雑誌切抜き	掲載誌不明
5	毛利直勲	萬葉 清明 再考 完 古歌訓釋・新新添・鈔	1942	単行本	
6	後藤捷一	後藤捷一 雑稿 (陵霄舎)	1944	単行本	
7	橋浦泰雄	五島の鬼の火		抜刷	
8		株式会社中村屋カタログ	1937	カタログ	
9	神戸大学近代会編	新島繁 執筆目録		目録	
10	南義郎	南義郎漫画集 (新日本出版社)		見本	
11		橋浦泰雄個人展覧会	1922	目録	
12	岡本利吉	規範経済学		見本	
13		閑話叢書 特報1 東京・神田 坂本書店		パンフレット	
14		母のひらば 134	1975.5.15	雑誌	
15		食べられる植物	1944 1945	新聞切抜	3枚
16	橋浦泰雄	自筆カード	1888	肉筆カード	2枚
17		まつり通信 6	1961	雑誌	
18		民俗文化	1969.6.25 1972.8.25 1970.11.25	雑誌	3冊
19		有島武郎の山陰講演	1979.2.28	抜刷	書簡1通
20		みなみいよ 南予郷土研究会乃報 第13号	1964.7.28	雑誌	
21		庄内文化	1958.5.20.	雑誌	
22		木形子	1939.5.30.	雑誌	
23	橋浦泰雄	彼の断片 (無産人創刊号)	1925.5	抜刷コピー	
24		日本文学講座 執筆要項		その他(執筆要項)	3枚
25		医療		パンフレット	
26		同好 11月号	1940	雑誌	
27		郡山文学会 河	1972.1.1	雑誌	
28		開墾	1940	雑誌	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
29		木端	1943	雑誌	
30		市民生協 中期経営計画 73,74,75	1973	その他(計画書)	
31	大間知篤三	CEREMONIAL PRACTICES IN JAPAN	1942	抜刷	
32	柳田國男	村のすがた (1週間金曜日)	1945	抜刷	画・橋浦泰雄
33		文化タイムズ	1950.2.15	抜刷	
34		組合ニュース 家庭の灯	1960	雑誌	
35		民間伝承 第9巻 1~8号	1942	雑誌	
36		篤農 第127号	1943.10.1	雑誌	
37		老同志		その他(楽譜)	3部
38		讀岐民俗 第1号、第3号	1939, 1940	雑誌	
39		我が生協	1971	雑誌	
40		市民生協 昭和48年度事業報告書 事業計画書	1973	その他(計画書、報告書)	
41		上毛民俗 25号		雑誌	
42		風雪 第35号、第66号	1970, 1980	雑誌	
43		北の会報	1943.1	雑誌	
44	日本生活協同組合連合会	戦後生活協同組合運動史資料集 採録予定資料の概要	1963	パンフレット	
45	由谷義治	大手術覚え書		パンフレット	
46		第4回全日本水墨画協会展図録		その他(図録)	
47		日本歴史大辞典(河出書房)		その他(内容見本)	
48		第18回平和美術展出品目録	1970	その他(出品目録)	
49		野村愛正の肖像	1919	写真	ほか3点
50		於解放運動旧友会例会	1972	写真	他、那智山1点 計4点
51		草園	1942	雑誌	
52	田中馨	河童憑き	1954	抜刷	
53	橋浦泰雄	橋浦泰雄画伯 絵画頒布会		肉筆原稿	
54		庄内民俗 第8, 11, 13, 14, 25, 26, 28号 案内通知	1958 1959 1967 1972	雑誌	
55		無産階級パンフレット 共産党インタナショナル 第4回世界大会	1922	パンフレット	2部
56		北方風物 早春の巻	1946	雑誌	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
57	橋浦泰雄	手帳	1927 1928 1929 1930 1942 1956 1960 1962 1963 1965 1969 1973 1974 1976 1977 1979	その他(手帳)	
58		橋浦泰雄出版記念会芳名録 橋浦泰雄回顧 展目録 橋浦泰雄個展観覧御芳名簿 於 勝	1938,1	その他(芳名録など)	
59	橋浦泰雄	日記的メモ	1921 1923 1969	その他(日記的メモ)	
60	水谷磐雲、堀一郎、竹内 利美、柳田國男、小寺廉 吉、岩本英夫、関口武、橋 浦泰雄、内藤喬	抜刷 水谷磐雲、堀一郎、竹内利美、柳田國 男、小寺廉吉、岩本英夫、関口武、橋浦泰雄、 内藤喬		抜刷	
61	橋浦泰雄	隨筆 春夏秋冬		肉筆原稿	
62	橋浦泰雄	プロ共以前の文化運動と党の文化政策並びに 戦旗の配布方法について		肉筆原稿	
63	橋浦泰雄	鯨の町 大地		肉筆原稿	
64	橋浦泰雄	肥前五島日記		抜刷	
65	橋浦泰雄	採集手帳		肉筆原稿	
66	橋浦泰雄	関前準備会組合員各位	1956.10.	肉筆原稿	
67		川越地方郷土研究 第一巻	1937	雑誌	
68		日ソ杉並支部関係		写真	図版二枚、写真一枚
69	橋浦泰雄	上座、百科事典項目		肉筆原稿	
70		昭和6年 頒布会 有志原稿	1931	肉筆原稿	有志による肉筆原稿
71	橋浦泰雄	防空日記		肉筆原稿	
72	橋浦泰雄	大根人参牛蒡役者		肉筆原稿	
73		下里町誌	1938	単行本	
74		スクラップブック(5冊)	1958-1975	その他(スクラップ ブック)	大型のため、通常の箱には 統合せず。別枠。
75		趣意書 話をきく会	1931.9	パンフレット	2部
76		橋浦泰雄作品頒布会について	1931.8	パンフレット	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
77		須山計一 作品頒布会	1941	パンフレット	
78		作家新聞	1961.2.1	雑誌	
79	橋浦泰雄	俗信を有する樹木一覧表、俗信を有する地物一覧表		肉筆原稿	
80		橋浦泰雄画会チラシ(鳥取)	1957	チラシ	
81		奇峰矢ヶ崎栄次郎先生還暦祝賀会趣意書	1930	その他(趣意書)	
82		橋浦先生肉筆眞澄遊覧記、映装画展覧会	1930	その他(書簡)	
83		アカハタ編集局高橋芳男からの書簡		その他(書簡)	
84		昭和16年度東京市高井戸第二国民学校後援会歳入出予算	1941.4-1942.3	その他(報告書)	
85		信州道祖神写真		写真	計6枚
86		踏青俳句会 投句用紙		その他(投句用紙)	
87		田中新次郎夫人逝去に際しての俳句		その他(俳句、名刺2枚その他)	
88		東筑摩郡道祖神スケッチ		その他(スケッチ)	
89		謹告校訂本運延の御わび(眞澄遊覧記刊行		その他(謹告)	
90		橋浦さんをねざらう会目録	1969	目録	
91		関書院出版月報 第一号第二号	1947,9,1947,10	パンフレット	
92		村山知義		その他(絵画)	
93		布施辰治誕生70年記念小型カード		その他(カード)	
94		山田良雄からの書簡	?.?.14	その他(書簡)	中身のみ
95		一茶祭チラシ	1951	ビラ・チラシ	
96		まつりと行事 領収書	1949	その他(領収書)	
97		郷土出版便り(門司郷士会)	1953	パンフレット	
98		橋浦泰雄作品個人展覧会目録	1929.5	ビラ・チラシ(案内状)	
99		現代文壇名家小品即売展覧会	1929	ビラ・チラシ	
100	橋浦泰雄	山口県阿武郡嘉年村	1930's	その他(自筆ファイル ドノート)	
101		橋浦泰雄個人展覧会	1957	ビラ・チラシ(案内状)	
102		柳田國男監修民俗学辞典		ビラ・チラシ	
103		東筑摩郡道祖神凶絵・郡誌別篇第二東筑摩郡道祖神誌		ビラ・チラシ	
104		橋浦泰雄画伯個人展覧会(長野)	1934.5.4	ビラ・チラシ(案内状)	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
105		雑誌統合申告書		その他(申告書)	
106		大月源二 作品頒布会	1939.12	ビラ・チラシ(案内状)	2部
107		田上義也建築作品展覧会	1925	ビラ・チラシ(案内状)	
108		橋浦泰雄陶画番茶器の頒布に就て		ビラ・チラシ(案内状)	
109		松山文雄・前島とも子作品頒布会	1940.5	ビラ・チラシ(案内状)	4部
110	杉浦健一	パウラに於ける所謂トミズムに就いて	1940.4	抜刷	
111		地方・農民生活の研究	1953.1	雑誌	橋浦保存用
112		戦後 共産党関連ビラ		ビラ・チラシ	4枚
113		民俗民芸双書		ビラ・チラシ(内容見本)	2通
114	橋浦泰雄	南洋諸島の産育習俗	1940	抜刷	
115	橋浦泰雄	画会金銭出納帖		その他(自筆ノート)	
116	橋浦泰雄	自筆ノート	1931	その他(自筆ノート)	
117		日本画家橋浦泰雄君を支持する会趣意書		その他(趣意書)	
118		TUP通信 第13号(東京大学出版会)	1953.10	パンフレット	
119		某旧家蔵品入札(第二回)(好雅堂)		パンフレット	
120		内容見本 経済学原理 マーシャル著(改造)		ビラ・チラシ	
121		川崎巨泉画伯遺墨人魚洞文庫絵本展覧会目録(大阪府立図書館)	1943	目録	
122	市田貞蔵	新労農党樹立問題に対する批判	1929	パンフレット	
123	河上忠晶	三大意(黒住教日新社)	1918	単行本	
124		危機に直面せる支那革命と共産党の任務(イスクラ関)	1929	単行本	表紙なし
125		近衛公爵御蔵器第二回入札(吉川弘文館)	1918	目録	
126		内容見本 民俗民芸双書(岩崎美術社)		ビラ・チラシ	
127	橋浦泰雄	主婦と杓子		肉筆原稿	
128		御願ひ(頒布会)	1937	ビラ・チラシ	30枚
129		橋浦泰雄日本画個人展	1957.5	ビラ・チラシ	3枚
130		渡部寿美子油絵展		ビラ・チラシ	
131	澤田四郎作	柳田國男先生	1962.12.25	単行本	
132		高原 第13号 三・一五 四・一六 公判闘争のために、史的に見たる漫画様式 松山文雄、労農詩集 第一輯	1922.1931.1937.1920	雑誌、単行本、パンフレット	
133		武井直也氏遺作展覧会目録	1945.3	ビラ・チラシ	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
134		日本プロレタリア文藝連盟会報、農民運動	1926.6, 1923.2	パンフレット	
135		東京因伯芸術家懇話会々員名簿	1940.10	その他(名簿)	
136		第2回鳥取民俗学会大会	1979	その他(プログラム)	2部 片方に直筆の講演メ
137		婦人運動	1941	雑誌	
138		労働者マンガ、労働者マンガ第2号		その他(マンガ)	
139		革命十周年記念祭労農ロシヤ展覧会	1927	パンフレット	
140		マゾオの宣言		ピラ・チラシ	
141		橋浦泰男画個人展	1957.5	ピラ・チラシ	
142	産業労働調査所	国際消費組合デーのために	1932	パンフレット	
143	太田慶太郎	伊東市議会演説集 1 1951-1955	1955	パンフレット	
144	湧島義博	緑化運動と森林開放	1950.5	単行本	
145	文部省内恩賜財団愛育会	昭和十年十二月調査 妊娠、出産及育児に関する調査	1936	パンフレット	
146	小野武夫	江戸時代の食料問題(啓明会)	1942	パンフレット	
147		太陽のない街 東京芸術座第28回公演	1970	パンフレット	
148	松井秀枝	東洋古代社会史断片	1962	パンフレット	
149		小野宮吉<30年忌>追悼記念	1966	抜刷	
150	橋浦泰雄	婚姻の歴史(3)		肉筆原稿	
151	橋浦泰雄	同志千金買をおもう		肉筆原稿	その他写真など
152	橋浦泰雄	つゆのいり芸種の後のみづのえの日		肉筆原稿	
153	橋浦泰雄	考古学への希望民俗学徒の一員として		肉筆原稿	
154	橋浦泰雄	不可解な地名の戸籍調査		肉筆原稿	
155	橋浦泰雄	互助共産村百瀬川、共産的部落としての「門入」、新興共産村崎濱村、尻屋村	1926.1925	肉筆原稿	
156		俳句6首		その他(俳句)	1枚
157	橋浦泰雄	雑録簿	1941	その他(肉筆メモ)	木曜会についてのメモ等
158		柳田國男先生古希記念論文集執筆者リスト	1943	その他(論文執筆者リスト)	
159	橋浦泰雄	千島の歌(楽譜) 岩内		肉筆原稿	
160	橋浦泰雄	みさを・貝棟の意義(裏面)、民俗学問答(表)		肉筆原稿	
161	橋浦泰雄	農村の生活と芸能	1954	肉筆原稿	
162	橋浦泰雄	無題(始めて信仰を見たのは)	1975	肉筆原稿	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
163		鳥取県の子供風土記、狛江村誌、海山町史年表	1950, 1935, 1962	単行本	
164	民間伝承の会、岡山民俗学会、信濃教育会	民俗座談、二川の民俗、信濃郷土誌	1937, 1960, 1939	単行本	
165	黒田了一、岡田甚作	夢ひらく、連句集朴亭唱、句集あしあと第二巻	1977, 1971, 1977	単行本	
166	橋浦泰雄	我が國人の協同観念	1938	肉筆原稿	
167	橋浦泰雄	岐阜県揖斐郡徳山村は...	1926.2.28	肉筆原稿	『地方』第34巻、第4号
168	橋浦泰雄	新今昔物語-婚姻の巻-(1)		肉筆原稿	
169	橋浦泰雄	鯛の頭も信心から		肉筆原稿	
170	橋浦泰雄	七不思議-大阪の伝説-		肉筆原稿	
171		月明文庫 日本人と魚食 中村吉次郎、伊那谷の唄 山崎斌、凡兆句集 山崎斌、日本の菓子 山崎斌、食べられる菓子(下) 水の葉舟 米の島考・柳田國男稿、稲と祭儀 高橋男爵家所蔵品入札		単行本	
172	鎌田久子		1967.8.18	抜刷	手紙入り
173			1917	パンフレット	
174		稗と稲、婦人講座、飛騨と稗飯	1944, 1945, 1944	雑誌	
175		消費組合はどうすれば設立出来るか、銃後産業福利と消費組合、欧州大戦時に於ける消費組合の活動、職場内に於ける消費組合活動の経験、生活協同組合のつくり方、正しい生活を求めて、社会主義建設期の協同組合	1928, 1939, 1938, 1934, 1947, 1935	パンフレット	
176		南方熊楠先生小伝(Ⅲ) 余祿、南九州の通過儀礼、女性と経験、小型山の民俗、安曇 大山郁夫著書論文目録、伊波普猷年譜・著書論文目録		雑誌	地方研究会小冊子
177			1976	目録	
178		上毛民俗 13号、14号		抜刷	
179	橋浦泰雄他	女性のための歴史講座		抜刷	2部
180	橋浦泰雄	肥前五島日記(下)		抜刷	11部
181	橋浦泰雄	方言の歴史性について「方言」第五卷第八号		抜刷	6部
182	小寺廉吉	越中五ヶ山の史料 (一)(二)(三)(三)		抜刷	(二)のみ2部
183		農家小組合について、中小工業と工業会計に就て、笠原千鶴さんをしのぶ	1934, 1967	抜刷	



番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
184	中野荘次	吉野山林語彙		抜刷	
185		東京都生活協同組合指導委員会規程案		その他(規程案)	
186		日本協同組合新聞	1947.9	その他(新聞)	
187		久我山幼稚園設立趣意書		その他(趣意書)	
188		東協連総2号・3号	1947	パンフレット	
189		団体共約書	1947	その他(約書)	
190		保証責任・購買利用組合 東京都生活協同組合総会定款		その他(定款)	
191		緊急食糧対策活動要領		その他(要領)	
192		保証責任全東京都購買利用組合職代会創立趣意書		その他(趣意書)	
193		生活協同組合法案		その他(法案)	
194		二十二東協職総 8号	1947.6	その他(議事録)	
195		生活科学	1946.8	雑誌	
196		有限責任生活協同購買利用組合定款		その他(定款)	
197		東京都生活協同組合(消費組合)指導要綱改正の概要		その他(要綱)	
198		われら生協のなかに、生協音頭		その他(レコード)	
199	橋浦泰雄	民俗学問答	1956	肉筆原稿	実際の本に収められた内容とは一致しない部分多し
200	橋浦泰男	経歴		肉筆原稿	4部
201	有島武郎	泉	1923.1 1922.10	雑誌	
202	橋浦泰男	熊野太地浦捕鯨史(全) おうしやうがつ 初期の社会主義文化運動		肉筆原稿	3部
203		伊那1月号 道10号、全線 11月号、若い農業 10月号、若い農業 1月号		雑誌	
204		橋浦さんをねぎらう会招待状送付リスト	1969	その他	
205		橋浦泰雄個人展覧会来鑑芳名録	1939.7.16	その他	
206		ムサン/生活共同組合チラシ(自筆マンガ付き)		ビラ・チラシ	原画あり
207		写真 橋浦家 兄弟の集合写真		その他	
208		写真 橋浦個人写真(晩年)			
209		東京都生活協同組合連合会関係資料、規定集ほか	1954 1955 1960	その他	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
210		生活共同組合(スクラップブック)		その他(スクラップブック)	
211		安条約改正とは 良英先生愛嬢の昇天を哀しみて詠める 弔辞	1964	肉筆原稿	
212		城西消費購買組合ニュース	1935	その他	
213		第三回プロレタリア美術大展覽会目録 第三回プロレタリア美術大展覽会追加目録 第二回プロレタリア美術大展覽会目録 ポストカード	1929 1930	その他	
214		民俗学 昔を今に(不可解な地名の戸籍調査)		肉筆原稿	
215		民俗探訪原稿		肉筆原稿	
216		原稿講演記録原稿 6月7日 pm14:00～ 厚生省生活局集會室		肉筆原稿	
217		民俗学問答		肉筆原稿	
218	岡本一平 堤寒三 麻生	制服の花嫁(中・下)	1933	肉筆原稿	
219	矢々崎栄次郎	国立公園 白骨温泉	1936	雑誌	
220		日本労働組合評議会 第三回全国大会 運動方針と新綱領	1927	パンフレット	4部
221		協同組合実態調査委員会(案)他		パンフレット	2部
222		1964年度 東京都連絡員一覽表	1964	その他	
223		第一回金融対策委員会報告書 1946年2月 東京西部生活協同組合職合会	1946.2	その他(報告書)	
224	民主栄養協会	民栄ニュース No.1	1947.4.18	パンフレット	
225		全東連関係 全東連臨時總會選出役員名簿	1948.3.31	その他(名簿)	
226		西協総 第19号 他 くみあいニュース 他		パンフレット	
227		杉並区生活協同購買利用組合一覽表	1947.8.1	その他	
228		協同組合幹部養成講習会要項		その他(要項)	
229		日協東京都支部趣意書		その他(趣意書)	
230		日本生活協同組合連合会設立趣意書		その他(趣意書)	
231		区長委任事務処理要項案抜粋		その他(要項)	
232		生活協同組合定款例 東京都経済局総務課事業協議会 会則要綱		その他(定款例)	
233		協同組合通信		その他(要項)	
234		協同組合通信	1946.7.20	パンフレット	
235		日本生活協同組合連合会定款(案)	1951.2.8.	その他(定款)	
236		杉並生活協同組合(仮称)設立趣意書草案		肉筆原稿	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
237		昭和21年度(3月31日現在)組合同員名簿 東京都杉並区久我山購買利用組合		その他(名簿)	
238		協同組合 創刊号 vol.1No.11・12月合併号 vol.1 No.2 1月号 vol.1 No.3	1947 1948	雑誌	
239		水脈	1922-1924	雑誌	
240		第29回解放運動犠牲者合葬追悼会・経過報	1976	その他(報告書)	
241		橋浦泰雄先生講演会	1968	その他(出席者名簿)	
242		橋浦泰雄回顧展 芳名簿其一、其の二	1979.5	その他(出席者名簿)	
243		襲人 創刊号-新年号	1921-1922	雑誌	
244		文化生活 1922年1月号-12月号	1922	雑誌	
245		俗信及び異名を有する樹木、俗信を有する土地と場所、その他あまいなカード		その他(調査カード)	複数調査者による
246		昭和16年 新体制日記	1941	その他(日記)	
247	日本国民救援会東京都本部	解放運動犠牲者合葬追悼会 解放のいしづえ	1980	パンフレット	
248	橋浦泰雄	日本の家族		肉筆原稿	
249		城西消費組合東京西部生協連 思い出集	1978	パンフレット	2部
250	大阪市立博物館	花と民俗行事	1966	パンフレット	
251		道祖神		写真	66枚
252		道祖神に関する自筆メモ		写真、肉筆原稿、その他(メモ)	写真1枚、メモ73枚、肉筆原稿1枚
253		太地町の同胞に訴える町の基本政策確立について		肉筆原稿	
254		MIWO 12月合併号		雑誌	
255		山本秋履歴書、横浜生協ニュース、協同組合の機構と運営、農産協同加工株式会社設立趣意書、パンフレット、葉書など		パンフレット、その他(履歴書、肉筆メモ、趣意書、葉書)	
256		絵草紙 小野小町一代記		その他(絵草紙)	十五冊揃
257		松本市道祖神	1970.10.22-28.	写真	
258		清澤芳郎 発 竹内利美苑 封筆		肉筆原稿	
259		江戸後期絵草紙類国貞・豊国その他		その他(和綴じ本)	
260	橋浦泰雄	長崎県五島列島について		肉筆原稿	
261		美術展覧会 目録		目録	18部

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
262	京都市文化課	京都の維新史蹟	1943	パンフレット	
263		画会による入金並びに入金予定一覧		その他(入金表)	
264		名刺整理帳		その他(名刺整理帳)	
265	橋浦泰雄	民俗五島関係資料(ファイルドノート)		その他(ファイルドノート)	14部
266	橋浦泰雄	段々畑 ほか9篇 橋浦泰雄氏談 1979.8.22、橋浦泰雄氏をかこんで鳥取にて A面、民俗学の原点 日本民俗学会・会員 第2回民俗学会 5/20 B面、橋浦泰雄氏をかこんで 鳥取 1979.5.20(中身なし)、ベートーヴェン交響曲第3番『英雄』より第2楽章(葬送行進曲)、橋浦泰雄氏告別式 1979.11.23 A面、火葬場にて、鈴木よし、小谷博貞さん泰子へ B面、久友会の人々から病院にいる橋浦泰雄氏へのことば 1979.10.14、橋浦泰雄を偲ぶ会(1) 1980.3.29生協会館旧友会主催、偲ぶ会(2)、偲ぶ会(3) 塵子録 1979.8.30、五塵録 草稿覚書一 1~17、五塵録 草稿二 18~174、身辺雑記 1960.8、身辺雑記、1975年1月 めちやくちや 菟、五塵録 草稿三 175~ 小千町札紙工業三現レタル郷土色特ニ其ノ発生的老察ヲ中心トシテ	1912	肉筆原稿	10部
267	橋浦泰雄		1979.1980	その他(カセットテープ)	9本
268	橋浦泰雄		1960,1975,1979	肉筆原稿	
269	新潟県立小千谷高等女学校教諭財前幸六				

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
275	橋浦泰雄	佐賀県神埼郡三瀬村及び東松浦郡厳木村聴書(1935年11月)、佐賀県東松浦郡厳木村聴書(1936年1月、1936年2月)	1935, 1936	その他(自筆採集手帳)	
276	橋浦泰雄	宮城県伊具郡筆甫村、栗原郡文字村見聞記(1935年)	1935	その他(自筆採集手帳)	
277	橋浦泰雄	村制調書(1924年9月)、飛騨、富山、越前、美濃、会津、日光、越後、長崎、岩手、五島、その他旅行記	1924	その他(自筆採集手帳、旅行記)	
278		生活協同組合関係資料、多数、協同組合研究(1952年6月、1952年7月)	1952	パンフレット	
279		雪窓夜話		その他(和綴じ本)	8部
280	橋浦泰雄	五塵録 新聞連載切抜き 第1回～第122回 南洋諸島の産育習俗、(日本回顧録)昭和財界史 朝日文化賞受賞記念講演 柏窓社編、柳田國男編 山村語彙、柳田國男先生著作目録 大阪民俗談話会発行、民俗学辞典 内容見本 岩波文庫 目録2部		その他(新聞切り抜き)	
281	橋浦泰雄、柳田國男			抜刷	
282	橋浦泰雄	久我山協同組合関連		肉筆原稿、その他(書簡2通)	
283		米よこせ関連		その他(書簡5通、ハガキ2通、感謝状3通)	
284		西部生協関連		その他(ハガキ4通、書簡1通)	
285		柳田國男編 海村調査報告 第一回	1938	抜刷	
286	橋浦泰雄	日本民俗学上より見たる我国家族制度の研究		抜刷	
287	柳瀬正夢	柳瀬正夢デッサン集	1977	単行本	
288		生活協同組合関係資料議案書など		その他(議案書)	60点
289	橋浦泰雄	東筑摩郡 道祖神 原稿その他		肉筆原稿	
290	橋浦泰雄	アドレス帳		その他(アドレス帳3部)	
291	橋浦泰雄	道祖神の銅版画(エッチング)原版と印刷稿		その他(銅版画原版)	
292		郡誌別編第 東筑摩郡 道神誌 目次概要		その他(目次概要)	
293	橋浦泰雄	ぬの吟集 よみ人勝手	1923, 1975	その他(句集)	
294	橋浦泰雄	名刺		その他(名刺)	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
295	橋浦泰雄	祝辞 救援会 ほか二篇		肉筆原稿	
296	橋浦泰雄	協同組合 自筆雜記帳		その他(自筆雜記帳)	
297	橋浦泰雄	科野雜記 第1号、道民 第9巻	1937,1924	雑誌	
298	橋浦泰雄	自筆覚書 民俗語彙、会計など		その他(民俗語彙)	
299	橋浦泰雄	草上 復刊第一巻第一部份	1948	雑誌	
300	橋浦泰雄	日本身分法要綱案	1944.2	パンフレット	
301	橋浦泰雄	東筑摩郡道祖神統計表		その他(統計資料)	
302	柳田國男、倉田一郎	分類山村語彙	1941	単行本	
303	橋浦泰雄	あながき 太地町		肉筆原稿	
304	橋浦泰雄	概要		肉筆原稿	
305	橋浦泰雄	民俗学 子供の祝い		その他	イラスト
306	橋浦泰雄	赤旗 昔話稿、雪女、山村の食物、題名不明 1. マキから親類まで以下各章、尻屋村、厚生 省生活課講演		肉筆原稿	
307	橋浦泰雄	雑 民俗語彙その他 中国と日本の正月、雛祭りをさぐる、鯨の町太 地、はしがき、生協講座ムサシノ生協にて、赤 旗掲載 昔話稿、五塵録145、題名不明(捕 鯨)、農村の結婚(四)、題名不明(目次)、題名 不明(一月の民俗語彙)、題名不明(はしがき 家というもの)、題名不明、凡例(民俗語彙)、助 産婦の名 年代的経緯、題名不明、題名不明 (十二支)、題名不明(禁忌)、自序、題名不 明、題名不明、題名不明(太陽暦)、日本の食 史料館所蔵一覽(捕鯨)		その他	目録
308	橋浦泰雄	かぶりもの概論、祭りと生活(年中行事)、不文 の文(日本の家族 序文)、題名不明、題名不 明(五島での聞き取り)、題名不明(パナンペ)、 婦人のあゆみ 民俗学からみた、題名不明(ふ さとの祭り)、跋		肉筆原稿	
309	橋浦泰雄	昭和16年1月20日 於翼賛会会議室国民生活 指導部 新女性美創定第一回研究会	1941	パンフレット	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
312	橋浦泰雄	熊野太地浦捕鯨史(別篇太地浦捕鯨絵巻)、かくれみの 熊野の民話、お化けと民俗、第五穀類の精白度、第六 穀類の精白度		肉筆原稿	
313	橋浦泰雄	日本の家族制度、理想郷を訪ねて、小麦飯、何が村の大事件であったか、門松私見、新興共産村崎沢村		肉筆原稿	
314	橋浦泰雄	冬魔の世界、互助共産村百瀬川、村の貌、民間芸能 1954.8.2、わが国に於ける助産習俗、助産風俗		肉筆原稿	
315		杉並西部生活協同組合 第六回通常総会		その他	総会資料
316		東京都生活協同組合連合会 第五回 通常総会史料、第八回 通常総会史料、第十回 通常総会史料		その他	総会資料
317		東筑摩写真原板		その他	写真原板
318		東京都購買組合联合会、東京都購買組合研究会定款		パンフレット	
319	田中新次郎	椎茸の文化史	1962.11	単行本	
320	エミール・ゾラ	家庭夜話 第一編 子孫繁昌の話	1906	単行本	
321	橋浦泰雄	日本画 会計帳		その他	自筆会計帳
322	橋浦泰雄	自筆句集		その他	句集
323		東京都生活協同組合連合会	1936.5.12	パンフレット	
324	日本生活協同組合	日本生活協同組合の歌		パンフレット	
325		虹 東京西部地区生活協同組合協議会、協同組合研究	1955.12.11、1952.3	雑誌	
326		日協連のあゆみ、生協講座プログラム、生協活動 No.97、東協連報告 No.14, 22	1960、1960.9.14、1960.4.30、1960.2.15	パンフレット 雑誌	
327	橋浦泰雄	要請書(生協関係)		肉筆原稿	
328		生活協同組合今後の在り方 日本生活協同組合同盟第五回総会報告、東京の生協	1950.6	パンフレット	
329		折口信夫編 土俗と伝説、比嘉春潮・柳田國男編 島	1962.12	ビラ・チラシ	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
330		東京都生活協同組合関係資料 運動方針定 款 趣意書など		その他	定款、趣意書
331		日協運情報 No.3	1951.6.25	雑誌	
332	武蔵野生活協同組合購買 利用組合理事会	第一回通常総代会報告書、第三回通常総代 会報告書	1952.4.19、 1954.4.29	パンフレット	
333		生協関係謄本	1950.11.9	その他	謄本
334		朝比奈靖司 水彩画展、松尾隆夫展、高柳博 也展、伊左次章子個展	1978.2.27～ 3.5、1978.9.21 ～26、 1979.1.10～ 14、1979.3.26 ～3.31	パンフレット	
335		生協関係資料(第一回再建委員会、第一回役 員会議事録等)		その他(議事録)	
336		日本協同組合新聞、西協連ニュース、第三回 理事監事会開催通知、試算表	1946.2.1-2.28	その他(資料等)	
337		橋浦さんをねぎらう会(通知)、那智四十八滝め ぐり(パンフレット)		パンフレット	
338	橋浦泰雄	肉筆雑記帳		その他(肉筆雑記帳)	
339		橋浦泰雄作品覚書 熊野太地浦捕鯨史出版 記念 橋浦泰雄さんをねぎらう会芳名帳		その他(和綴じ本 芳 名帳)	
340		大洪水の前 有島武郎著作集第十集	1920	その他(楽譜)	
341	橋浦泰雄	野の木(詩、小説)、黒き海の音(脚本)	1906,1918	肉筆原稿	
342	端浦泰雄	自筆ノート	1965.10	その他(自筆ノート)	
343		オモチャの青春		パンフレット	
344		橋浦泰雄氏還暦記念会	1948.11.14	パンフレット	
345		画会 芳名録	1933.10.7	その他(芳名録)	
346		我等 東京因伯郷友会名簿その他 諸益函会 上泉氏武話 沼田博士		雑誌、その他(名簿) など	
347	橋浦泰雄	民俗覚書		その他(肉筆覚書)	
348	橋浦泰雄	日本社会主義同盟報告 スクラップブック		その他(スクラップ ブック)	
349	橋浦泰雄	第一作家同盟 スクラップブック		その他(スクラップ ブック)	



番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
350		民間伝承		雑誌	
351		風雪	1965.7.18	雑誌	
352		第五回文化常会御通知	1943.7.18	ピア・チラシ	
353	エングルス	家族、私有財産及び国家の起源 リュウイス・エッチ・モルガンの研究に因みて	1927	単行本	
354	日本共産党臨時中央指導部	来るべき総選挙に際し全国同胞に許う		ピア・チラシ	
355	橋浦泰雄	若き日の路 夜素烏 小説、日記 1911.1以降	1910-1913	肉筆原稿、その他	
356	橋浦泰雄	水脈文藝会		(日記)	
357	橋浦泰雄	住所録		その他(住所録)	
		民話と伝説		その他(スクラップブック)	
358		幸徳秋水全集第3巻附録	1968.1, 1968.2	ピア・チラシ	
359	関東消費組合連盟中央執行委員会	関東消費組合連盟第16回大会一般報告草案	1936.10.4	その他(草案)	
360	関東消費組合連盟	関東消費組合連盟第16回大会代議員券	1936.10.4	その他(代議員券)	
361	橋浦泰雄	印鑑証明願	1937.9.25	その他(印鑑証明願)	
362		胡桃澤勘内氏を紹介する私信	1930年代	ピア・チラシ	
363		日消連第3回大会以後経過報告	1936年以降	その他(報告書)	
364	橋浦泰雄	生活戦線への規律		肉筆原稿	12枚
365		因幡調	1964.6.8- 1964.12.8 1965.3.8- 1965.12.8 1966.1.8 1966.5.8-12.8	雑誌	
366	橋浦泰雄	電報原稿	戦時中	肉筆原稿	
367		関消連単一化実現の件 関消連更正資金調達の件統一的突撃活動組織に関する件大衆課税並びに協同組合課税絶対反対!」		ピア・チラシ	
368		財政整理案明細表その他		その他(明細表)	その他3枚
369		資料・工場消費組合設立方針草案		その他(草案)	
370	城西消費組合	証券	1940.7.3	その他(証券)	5枚

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
371	日消連組織部編	消費組合の組織並に斗争に関する資料		パンフレット	
372	旧友会	旧友会結成について	1966.5	その他(会則)	
373		笹川恵太郎追悼会案内	1937.8.11	ピラ・チラシ	
374		旧友クラブ会員名簿	1958.1	その他(会員名簿)	
375	旧友クラブ	旧友	1958.9.7	雑誌	2部
376		第一回中央執行委員会並に監査委員会開催通知	1936.10.10	ピラ・チラシ	
377		城西消費購買組合 有限責任家庭購買組合併チラシ	1941.7.2	ピラ・チラシ	
378	杉並文化人懇話会	破壊活動防止法案に対する要望書	1952.5	ピラ・チラシ	
379	橋浦泰雄	児童劇 ロバの耳(三幕)		肉筆原稿	
380	橋浦泰雄	謝状並びに絵巻額面・内容見送り先同抜刷送り先	1969.4	肉筆原稿	庄司五郎の書簡付
381		水野成夫論財界の新チャンピオン 週刊朝日切抜き	? .11.23	その他(雑誌切抜き)	
382	橋浦泰雄	塵自録		肉筆原稿	
383	橋浦泰雄	米原いたるさんのこと		肉筆原稿	
384	橋浦泰雄	随筆春夏秋冬II		肉筆原稿	
385	橋浦泰雄	参考文献		肉筆原稿	
386	橋浦泰雄	城西消費購買組合創立十周年記念出版輝かしき今日を築くまで(組合界史)一		肉筆原稿	
387	橋浦泰雄	民俗学 白川郷 家族制度		肉筆原稿	
388	橋浦泰雄	森岡柳蔵さんを偲ぶ 故友藤成吉を悼む		肉筆原稿	
389		城西消費購買組合ニュース第20号 No.25,26,27,48,52号	1935.7.15,193 6.1.5,1936.2.5 ,1936.5.5,193 9.1.1,1939.5.1	雑誌	
390	城西消費購買組合	婦人会ニュース No.2, No.4	1936.2, 1936.4	雑誌	
391	橋浦泰雄	随筆 一人旅の中にあるもの思うこと		肉筆原稿	
392	里木愛太郎	知られぬ海戦(少年の征独日記)		肉筆原稿	
393	橋浦泰雄	再び山下さんへー武郎と愛正のことなど とだえざる歌 西萩窪診療所三十年のあゆみ1 950年4月→1980年4月		肉筆原稿	
394	健友会			パンフレット	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
395	橋浦泰雄	無題(未行に「民族の遺産(13)」)		肉筆原稿	
396		木曜会七月自選句集		その他(コピー)	
397	橋浦泰雄	マッセージ		肉筆原稿	
398	橋浦泰雄	随筆 春夏秋冬(14)		肉筆原稿	
399		中外新報 号外	1934	雑誌	
400	橋浦泰雄	民家の屋根、肥前五島日記(上)(下)		抜刷	
401	橋浦泰雄	民俗探訪記 目次		肉筆原稿	
402	橋浦泰雄	無題		肉筆原稿	
403	鳥取県岩美町	仙英禅師 日本開国の先覚者	1958	パンフレット	
404	橋浦泰雄	道祖神 年表、農村信仰説、書簡7通、その他		その他(年表など)	
405		大岩村誌編纂資料(4)神社寺院の沿革、(5)交通の変遷		その他(編纂資料)	
406	野坂参三氏誕生70年祝賀会 賀会世話人会	野坂参三氏誕生70年祝賀会記録	1962	パンフレット	
407	日本共産党中央委員会出版局	日本共産党の五十年	1972	パンフレット	
408		宮本憲吉 陶芸展	1964	パンフレット	
409		市川正一さんの想出	1972	パンフレット	
410		第四回全日本水墨画協会図録	1971	その他(図録)	
411		太地町上野地区畑地かんがい事業のあらまし		抜刷、その他(書簡2通)	
412		無名戦士墓合葬者名簿	1961	その他(名簿)	
413		美術運動59	1960.2.10	雑誌	
414		歴史と伝説杉並談義	1962	抜刷	
415	矢ヶ崎榮次郎	国立公園白骨温泉	1911	単行本	
416		どてかぼちや 第20号、第21号	1957.1958	雑誌	
417	東筑摩郡職合青年会、電燈電力料値下期成同盟会	電燈料値下期問題運動史	1932	単行本	
418		橋浦泰雄画伯絵画頒布会	1949	肉筆原稿	
419		山袴の話	1937.5	単行本	
420		冬園	1967.7.2	雑誌	
421	橋浦泰雄	陳情書	1974.1	その他(陳情書)	
422		歳末年始用品値段表		ピラ・チラシ	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
423	橋浦泰雄	遺産の継承(1)、民族の舞踊、歌舞伎、三春駒、あちやさん、伊万里焼、下手物焼、大津絵、羽子板、掲載不明		抜刷	
424	橋浦泰雄ほか	メーデーの思い出	1960.1961	抜刷	
425		近きより	1949	雑誌	
426		草上	1947.1948	雑誌	
427	日本消費組合連盟	消費組合新聞 84,85,86号	1935.12.15,1936.3.15	パンフレット	
428	関東消費組合連盟中央執行委員会	1933年度一般報告書並に第十四回大会本部提案	1934.5.20	パンフレット	
429	城西消費購買組合理事會	定期総代会報告並に方針書草案	1936	パンフレット	
430	橋浦泰雄	日本プロレタリア芸術運動史		肉筆原稿	
431	橋浦泰雄	はしがき(無題)		肉筆原稿	
432	橋浦泰雄	心にしむ 法学セミナー1956年10月号所載	1956	肉筆原稿	計八枚
433	橋浦泰雄	蓮佛重寿		肉筆原稿	
434	松陽新報、読書の友	わが生活と読書、鳥取水脈社主催 芸術デー	1963.10.5,1922.11.25	その他	新聞切り抜き
435	橋浦泰雄	各地俚諺、五島の鬼の火、互助共産村百瀬川大岩村誌編纂資料1 行政の制度及び区画の変遷と大岩村の誕生、大岩村誌編纂資料2 行政の制度及び区画の変遷と大岩村の誕生(追加分)、大岩村誌編纂資料3 教育の変遷(読売サンデー漫画、東日本新風景、新東京大観(上、下))	1930、1932	抜き刷り	雑誌原稿
436	大岩村誌編纂委員会	日本共産党創立32周年記念大会に捧ぐ	1954.7.15	その他	
437		故 橋浦はる略歴		雑誌	
438	橋浦泰雄	名づくる日まで 大正5年(11月、12月、6号)	1916	肉筆原稿	肉筆雑誌
439	橋浦泰雄	初期の社会主義運動3 ほか計16枚		雑誌	
440	橋浦泰雄	文永寺史	1937	肉筆原稿	
441	下久堅小学校歴史研究会編			単行本	
442		生協・消費組合関係 新聞切り抜き計11点		その他	新聞切り抜き
443	三角泰	三角泰 遺作集	1941	その他	
444	橋浦泰雄	道祖神		単行本	
445				その他	写真22枚

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
446		郡誌別篇第、來目路の橋 覆刻本頒布の趣旨		抜き刷り	
447		東協連旬報第四号他		その他	印刷カード 封筒
448	林 要	随想 中国人の歩きかた	1976, 1976	抜き刷り	
449		叢文閣 出版図書目録	1931.4, 1932.1	目録	
450		柳田國男集 全廿五卷 別巻三冊 筑摩書房		その他	内容見本
451		共産党宣言	1945	単行本	
452	後藤捷一	江戸時代 染色技術に関する文献解題	1940	単行本	
453		民芸の仲間76 冬の時代	1964	雑誌	
454	近藤京子	福祉の道 ひとすじに	1978	単行本	
455		東洋文庫 解説目録 平凡社	1975	目録	書簡一通付
456		讀岐名所史 廣鳥瞰図		パンフレット	
457		話をさく會		パンフレット	
458	稲垣守克	社会主義と平和主義		パンフレット	
459		平凡社 日本民俗学講座 全13巻(目次のみ)		パンフレット	
460	米よこせ母子像再建の会	米よこせ母子像ができるまで その趣旨と最終報告	1975.10.	パンフレット	
461	田中新次郎	鳥取砂丘	1955	単行本	
462	橋浦泰雄	はしがき		肉筆原稿	
463	竹村民郎	柳田民俗学の軌跡		抜き刷り	三部
464		溪谷武蔵野会を開きます	1935	チラシ	
465	国書刊行会	三版 日本社会事象索引		単行本	
466		人民解放運動 戦士の碑 合祀者略歴	1965	パンフレット	
467	鳥取県石美町	観光岩美		パンフレット	
468	山口和久	近郊農山村の封建制及び停滞性と近代化による崩壊過程の一考察		その他	学生レポート
469	木部正行画会	木部正行画会趣意書		パンフレット	
470	生活協同組合久友会	久友会だより No.3, No.11, No.15	1973.1.1, 1978.12.1, 1980.12.1	雑誌	
471		鳥取無産人会報 第一号	1926	雑誌	計2部
472	産業組合中央会	第七回 市街地購買組合調査 昭和九年度	1934	雑誌	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
473	岡山民俗学会	会報 22号、23号 31号 32号 33号 46号 55号 56号 63号 69号	1962, 1963, 1964, 1965, 1967, 1969, 1971, 1972	雑誌	
474		島根民俗通信 第八号	1948	雑誌	
475		島根民俗 第1巻2号 第2巻2号 第2巻3号 第2巻4号 第2巻4.5.6号付録	1938.11, 1940.1, 1940.4, 1940.8	雑誌	
476	倉田正邦	倉田正邦発橋浦泰雄宛書簡、あしなな 第4集 7号 8号、新聞切り抜き2部、近鉄案内図、青 山高原と鈴鹿の山々	1955	雑誌	
477		新自治 2月号	1946	雑誌	
478	高橋作楽、宮本常一	教育に於ける新自治、吉濱町の印象		抜き刷り	
479		大根民族誌		抜き刷り	2部 雑誌抜き刷り
480		日本産育習俗資料集成		パンフレット	
481		因伯芸術家懇話会々報 第4号5号		雑誌	
482		証言・震災と弾圧	1963.8.27	その他	新聞切り抜き(赤旗)
483		日本美術学会報	1949.3.20	雑誌	
484		民間伝承	1935, 1938	抜き刷り	
485	城西消費購買組合	城西消費購買組合創立十周年記念演芸の 夕、開催届、招待状	1934.1935	パンフレット、その他	3部
486	城西消費購買組合	城西消費購買組合ニュース創立十周年記念 特別号	1940.5.15	雑誌	
487		書籍継続発行申請書		その他(申請書)	
488	橋浦泰雄	山本宣治	1929.3.5	肉筆原稿	
489		第二回理事会開催御通知、第二回理事会報 告並ニ審議事項、第二回理事会御案内、役職 員レポート(城西消費購買組合)	1938	その他(理事会資料)	
490	関東消費組合連盟	総選挙に際し声明す	1936.1.29	ビラ・チラシ	
491	西郊消費組合	全ての日用品は消費組合から		ビラ・チラシ	
492		昭和十二年画会芳名簿	1937	その他(名簿)	
493		柳田國男研究	1973.9.1	雑誌	
494		ナツプ旧友の会 五月の会ニュースNo.3	1974.5.1	雑誌	2枚

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
495		城西消費購買組合中央店舗建立基金ニュース 第1～3号、第5号、第6号	1936.4.5, 1936.4.15, 1936.4.18, 1936.5.6, 1936.4.29	ピア・チラシ	
496	橋浦泰雄	産業組合(三色)		その他(肉筆絵画)	
497	東京民主医療機関連合 会、情報宣伝出版委員会	東京民医連 第211号	1979.9.5	雑誌	メモ9枚
498		第二次中央執行委員会会議事録、第四回理事監事会開催御案内	1936	その他(議事録)	
499	共働社	購買組合共働社ニュース創立十五周年記念特集号	1935.8.25	雑誌	
500	澤田四郎作	大阪民俗談話会会報	1940.12.10	雑誌	
501	民間伝承の会	民間伝承 第八巻	1943.4.5	単行本	
502	橋浦泰雄	第一回 個人展覽会 芳名簿		その他	名簿
503	運仏重寿編	柳田先生はがき集	1962.9.25	単行本	
504	城西消費購買組合	組合だより 第二号		雑誌	
505		初代最高裁判官 三淵忠彦、浴室の硝子に湯気でできた顔	1971.8.26, 1971.11.5	肉筆原稿	
506		城西消費組合高円寺出張所ニュース 第一号	1934.6.17	雑誌	
507		日本海新聞	1943.9.25	抜き刷り	
508		優美デ丈夫洋服!!!		チラシ	2枚
509	橋浦泰雄	くじら衆、再版歴史大事典追補、発起人	1968.11	肉筆原稿	
510	文部省	第六回美術展覽会陳列品目録	1912.10.12	目録	
511		随筆 春夏秋冬 4.5.9.10.14.15、大根人参牛蒡役者、牛歩八十年		抜き刷り	
512	橋浦泰雄	連合会だより、第八店舗によせて、松川事件、競輪について		肉筆原稿	
513		日本文化史講座 刊行のことば、日本文化史講座 執筆要綱、日本文化史講座		パンフレット	
514		三重県教育会		その他	統計
515		財産目録	1941.4.30	目録	
516		統一劇場 No.122	1976.7.1	雑誌	
517	城西消費購買組合	本年度予算案審議決定の件	1936.2.15	パンフレット	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
518	橋浦泰雄	大岩小学校 校歌、姉をおもひ歌五首 田島に	1963.12.18	肉筆原稿	
519	橋浦泰雄	肉筆メモ		肉筆原稿	6枚
520		民間伝承の会発行図書目録		その他(図書目録)	3部
521	橋浦泰雄	かんば御願 久我山細胞 肉筆メモ		肉筆原稿	
522	橋浦泰雄	肉筆メモ	1954.9.26	肉筆原稿	他1枚
523		矢ヶ崎奇峰翁 古稀		その他(絵ハガキ)	
524	橋浦泰雄	橋浦昌雄(ブラジル)への手紙 未投函	1952.1.9	肉筆原稿	写真入り
525	橋浦泰雄	行事名索引「まつりと行事」毎日新聞社	1949.3.15	抜刷	橋浦泰雄
526		日本民俗学会会計報告	1956.9.15	その他(会計報告)	
527	橋浦泰雄	新妻		肉筆原稿	
528	橋浦泰雄	絵の下書き		肉筆原稿	
529		日本民俗学講習会趣意書、講演者と題目	1935.7~8	パンフレット	
530		寄本司麟従軍画会	1938	パンフレット	
531	宮尾厚	アリアンサ時報	1932.10.5	雑誌	
532	橋浦泰雄	人いろいろ(他人とわれ)		肉筆原稿	
533	橋浦泰雄	私の一・一八事件の真相	1953.1.28	肉筆原稿	
534	城西消費購買組合	城西消費購買組合へ御入り下さい!		ピア・チラシ	
535		橋浦泰雄氏出版記念会の御案内		ピア・チラシ	
536	中野組合病院	医療組合加入案内、診察時間その他		ピア・チラシ	
537	城西消費購買組合	皆さんの御加入を歓迎します、組合特報、この非常時局を如何にして切り抜けるか?、長期建設は家計の合理化から	1934.5.21	ピア・チラシ	
538		城西消費購買組合配給利益計算表、明細表		その他(明細表)	
539		暦の種類		その他(切抜)	
540	橋浦泰雄	人名リスト		その他(人名リスト)	
541		都会議員立候補推薦者承諾書	1951.3	その他(書簡)	葉書19枚、名刺1枚
542		第8回日本民俗学会年会	1956.10	パンフレット	
543	治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟	東京支部会員名簿	1977.12	その他(名簿)	
544		第二十二回木曜会互選句集		その他(句集)	6枚
545	橋浦泰雄	肥前五島方言集		抜刷	
546	文学部会	文学部会新聞	1940.6.15	雑誌	
547		神庭白黎個展図録	1941.10.15-19	パンフレット	



番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
548		暗黒政治の再現をゆるさず民主主義と基本的人権擁護の為に訴える	1976.2.21	ピラ・チラシ	
549		郭沫若先生教呈	1955.12.15	肉筆原稿	2枚
550	叢文閣	出版図書目録 叢文閣	1926.11	その他(図書目録)	
551		日本中国友好協会創立25周年関連葉書		その他(葉書)	3枚
552	橋浦泰雄	うれしゆうてならぬ		肉筆原稿	
553		日本共産党東京都議候補 橋浦泰雄経歴		ピラ・チラシ	2枚
554	橋浦泰雄	郭沫若先生		肉筆原稿	
555	大藤時彦、倉田一郎	疫神祭り 船霊の囀り 東京朝日新聞		その他(切抜)	
556	橋浦泰雄	緊急当面する対策	1950年代	肉筆原稿	
557		太地町ふるさとを聞く会(仮称)	1965.8.20	ピラ・チラシ	
558		契約書	1952.9	その他(契約書)	
559		大洋漁業株式会社捕鯨部総務第一課		写真	7枚
560	日本民俗学会	会則改正案	1956.10	その他(改正案)	
561		島の地図		その他(地図)	
562		正月用品需要量調査表	1951.11	その他(需要調査表)	
563	橋浦泰雄	郷土食		肉筆原稿	
564	橋浦泰雄	歌 2首	1963.12, 1964.?	肉筆原稿	
565	橋浦泰雄	研究所改革要項		肉筆原稿	
566	戦旗復刻版刊行会	雑誌「プロレタリア芸術」「前衛」復刻について お願い	1980.6	ピラ・チラシ	
567		因伯民談 久松文庫	1964.8.1	雑誌	
568	橋浦泰雄	歌 2首	1947.7	肉筆原稿	
569	橋浦泰雄	小さな谿で生まれた川	? .1.25	肉筆原稿	
570	橋浦泰雄	老人協同ホーム会報	1970.4.20	雑誌	
571	橋浦泰雄	先師柳田國男生活の原点(ルーツ)		肉筆原稿	
572		橋浦泰雄君民俗風景小品個展		ピラ・チラシ	
573	笠原千鶴	農協経営の基本矛盾		抜刷	
574	橋浦泰雄	民俗語彙 歌三首	1958.3	肉筆原稿	
575		松山文雄・須山計一 満州作品展示品目録	1937.10.22-24	ピラ・チラシ	
576		鳥取郷土選書、東筑摩郡道神誌	1959.7, 1931.6	ピラ・チラシ	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
577		理事会通知(ムサシノ生協)、お礼状(日本国民救援会)	1955.6.1, 1969.10.20	ビラ・チラシ	
578		写真 西郊民俗の会 於能田氏		写真	他一枚
579		第6回日本民俗学会年会	1954.10.2-3	ビラ・チラシ	
580		江口換 喜寿の祝言	1965.5.5	肉筆原稿	
581		教育会館案内		ビラ・チラシ	
582	山本靖民	神奈川県蝸牛方言		抜刷	
583		胡桃澤市議会議員候補推薦、橋浦泰雄画会	1933.6.20, 1957.5.10	ビラ・チラシ	
584		勝目テルさん活動歴		ビラ・チラシ	
585	橋浦泰雄	覚書	1975.7.27	肉筆原稿	
586		お話の題(太地町下里地区有志・青年会)	?8.22	ビラ・チラシ	
587		中央労働学院		ビラ・チラシ	
588	杉並区民クラブ	発企人及び準備委員会報告	1947.10.11	ビラ・チラシ	
589	名著出版	郷土研究		ビラ・チラシ	
590		香川県内小学校名		その他(小学校名一覧)	
591		第一回全北海道美術展覧会	1925.10.5	目録	
592	常松己一郎	常松己一郎から橋浦泰雄宛手紙		その他(肉筆手紙)	封筒なし
593	日本美術院	日本美術院第四回展覧会出品目録	1917.9.11	目録	
594	浮水書房	渡辺家所蔵品目録	?9.18	目録	
595		橋浦泰雄邦画個人展覧会作品目録	1934.5.6	目録	
596		東京都消費組合指導委員会委員	1946.8.21	その他(囑託状)	
597	檜画廊企画	三井寿木版画展じさまたちとほとけたち	1974.5.20	パンフレット	
598		熊本名所しをり		その他(しおり)	
599		図版 松の木		その他(図版)	
600		名刺		その他(肉筆覚書)	
601		島根民俗通信第二号、第七号	1947.11.15, 1948.8.15	雑誌	
602	上毛民俗の会	上毛民俗 No.15		雑誌	
603	橋浦泰雄	橋浦泰雄日本画展御案内 札幌市丸善画廊	1959.10.6-11	肉筆原稿	
604	橋浦泰雄	熊野地方の葬法と墓制について		肉筆原稿	
605	和田村壯年有志	壯年同盟設立の趣旨		その他(趣意書)	
606		木槿 五月作品抄	?6.29	その他(句集)	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
607	橋浦泰雄	日本歴史大辞典・原稿(河出書房)執筆依頼状(2通)執筆見本(1通)日本歴史大辞典要項		肉筆原稿	8項目担当
608		年賀状	1940	その他(書簡、年賀状)	39枚
609		年賀状	1938	その他(書簡、年賀状)	157枚
610		年賀状	1937	その他(書簡、年賀状)	243枚、年賀状リスト、名刺7枚
611	日本美術会	会報 No.28	1972.10.10	雑誌	
612	新日本出版社	ふるさとの祭 出版契約書	1971.4.20	その他(出版契約書)	
613		伊藤醇美君 他6枚		写真	7枚
614	橋浦泰雄	舞芸学院生卒業公演 十五の森に関するの講	1959.2.4-5	肉筆原稿	
615		書簡(挨拶状) 1928.3普通選挙	1928.3	その他(書簡、挨拶状)	計18枚(うちハガキ3通)中身あり2通
616	労働農民新聞社	労働農民新聞	1930.2.11	雑誌	
617	紀州地方旧友会	風雪紀州 No.20, No.21, No.22	1978.5.10, 1979.5.10, 1980.4.20	雑誌	
618	民間伝承の会	同好の人々へ	1935	ビラ・チラシ	
619	橋浦泰雄	挨拶状	1957.7.10	その他(挨拶状)	
620	日本実在派作家集団一同	日本実在派第10回記念展 於文藝春秋画廊	1974.3.4	ビラ・チラシ	
621	東京医療利用購買組合	出資証券 東京医療利用購買組合ニュース	1942.7.10	その他(証券)	
622		教職員レポート 第五集	?11.25	雑誌	
623		第五回プロ展選集 予約募集内容		ビラ・チラシ	
624	日本プロレタリア美術家同	帝展製作のために	1933	ビラ・チラシ	
625	橋浦泰雄	橋浦泰雄邦画展覧会 招待状、招待リスト		その他(肉筆覚書)	6枚
626	日本プロレタリア美術家同	美術運動	1933.9.20	雑誌	
627	ヤップ東京支部書記局	東京支部ニュース	1933.8.28	雑誌	
628	全国農村青年連盟	委員会決議	1946.9.19	その他(委員会決議)	
629		”道”創刊2周年記念文化講演会 熊野の民俗について	1971	パンフレット	
630		いしづえ 30号	1974.3.18	雑誌	
631		改造社出版目録	1948.10.	目録	
632		久友会だより No1		雑誌	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
633		協同互助	1970	雑誌	
634		草土社第三回美術展覧会出品目録	1916.秋	目録	
635	紀南地方旧友会	幸徳事件 紀州組の人々	1966	パンフレット	
636	長綱寺再建事務本部	醍醐天皇御尊牌奉安定所長綱寺再建発願趣意	1936	パンフレット	
637		故難波英夫会長・国民救済会葬の御案内	1972.3.28	その他	
638	竹橋事件百周年を記念する兵庫の集い	近衛兵の叛乱	1979	単行本	
639		債務対策 ほか	1955	肉筆原稿	生協関係書類
640	堺利彦先生顕彰会	堺利彦先生顕彰基金募集の訴え	1956.9	チラシ	
641		支那の旅		抜刷	
642		書物新潮	1940.6.15	雑誌	
643		叢文閣 出版図書目録	1930.9	目録	
644		大逆事件関係		その他	1枚
645	前田康雄	たかおの民話	1963	単行本	
646		中村吉藤、小川末明、秋田雨雀、三氏著作目録		目録	
647	橋浦泰雄	日記	1934.1.1～ 5.29 1937.6.4 1939.9 1964.6.22 1974.3.24(句誌)	その他	日記 他いくつか記述あり
648	日本評論新社	日本文学史辞典	1954	その他	見本
649		日本無産運動に対するコミンテルンの批判	1927.11.5	パンフレット	
650	宮原立太郎	肺結核 殊に虚弱児童の紫外線治療に就て	1931	抜刷	
651		メモ帳 柳田国男ハガキ		その他	ハガキは未使用
652		仏像エッチング三葉		その他	図版
653		プロット関係の報告書	1930年代	その他	3枚
654		丸善催し物御案内		チラシ	
655		民俗学に見る日中の結びつき など むらの習俗	1969	スクラップブック	大型のため、通常の箱には 統合せず。別枠。
656	田中新次郎	民話百題、伯耆大山、上巻	1951.7.30	パンフレット	
657	今野円助	柳田国男と研究会 女子聖学院短期大学紀要 第9号	1972.2	抜刷	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
658		労働者マンガの固定愛読者になれ!		ピラ	
659		わらび No.56	1963	雑誌	
660		異本”寺川狂談”の発見と寺川狂談成立の過程について		抜刷	
661		もやひとゆひ		抜刷	
662		日本共産党創立50周年に寄せて老友諸兄姉に訴える		ピラ	
663		橋浦泰雄作品頒布会について		パンフレット	
664		植物の民俗	1964.6.1 1964.6.10	雑誌	
665		Dentes vaginae 説話ニ就イテ東亜諸民族ノ欠齒風習に關スル一考察	1945.11.28	抜刷	
666		橋浦さんをねぎらう会出席者名簿	1969.4.20	その他	
667		第四回新女園文化講座女性のための歴史講		パンフレット	
668		北方風物	1946.2.15	雑誌	
669		原田幸子さんを送る言葉	1969.4.10	肉筆原稿	
670		岡山民俗談話会	1946.2.20	パンフレット	
671		五塵録		肉筆原稿	
672		南洋諸島の産育習俗	1945.11	抜刷	
673		考えの窓 No1		雑誌	
674		蒼空	1936	雑誌	
675		社会学研究第一号付録日本社会学会会員名	1944	その他	
676		極東 199号	1940	雑誌	
677	鳥取県岩美郡岩美町	観光開発5カ年計画	1956	パンフレット	
678		文芸春秋 12月号		雑誌	
679		日本山岳会会報85号	1939	雑誌	
680		株式会社築地小劇場 創立趣意書 目論見書 定款 設計図		パンフレット	
681	三谷栄一	日本文学に於ける戌亥の神の信仰		抜刷	
682	日本プロレタリア美術家同盟機関誌	プロレタリア美術 No5	1932	雑誌	
683		農民の友	1948.3.1	新聞	
684		第26回日本民俗学会年会プログラムと発表要	1974	パンフレット	
685		観光岩美		新聞	2部

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
686		CO-OP日本生協連のごあんない	1971	パンフレット	
687		東京老人福祉センター(仮称)設立計画書	1966.1	抜刷	
688	東京都生協連	協同互助	1970	雑誌	
689		日刊五嶋 第893号	1912.5.10.	抜刷	
690		月刊新協劇団	1939.9.1	新聞	
691		三河徳ノ國文化の中心地	1943	パンフレット	
692	日本山岳会	山岳語彙採集帖	1936	単行本	
693		新桃太郎		肉筆原稿	他のもあり
694		郷土 5月号	1941	雑誌	
695		民謡研究 第2号	1937	雑誌	
696		鶏卵と草子箱	1914	肉筆脚本	その他あり
697		奔流 詩集・小説		肉筆原稿	
698		同愛	1926.1 1926.2 1926.3	雑誌	
699		平民新聞より日本平民新聞に至る装画		自筆スケッチ	
700	平凡社	熊野太地浦 捕鯨史		パンフレット	計19部
701		より以上に不幸になる有縁		肉筆原稿	
702		ロバの耳		肉筆脚本	
703		有島武郎の終末		肉筆原稿	
704		短歌	1972	肉筆メモ	3枚
705		戸谷新右衛門		自筆メモ	
706		伝説 掲載号覚		肉筆原稿	3枚
707	橋浦泰雄	タイトル不明		肉筆原稿	2枚
708		秋風一千里		肉筆原稿	
709	桂又三郎	採集手帳第一集第二集		パンフレット	
710		対談速記録・昭和18年8月23日於厚生省		肉筆原稿	
711		消費組合運動と文化運動との結合		肉筆原稿	
712		海の信仰の研究 鈴木賢二木版画集		パンフレット	木版画集2部
713	橋浦泰雄	もやひと ゆひ		抜刷	2部
714		高知県高岡郡榛原村見聞記	1934.12	肉筆メモ	
715		平民新聞より日本平民新聞に至る挿画		その他	自筆スケッチ
716		スクラップブック雑		その他(スクラップブック)	2冊

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
717		橋浦泰雄個人展覧会	1925.5.16~17	その他	招待ハガキ2通 案内状1
718		新年句会		パンフレット	
719		婦人民主クラブ綱領	1946.3	パンフレット	
720		郡誌別篇第東筑摩郡道祖神誌		チラシ	
721		昭和十二年画会書類	1937	その他	
722	橋浦泰雄	石井大三郎さん 他2枚		肉筆原稿	
723		連句委員会規程		チラシ	
724		まつり通信	1962.9	雑誌	
725	中川恭次郎	花三十首 富士三十首	1941.4 1941.8	その他	短歌三十首
726	柳田国男	柳田国男 肉筆原稿 15枚		肉筆原稿	15枚
727		各説道祖神(1)名称 他3		肉筆原稿	緒言(1)調査の範囲 (5)形態とその変遷 不明原稿
728		花祭りのあと(部分)他		抜き刷り	
729		電報2通	1957.11.11 1960.7.13	その他	2通
730		橋浦泰雄画会収支表3枚		その他	3枚
731		橋浦泰雄日本画個人展 挨拶文 案内と目録	1957鳥取 7.10 5.10	チラシ	3枚
732		明治十五年鯨引張合のこと	1962	その他	採集メモ
733		橋浦泰雄作品頒布会趣意書	1930	その他	
734		橋浦泰雄画会チラシ	1937	チラシ	
735		橋浦泰雄作品展覧会目録	1933.12	目録	
736		民俗標訪贈呈先 他三枚			他3枚
737		橋浦泰雄邦画展覧会招待状	1932	その他	
738		熊野文化	1973.3	その他	機関紙
739		橋浦泰雄画会のこと(松本)申込書多数	1929.4	その他	案内状
740		橋浦泰雄画会並びに個人展覧会	1934.5.13	その他	
741	神庭白梨	第一回個展図録	1937.7	その他	
742		農村児童生活状態調査		調査資料	中身は橋浦泰雄日本頒布
743		東筑摩郡道神図絵 出版済み原稿		肉筆原稿	
744	因伯芸術家懇話会	紀元二千六百年奉祝総合芸術祭プログラム	1940	プログラム	
745		千金貫事油絵頒布会画会趣意書		その他	
746	橋浦泰雄	凡記		肉筆原稿	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
747		仙境丸静岡岡県周智郡気多村		案内状	
748		橋浦泰雄作品頒布会趣意書4部	1930.6	案内状	4部
749		日本民俗学のために		抜刷	
750		橋浦泰雄画会関連書類 申込書	1934	その他	申込書21枚
751		橋浦泰雄個展ご案内	1973.9	案内状	
752		橋浦泰雄日本画展御案内 橋浦泰雄日本画展 於札幌市	1959.1	パンフレット	各3部
753		硫黄由来記4部	1941.9 1941.12 1942.3 1942.11	抜刷	4部
754		みなみいよ 第10号 第11号	1963 1964	雑誌	
755		橋浦泰雄個展出品目録	1973.9	パンフレット	2部
756		鳥取民俗 橋浦泰雄先生追悼号	1979.12	雑誌	
757		第一回日本アンデパンダン展	1947	パンフレット	2部
758		採集手帖一冊		その他	
759		俳諧連句昭和式目	1944.7.31	その他	
760	村島鉄雄 伊吹英次 小林喜巳子	展覧会通知	1966.4 1968.11 1968.12	その他	
761		橋浦泰雄日本画頒布会3部 その他	1937	パンフレット	申込書9通 お願いい1通 直筆メモ
762	岡本利吉	学論体系の概要と邦文筆書目次		雑誌	
763		肥前五島方言集		抜刷	
764	小島彼誰	幼年記	1942.6.13	単行本	
765		山村スナップ	1932.11	雑誌	旅と伝説1932年11月号 別冊
766		濱田庄司	1978	パンフレット	
767	田沼商店	音訓かなつかひ総表	1902	その他	
768	草上書屋刊	草上 復刊準備第二巻三号	1948	雑誌	
769		橋浦泰雄画会関係		チラシ	
770	足助素一 叢文閣	有島武郎全集訂正誤表	1939.5.20	その他	
771		労働問題(慣習)調査要項		肉筆原稿	
772	鳥取文化財協会	櫻齋	1963.8	パンフレット	



番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
773	橋本鉄男	氏子狩年表		その他	
774		惟神経済樹立を急げ	1941.1.20	単行本	
775		橋浦泰雄邦書個人展覧会作品目録	1934.5.6~7.	チラシ	17枚
776		橋浦泰雄個人展覧会作品目録 橋浦素雄君 書会並びに個人展覧会にご勧誘の言葉	1934.5 1954.5	目録 チラシ	4枚 3枚
777		橋浦泰雄個人展覧会	1957.5.14~19	チラシ	43枚
778		松山文雄・前島とも子作品頒布会	1940.3	チラシ	2枚
779		出品目録第4回プロレタリア美術大展覧会	1931.11.28~ 12.13	チラシ	
780		第4回プロ展エハガキ	1931	その他	第一輯8枚 第二輯包装の み
781		労働農民党活動資金募集応募絵葉書	1927.8.19	その他	9枚
782		宣戦創刊号	1931	雑誌	
783	日本プロレタリア美術家同盟 常任中央執行委員会	PP第三回全国大会報告書	1931	パンフレット	
784		プロレタリア美術画集 第2輯	1930	パンフレット	
785		紀元二千六百年奉祝総合芸術祭プログラム	1940	チラシ	
786		大月源二作品頒布会	1932.12	チラシ	3枚
787		第五回プロレタリア美術大展覧会目録	1932.11	チラシ	
788		成層美術集団	1940	パンフレット	
789		ショーペンセンキ	1931.7	雑誌	
790		大逆事件ニュース第8号 第17号	1965.3.25 1969.12.10	雑誌	
791		丸由の歌と唄		パンフレット	
792		第五回プロレタリア美術大展覧会作品撤回並 びに東京府美術館使用拒絶に対する抗議 他 帝国憲法制定の精神 欧米各国学者政治家 の評論	1932.11	チラシ	第5回プロ展弾圧に関する 公開状1932.11
793	金子堅太郎	吉野川筋用水存寄申上書	1935.9.1	単行本	
794	山川隆平	武士の勃興 岩波講座日本歴史 国史研究会 編輯	1942	その他	
795	川上多助	労働省消費組合運動史の一駒 戸沢仁三郎 が歩いた道		抜刷	
796	奥谷松二	保谷村藝作品集第三輯		抜刷	
797	伊東月草		1944	その他	小冊子

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
798		藤森成吉文学碑建立記念誌	1975	その他	小冊子
799	産業組合中央会	第二次産業組合拡充三カ年計画	1937	その他	小冊子
800		土佐橋原勤王烈士列伝	1934.12.15	単行本	
801		人形文化資料展覧会目録	1949.10.25	単行本	
802	市谷信義	支那の旅(つづき)		抜刷	
803		への前書き	1949	肉筆原稿	
804		不明		肉筆原稿	飛騨高山の民家に関するもの
805		獅子舞は…		肉筆原稿	
806		熊野の民俗について熊野民俗の遺産継承の問題 於新宮市民会館	1966.8.14	肉筆原稿	
807		協同労働と相互扶助		肉筆原稿	122ページ
808		鳥取新報 昭和3年11月25日付 鳥取美術会と砂丘社の人々		肉筆原稿	
809		年中行事の話(5)五月節供 年中行事の話(6)田植えと水の神		肉筆原稿	
810		農村と結婚(1)ヨバイの意義 杉並西高の反動教育排除について都民の皆様へ語り!		肉筆原稿	
811		日本プロレタリア芸術同盟第一回全国大会プログラム 全日本無産社芸術職同盟創立大会報告書 他	1927. 1928. 1931.	その他	日本プロレタリア作家同盟創立大会報告議案
812		捏造自讃		肉筆原稿	102ページ
813		北野天神縁起		肉筆原稿	41ページ
814		屋根葺きの共同作業		肉筆原稿	
815		農業慣行のユイ(1)(4)		肉筆原稿	
816		橋浦泰雄画伯50年記念会芳名簿		その他(芳名簿)	
817	岩井宏実	絵馬		肉筆原稿	
818		民俗学女権一夕語		肉筆原稿	
819		日本民俗学の原点・講演の草稿	1979.4.23	肉筆原稿	
820		東北の玩具		肉筆原稿	
821		日本産育習俗誌妊娠編 産育習俗誌 日本の産育習俗		肉筆原稿	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
822		戦前台湾関係民俗小冊子 民俗学民俗文学 新書 船山遺書全集 東方文叢	1972	パンフレット	国立政治大学学報(1969- 1973) 亜州民俗社会生活 専刊(1970)民族(1925- メモ多数あり
823	ムサシノ生活協同組合	婦人代表者の変更		その他	
824		民俗蒐集行脚	1940.10.	その他	
825	佐野袈裟美	無産階級戦闘雑誌 日本共産党行動綱領.日 本共産党規約 俺達と政治 自由社会の創造 資本論	1926. 1972. 1916.	パンフレット	社会主義運動関係小冊子
826		インターナショナル 正義の光 ロシア革命11 月7日 アナキズムの科学的基礎 我々は如何 なる検閲制度のもとに晒されているか? 我ら は如何に進む可か?プロレタリアの政治運動 ロシア文化と函館 クロトキン全集 監獄部屋	1931. 1926. 1922. 1927. 1928. 1923.	その他	社会主義運動関係小冊子
827		民衆の自由を奪ふ労働者より農村の兄弟へ	1927	パンフレット	
828	橋浦泰雄	協同労働の慣行	1935	抜刷	3冊
829	橋浦泰雄	静岡県周智郡気多村語彙 方言第五卷第十	1935	抜刷	11冊
830		金銭出納帳		その他	
831	ムサシノ生活協同組合	会議記録	1950.11.	その他(会議記録)	
832		読売サンデーマンガ	1930.11.9	その他	新聞
833		食物習俗調査引佐郡都田村		抜刷	
834		戦時女性講習会 来るべき着物と戦時女性展 覧会 解説目録講習手帖			
835	竹村民郎	柳田民俗学の軌跡	1963.12.	抜刷	5冊
836		食料の調製と貯蔵		抜刷	9冊
837	柳田国男	史料としての伝説(非売品)	1944	抜刷	3冊
838		南洋諸島の産育習俗	1940.11.10.	抜刷	13冊
839		北海道に於ける農業と工鑛業との関係研究室 談会	1943.10.	抜刷	
840	市谷信義	戯曲西遊記	1934	抜刷	2冊
841	橋浦泰雄	柳田国男との出会い(ママ)		抜刷	著作権承諾願在中
842		肥前五島日記(上)	1933.8.	抜刷	4冊
843	市谷信義	戯曲眞美人草物語	1933.2.	抜刷	2冊
844		日本文化放送局随想原稿	1954.9.3.	肉筆原稿	
845		日本産育習俗資料集成		その他(カタログ)	5部 カタログ

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
846		種蒔く人 日本社会主義同盟報告	1921.12.	チラシ	
847		忘れられない畏友のむれ		肉筆原稿	
848	区民クラブ新居格記念会	思い出集と集まり案内		その他	書簡5通 ハガキ5通
849		採集手帖(未使用)		その他	
850		保存用読書の友		抜刷	新聞切り抜き 肉筆「民俗学の産屋より」 布施辰治からのからの手紙1通
851	久友会	関東消費連合関係		その他	ハガキ8通 書簡1通
852		新居格関係資料		その他	書簡6通 その他
853		新協劇団	1944.11.15.	抜刷	13枚
854		新婦人しんぶん連載婦人のあゆみ切り抜き綴		その他	1~73回迄
855		今は昔		肉筆原稿	
856	大藤時彦 他	内と外の道徳 青猪幻影 高山の今昔 琉球の糸満漁夫 市川庄一記念碑建設運動趣意書 故徳田球一同士十周年墓前祭武次第 山ムサシノ生活協同組合横浜生活協同組合御中メッセージ	1954	その他	民俗学雑誌切り抜き7点
857		初の地方巡業大相模 秋田雨雀		肉筆原稿	
858		無題		肉筆原稿	
859		無題		肉筆原稿	
860		武蔵野地域		肉筆原稿	
861		本著刊行に至る迄の経過		肉筆原稿	
862		東一郎様	1960.1.1.	肉筆原稿	
863		心にしむ	1956	肉筆原稿	
864		無題		肉筆原稿	3枚
865		橋浦さんをねぎらう会出席者名簿		その他	プリント
866		ソ連訪問記の一節		肉筆原稿	
867		児童劇鬼の島征伐	1930	肉筆原稿	肉筆脚本
868		無題		肉筆原稿	4枚
869		無題		肉筆原稿	6枚
870		アカハタ日曜版贈呈御案内		肉筆原稿	プリント
871		中外新報第113号	1935.10.27.	その他	切り抜き
872		農民の友第36号	1948.9.10.	その他	新聞切り抜き
873		自筆覚書 北島・千家		その他	民俗
874		集会許可申請書	1953	その他	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
875	福田寧雄	政堂首領の半日		肉筆原稿	福田寧雄の肉筆原稿
876	橋浦泰雄 他	我が国に残存せる婚姻の原始風俗 つまどひ よばふ 他	1940	抜刷	6冊
877		奥州の田村磨 青森の伝説		肉筆原稿	
878		鳥取民報連載凡々記1～7回	1979	肉筆原稿	
879		熊野商工新聞 産業経済新聞 ユダヤ人と共 産主義に就て 新文化	1969.4.15. 1959.7.30. 1947.5.29.	その他	切り抜き 9部
880		盆・祖霊祭祀		肉筆原稿	1ページ目なし
881		論文・日本プロレタリア美術運動史		肉筆原稿	
882		柳瀬正夢遺作展	1978	その他	画集
883		道祖神		その他	写真40枚
884		長崎県五島写真資料		その他	約80枚
885		郷土誌長崎南松浦郡 越前五箇其他 他		その他	6冊
886		美術運動 静かなる山々 明治大正実話全集 世界文学全集 火山灰地		パンフレット	
887	叢文閣	泉	1925.11. 1927.1.	雑誌	
888		共同生活十二ヶ月田植-5月- 大十月革命三 十七周年を讀えて 労同志の旗 労同志		肉筆原稿	
889		五塵録新聞連載切り抜き123～290回		その他	スクラップブック
890		東奥紀行		その他	
891		岩本のメモ		その他	自筆メモ
892		新編武蔵風土記稿		その他	自筆フイールドノート2冊
893		春を刈る		肉筆原稿	脚本
894		写真		その他	20枚
895		愛同 地方	1926.1～ 1926.3. 1926.10	雑誌	
896		ソ同盟 消費者協同組合 連合会 挨拶状		肉筆原稿	
897		無題		肉筆原稿	
898		日本産育習俗集成 前書		肉筆原稿	
899		1951年度報告並に方針書(草案)	1974	肉筆原稿	
900		自家用車と子猫		肉筆原稿	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
901		鯨を追うて 国際婦人デーにおしかけましょう 久我山にも 少年グレン隊 今私たちに一番大事なことは 腐る都政		肉筆原稿	
902		どてかぼちや		肉筆原稿	
903		千金貫事追悼文		肉筆原稿	
904		高知県榑原村語彙		その他	自筆メモ
905		五十年の時計 市川正一さんの回想 その他		肉筆原稿	全9部
906		大岩小学校校歌		その他	橋浦作詞
907		関東大震災記	1923	その他	
908	東京朝日新聞社	関盟版 マルクスエングルス全集全20巻		パンフレット	2冊
909		職盟版 マルクスエングルス全集全20巻		その他	
910		文化部会提案		その他	21枚
911	橋浦泰雄	民俗語彙		肉筆原稿	7枚
912		1955年出版記念会写真		写真	
913		昭和22年勅令第3号に該当せず	1948.4.30	その他	
914		生協への規制は不当です	1977.1.24.	その他	
915		日本画の題名カード		その他	21枚
916		米よこせ母子像ができるまで	1975.10.	その他	2部
917		会報第24回平和美術展特集号		その他	
918		橋浦泰雄個人展芳名録於鳥取市	1957	その他	
919		橋浦泰雄日本画展芳名録於宮清閑院	1952.11.	その他	
920		冬に咲く花回想の勝目アル	1985	その他	
921		日本生協連25年の歩み	1976.3.20.	その他	
922		平田良衛略歴	1976.10.30.	その他	
923		牝牛の目 その他	1914.2.26.	肉筆原稿	
924		生協運動五十年日協連創立二十年日協貿易 創立十五年資料展目録	1971.3.20.	その他	
925		芳名簿		その他	
926		青壮年新聞	1973.8.	その他	
927		橋浦泰雄日本画展芳名録於札幌丸善	1931.10.15.	その他	
928	大阪市立博物館	正月 いま・むかし	1965	その他	
929	大阪市立博物館	上方の絵馬	1963	その他	
930	東京都生活協同組合連合 会	20年の記録	1971	その他	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
931		日本歴史大辞典執筆見本 要項 依頼状		その他	全4部
932		満州民族学会会報第一巻第一号		その他	
933		山村スナップ サンデー毎日 民俗学の原点		抜刷	
934		台湾山岳語彙第15巻第10号	1943	その他	
935		城西消費組合ニュース 反動期における 労災だより	1974.10.	パンフレット	
936		三九郎小屋祭の道祖神		その他	計45点
937		東筑摩郡道祖神図絵のはしがき		肉筆原稿	
938		水脈		その他	
939		東筑摩郡道祖神図絵	1911. 1912.	その他	原稿・会生規
940		東筑摩郡道祖	1944	その他	写真版系51枚
941		昭和31年12月現在研究所所員俸給表	1956	その他	調査表 スケッチ
942		公判期日呼出状	1921.11.28	その他 (繕給表)	
943	橋浦泰雄	故小林国男先生の逝去を悼む		その他 (呼出状)	
944	橋浦泰雄	大岩小学校校歌		肉筆原稿	
945		太地町 写真	1962.12.23	肉筆原稿	
946	橋浦泰雄	カインとアルテム	1958.11	写真	計9枚
947		草野村ニ於ケル生産増強食料確保ノ實情		肉筆原稿	
948		ナツ旧友名簿		その他	
949		冬の日(連歌集)		その他	
950		橋浦泰雄氏訪ノ準備募金		パンフレット(連歌集)	
951		払出通知票 受取人橋浦泰雄	1961.6	チラシ	
952		第五回文化常会御通知 講演「お盆と夏祭」橋浦泰雄氏	1943.7.18	その他(払出通知票)	計6枚
953		無産者クラブ、前衛パンフレット四月号(全日本無産者藝術団体静岡地方協議会発行)	1929	雑誌	
954	柳八十一	足と誠意で集めた1500点(デイリースポーツ)	1966.12.18	その他(新聞記事)	
955	橋浦泰雄	1960年メモ帳		その他(肉筆メモ帳)	
956		鳥取無産県人会	1927.1	その他	
957		橋浦泰雄作品個人展覧会 於松本 cf「橋浦泰雄画会のこと」は計画書	1929.5	その他(計画書)	
958		紀元二千六百年奉祝総合芸術祭	1940.11	その他	
959		郷土画家橋浦泰雄作品頒布会趣旨書	1933.12	チラシ	
960		ヨッピー出版物講読用チラシ	1933.3.6	チラシ	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
961	新高山の会	南紀の山と谷	1977.5.20	その他	
962	橋浦泰雄	民族の理念(「科学文化」連載)	1943.4~9月	肉筆原稿	
963		橋浦泰雄個人小品展覧会(1930.9 於松本)	1930.9	チラシ	
964		老人協同ホーム会報	1963.6	その他(会報)	
965	松本芳景	唯物史観と哲学の新興形態		抜刷	
966		野方町政研究会	1929.6	その他	
967		大杉栄、伊藤野枝、橘宗一の葬儀	1923.12.16	その他	
968		気多村調査	1934.8	その他	
969		小品画会 於東京	1928.5	その他	
970		橋浦泰雄邦画個人展覧会 於長野市	1933.5	その他	
971		橋浦泰雄邦画会並に個人展覧会 於松本	1934.5	その他	
972	橋浦泰雄	橋浦泰雄「あいさつ」、柳田國男「類の紅い尻」	1959.1	肉筆原稿	
973		橋浦泰雄君民俗風景小品展覧会 於新潟	1939.7	その他	
974		橋浦泰雄作品頒布会 於鳥取	1930.6	その他	
975		橋浦泰雄君画番茶器頒布会 於松本	1931.7	その他	
976		橋浦泰雄邦画展覧会	1932.7.14	チラシ	
977		出版従業員組合規約	1920年代	チラシ	
978		道 故内山完造日中方好記念、他数点		その他	
979	橋浦泰雄	民間伝承の会 収支	1938.8	その他(肉筆覚書)	
980	皆川晃	皆川晃から橋浦泰雄宛書簡(中身のみのみ、年代不明)、東京芸術座第35回公演案内		その他(書簡、公演案内)	公演案内2枚
981	田上義也	橋浦さんに思う		肉筆原稿	
982		TUP通信	1953.10	雑誌	手紙在中
983	金田久璋	金田久璋から橋浦泰雄宛書簡(中身のみのみ、年代不明)	? 3.5	その他(書簡)	
984	松本善明後援会	委嘱状	1978.9	その他(委嘱状)	
985		抵抗の群像、の出版を祝い普及を語り合う集い案内	? 9.21	チラシ	
986		河毛市治へ対する償権	1964.10.10	その他	
987	橋浦泰雄	守随一君略歴		肉筆原稿	
988		東京芸術座 第50号	1977.9.1	雑誌	
989		李太郎記念館シリーズ 7号、すかんぼ	1975, 1976.6	雑誌	
990		杉並区の知識人・文化人のみなさんへ 日本共産党をはげます杉並文化人の会への加入の	1977.6.12	ビラ・チラシ	



番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
991	橋浦泰雄	日本の地力—熊野太地の捕鯨—目次		肉筆原稿	
992	河合信二氏を偲ぶ会実行委員会	滑走路阻ばめ腕くめ波すすき	1977	ピア・チラシ	
993		民俗学大会準備情況 第2号	1943	その他	
994		神協連ニュース 14号	1965.11.1	雑誌	
995		甘茶画会第一回展覧会	1926.5	ピア・チラシ	
996	橋浦泰雄	東筑摩郡中川村に於ける馬頭観音調		その他(肉筆メモ)	
997	橋浦泰雄	福井県の知己		その他(肉筆メモ)	
998	橋浦泰雄	趣旨(家族制度)		肉筆原稿	
999		岡本唐貴救済作品頒布会の設立について	1935	チラシ	
1000		ハガキ入れ		その他(ハガキ入れ)	
1001	丸善札幌支店	橋浦泰雄への領収書	1959.10.11	その他(領収書)	
1002		橋浦泰雄氏家族救済寄付金募集芳名簿	1928.12.30	その他(肉筆名簿)	
1003		橋浦家句碑建立に寄せて	1961.夏	その他(肉筆趣旨)	
1004		橋浦泰雄画会関係書類 於鳥取市	1957.5	その他	
1005	日本漫画研究会	東京パック 分売		チラシ	
1006		印鑑証明願	1937.10.25	その他(印鑑証明願)	
1007		橋浦先生を囲んでの座談会出席者		その他	
1008	橋浦泰雄	まつやまふみお兄	?3.11	肉筆原稿	
1009		政暴法をめぐる音楽・講演・映画	1961.9.1	チラシ	裏面に覚書あり
1010	平凡社	熊野太地捕鯨鯨史豪華版御案内		チラシ	
1011	橋浦泰雄	鯨に挑む町 町内贈呈先		その他(肉筆メモ)	
1012	橋浦泰雄	カード		その他(肉筆カード)	4枚、「橋浦泰雄カード」の67番にも登録。
1013		口上 橋浦先輩還暦祝賀会	1948.11.9	その他(肉筆メモ)	
1014		橋浦泰雄氏出版記念会の御案内		ピア・チラシ	
1015	東京鉄道局	キヤムビング	1934	パンフレット	
1016		第20回平和美術展(主旨)出品受付証	1972.8.6	その他	
1017	近畿民俗学会	謝礼(近畿民俗学会)	?9.23	その他(謝礼)	
1018	産業組合中央会	領収書(産業組合中央会)	1931.4.25	その他(領収書)	
1019		写真 荻谷八幡通 1-41 大藤(時彦カ)		写真	5枚
1020	浅野弥祐	浅野弥祐 母の葬儀礼	1969.1.30	その他	
1021	橋浦泰雄	雑誌紹介		肉筆原稿	
1022	橋浦泰雄	小林健樹宛弔電原文		肉筆原稿	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
1023		第九回談楽会御案内		その他	
1024	橋浦泰雄	水彩画に讀		肉筆原稿	裏面はチラシ
1025		名刺		その他(名刺)	1枚
1026		原稿料送金御通知	1970年代	その他	
1027		眞澄遊覧記刊行会案内	1930.1.?	チラシ	
1028		北光トリオ 第一回演奏会	1924.10.17	パンフレット	
1029	橋浦泰雄	久我山支部葬儀委員会おしらせ(裏に覚書)	? . 1. 11	その他(覚書)	
1030		故小野宮吉(30年忌)追悼会記念	1966.1.27	その他(記念写真カード)	
1031		前田寛治遺作展 不忍画廊	1966.11.28-12.5	パンフレット	裏に書き込みあり
1032		故人田元夫劇団葬式次第	1976.10.4	その他(案内状)	
1033	柳田國男、岡茂雄、比嘉春潮	橋浦泰雄画会通知	?	その他(画会通知)	
1034		生活協同組合婦人のつどい	? . 10. 26	その他(入場券)	
1035	日本共産党中央委員会赤旗編集局	払込通知票	?	その他(払込通知表)	
1036		名刺3枚		その他(名刺)	竹本賢三、早瀬展子、井出太郎
1037		柳田國男先生古稀記念会趣旨	1943.9	ビラ・チラシ	
1038		橋浦泰雄個人展覧会作品目録	1934.5	目録	
1039		橋浦泰雄日本画個人展覧会	1937.5.14-16	ビラ・チラシ	
1040		橋浦泰雄画会申込用紙	1928.5	その他(申込用紙)	
1041		北関・日本美術会後援会趣意書(草案)	1947.11.7	その他(草案)	
1042		大洋漁業捕鯨部	?	その他(自筆メモ)	
1043		昭和18年度、東方民俗研究会一覽	1943	その他(趣意書、会員名簿)	
1044		尾張 津島神苑の鶴		その他(未使用のハガキ)	
1045		書置き、差出人、年代不明		その他(書置き)	
1046		正誤表(出典不明)		その他(正誤表)	
1047		第6回石山太拍個人展覧会	1931.4.25	パンフレット	
1048		昭和4年4月 橋浦泰雄画会のこと 於松本市	1929.4	パンフレット	
1049		書置き、差出人、年代不明		その他(書置き)	

番号	編著者	資料名	年	ジャンル	備考
1050		払出通知書(小笠原栄治)	1928.7.9	その他(払出通知書)	
1051		納品書(『あすの農村8月号』)	1977.7.22	その他(納品書)	
1052	橋浦泰雄	書きかけの手紙		その他(未投函書簡)	
1053		『昔話研究』壬生書院広告、未使用絵葉書3枚		その他(広告、絵葉書)	
1054		返信ハガキ 詩人会議気付 故壺井繁治氏を偲ぶ会		その他(返信ハガキ)	
1055		その他 桜井生	? .9.29	その他(肉筆手紙)	
1056		覚書 那智 行基上人行跡		その他(覚書)	
1057		番茶器頒布会より	1931.9.21	その他(宛て先不明ハガキ)	
1058		熊野太地浦捕鯨史(平凡社)、別冊・捕鯨絵巻(全六巻)	1969.3.20	単行本	大型のため、通常の箱には 統合せず。別枠。
1059	柳田國男	聲入考 / 共同・共有・分配について	1929.10	抜刷・その他(講演記録)	
1060	牧野信之助、飯田栄助	越前産紙考 / 越前紙漉図説	1938	単行本	
1061	佐賀県女子師範学校	佐賀県下の島嶼に於ける植群(主として小川島及加唐島に就て) / 佐賀平野開発考	1935	単行本	

橋浦泰雄 関連雑誌

1/1.

タイトル	著者名	刊行年	出版社	備考
泉	足助素一	1923.1~1922.10	叢文閣	
泉	足助素一	1925.11~1927.1	叢文閣	
ドルメン	岡茂雄	1938.12~1939.8	東條書店	
健民	栗山弘忠	1945.10~1946.2	北東日本厚生協会	
新風土	小山久二郎	1939.3~1939.10	小山書店	
文芸春秋	船田龍太郎	1942.10~1944.7	文芸春秋社	
南越民俗 復刻版	安田輝雄・群谷豊	1975	安田書店 ひまわり書店	
同愛・地方	柳田毅三・日狩考太郎	1926	同愛會・帝国地方行政学会	橋浦保存用
赤旗(復刻版)1~4	白石舜太郎	1977	白石書店	
アカハタ縮刷版1,2,3,6	竹中恒三郎	1961	日本共産党中央委員会出版部発行	
南面鑑賞	石塚彰吾	1938~	南面鑑賞會	
ひだびと	江馬ミサホ	1938~1944	飛騨考古土俗学会	
現代農業 第二卷下	相原覚	1936	大日本農機具協会	
現代農業 第三卷上	相原覚	1937	大日本農機具協会	
現代農業 第三卷下	相原覚	1937	大日本農機具協会	
現代農業 第四卷第一号	相原覚	1938.1	大日本農機具協会	橋浦保存用
現代農業 第五卷第六号	相原覚	1939.6	大日本農機具協会	橋浦保存用
昔話研究 第一卷	荻原正徳	1936	三元社	
昔話研究 第二卷	関敬吾	1937	民間伝承の会	
島 第一卷	西村豊吉	1933	一誠社	
郷土 第一、二卷	池上隆祐	1932	郷土発行所	
民間伝承第十卷(第九号欠)		1944.1~.8	民間伝承の會	
民間伝承第十一卷(欠ナシ)		1946.8~1947.10	民間伝承の會	
民間伝承第九卷		1943.5~.12	民間伝承の會	
民間伝承第七卷第六号		1942	民間伝承の會	
民間伝承第十二卷第三、四号併合		1948	民間伝承の會	
民間伝承第十二卷第五、六号併合		1948	民間伝承の會	
民間伝承第十二卷第一号		1948	民間伝承の會	
民間伝承第十二卷第二号		1948	民間伝承の會	
民間伝承第八卷		1943	民間伝承の會	

## 橋浦泰雄 肉筆原稿一覧

番号	資料分類	年	月日	タイトル
1	覚書	1911		水脈 原稿 会清規
2	覚書	1912		水脈 原稿 会清規
3	脚本	1914	7.26	鶏壺と菓子箱 その他
4	脚本	1918	11.25	黒き海の音:2幕5場
5	脚本	1914	2.26	牡牛の目:1幕
6	原稿	1914	2.28	柿の芽
7	原稿	1913	5.13	ある夜
8	原稿	1913	9.8	独身者
9	原稿	1913	10.14	逃走
10	原稿	1912	1.11	満州の者
11	原稿	1912	2.12	病尊
12	原稿	1912	3.24	漠天の妻
13	原稿	1912	5.13	白眼断片
14	原稿	1912	6.3	逆流せる河辺より
15	原稿	1912	7.11	409号.歌稿にかえて
16	原稿	1912	10.1	狗肉
17	原稿	1911	3.5	恋の盗人
18	原稿	1911	9.12	ある女へ与ふる文
19	原稿	1911	9.12	青い星
20	原稿	?	?	貧児の保
21	原稿	?	?	或女の日記
22	原稿	?	?	その他
23	原稿	?	?	奔流
24	覚書	1941	?	木曜会についてのメモ等
25	手書き本	1916	?	『名づくる日まで』第1号65号
26	手書き本	1913	?	『MIWO』12月合併号
27	手書き本	1913	?	『水脈』12月号
28	原稿(作者不明)	1928	11.25付	鳥取美術協会と砂丘社の人々(5):鳥取新報
29	原稿	?	?	野の木
30	原稿	?	?	日本の家族
31	原稿	?	?	民俗学問答
32	原稿	?	?	民俗探訪
33	原稿	?	?	民俗探訪:首途のその頃 続
34	原稿	?	?	民俗探訪:後尾追加原稿
35	原稿	?	?	民俗探訪:挿し絵(1~5)
36	原稿	?	?	民俗学:昔を今に(不可解な地名の戸籍調査)
37	原稿	?	?	民俗学:不明
38	覚書	1943	?	論文集執筆者リスト(柳田国男先生古希記念)
39	原稿	1910	?	若き日の路(夜素鳥)
40	原稿	1912	?	段々畑
41	原稿	1913	?	赤夢白夢1幕2場
42	原稿	1912	2.1	河豚の腹 小説
43	原稿	1912	3.8	香煙 小説
44	原稿	1912	6.2	赤い夢1幕2場
45	原稿	1912	1.1	紅燈 小説(泰)
46	原稿	1911	12.13	女に(泰)
47	原稿	1911	11.7	姉々芽(泰)
48	原稿	1912	9.13	米の生る木(泰)
49	原稿	?	?	少年と子犬
50	原稿(楽譜)	?	?	千島の歌

51	原稿(楽譜)	?	?	岩内
52	原稿	?	?	日本産育習俗誌 妊娠編
53	原稿	?	?	産育習俗誌
54	原稿	?	?	日本の産育習俗
55	原稿	?	?	北野天神縁起(41ページ)
56	原稿	1926	6.25	互助共産村 百瀬川
57	原稿	?	?	共産的部落としての「門入り」
58	原稿	?	?	新興共産村 濱崎村
59	原稿	1925	7.25	尻屋村
60	原稿	?	?	年中行事の話(5) 五月節供
61	原稿	?	?	年中行事の話(6) 田植と水の神
62	原稿	?	?	農村と結婚(1) ヨパイの意義
63	原稿	?	?	杉並西高の反動教育排除について都民の皆様 に訴う
64	原稿	?	?	みさを・貞操の意義
65	原稿	?	?	民俗学問答
66	原稿	?	?	捏造自讃
67	原稿	?	?	協同労働と相互扶助
68	原稿	1926	2.28	岐阜県揖斐郡徳山村は・・・
69	原稿	?	?	東北の玩具
70	原稿	?	?	新今昔物語 婚姻の巻(1)
71	原稿	?	?	七不思議 大阪の伝説
72	原稿	?	?	婚姻の歴史(3)
73	原稿	?	?	農業慣行のユイ(1)～(4)
74	原稿	?	?	鯛の頭も信心から
75	原稿	?	?	つゆのいり芸種の後のみずのえの日
76	原稿	?	?	考古学への希望 民俗学徒の一員として
77	原稿	?	?	屋根葺きの共同作業
78	原稿	?	?	岩井宏実著絵馬
79	原稿	1954	9.2	農村の生活と芸能
80	原稿	1975	?	無題(始めて信仰を見たのは)
81	原稿	1938	2.?	我が國人の協同観念
82	原稿	1979	4.23	日本俗学の原点講演の草稿
83	原稿	?	6.7	講演記録原稿
84	原稿	1966	8.14	熊野の民俗について
85	原稿	?	?	民俗学 女権一夕語
86	原稿	?	?	労働問題(慣習)調査要項
87	原稿	?	?	主婦と杓子
88	原稿	?	?	不明(飛騨高山関連)
89	原稿	?	?	獅子舞は・・・
90	原稿	?	?	不可解な地名の戸籍調査
91	その他	?	?	俳句六首

## 橋浦泰雄 採集手帳・カード一覧

番号	年月日	タイトル	枚数	備考
1	1935.5.28	ハル子さん結婚式次第	1	
2	1936他	因幡	6	
3	1938,51,52など	講演会、研究会メモなど	10	
4	1939.4-7	昭和14年のカード類	10	
5	1941.10.30	新たなる世代を前にしてインテリ青年女子の生くべき	4	
6	1941.9.27.	郷土文化と民俗学	9	
7	1943	栃木県下都丸郡赤津村	10	
8	1943.1.22	我が国人の道徳観倫理観(講演メモ)	1	裏戸井田道三住所
9	1943-4, 51-3	西郊民俗談話会	12	7回分
10	1943-4年	木曜会	4	4回分
11	1944,5	空襲メモ	50	4束(うち一束は地図や証言、新聞なども含む)
12	1944.5.5	大浦村常会での講演	9	
13	1945他	絵	14	
14	1947	長野県下伊那郡	2	
15	1950,51,53,55年	日本民俗学会年会	11	5束(2,3,2,2,1)
16	1951.3.25	對馬ワニ浦	3	
17	1951-1959	柳田講演関係	4	
18	1952.1.21	小日村敏畑	6	
19	1953,1959,1963年ほか(不明舎)	共産党、組合関係カード	128	束、バラまじり(束は5)、A4チラシ1枚
20	1953、他	和歌山県那智地方	122	封筒あり
21	1953.5.13	村ハチブと村落協同制度(講演)	2	
22	1954.10.1	第六回民族学会定例大会	4	
23	1954.5-1954.12.20	新聞原稿覚書	3	
24	1956.7.5	日本人民族の本来の姿	2	
25	1956.8.11.	東北地方/会津地方	5	
26	1957.10.6	第九回民俗学大会関連	3	
27	1958-65	捕鯨実地調査カード	10	B5裏紙主に使用、封筒舎
28	1959.10.17	教育の今昔と社会悪(講演)	2	
29	1959.7.25他	歌・詩・和歌・漢詩	33	1枚裏年表、1枚裏組合会計、1枚覚書(天皇制、法皇、家族制度他)
30	1968.10.	悪妻と結婚(講演)	6	2回分
31	1970.9.11(ほか)	結婚と性	6	3束(3,2,1)
32	1973.6-7.	病床メモ	4	

33	市川正一さんの思い出	5	3束
34	絵タイトル	1	
35	おぼの昔話(水沢謙一著)	3	2束
36	カード台紙	7	
37	季節用語	8	
38	旧歴史と新歴史	6	
39	久我山細胞の歴史	3	
40	諺に対する私注	1	
41	雑	56	
42	静岡県庵原郡両河内村	2	
43	事典の項目か?	3	
44	宿泊費	1	
45	人名リスト	6	
46	杉中氏	3	
47	政治報告中当面の任務について	4	
48	著作物目次ほか資料	21	
49	通過儀礼	11	
50	日本家族制度考	9	1束、あとはバラ
51	日本美術会第一回実行委員会	4	
52	日本百景	4	
53	日本民俗学総論	23	
54	年号一覧表	2	
55	年中行事	147	
56	橋浦泰雄関連	4	2束
57	芭蕉七部集に使われた民族語彙	5	
58	跋五島、太地訪問のこと	1	
59	方言	2	
60	民俗学関係カード	76	1枚裏絵
61	民俗学早わかり	4	
62	民俗語彙	91	裏に劇の台本7枚、ほか4枚。13枚は別カテゴリー
63	未使用カード(小)	41	
64	未使用カード(大)	257	封筒入り
65	村における労働に関する質問項目	16	
66	明治百年史	11	5束
67	短歌、蔵王権現像など	4	「橋浦資料」の1012番にも登録。



## 橋浦泰雄 書簡一覽

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1	愛育会	1	0	0
2	相澤徳之進	1	0	0
3	会田弘志	2	4	0
4	会津八一	1	3	0
5	青池旺苗	0	4	0
6	青池沈魚	0	1	0
7	青柿善一郎	0	1	0
8	青木書店	1	0	0
9	青木直記	2	3	0
10	青木正夫	0	2	0
11	青山嘉枝	6	3	0
12	青山義男	1	1	0
13	青山義高	1	1	0
14	赤井儀太郎	0	1	0
15	赤木健介	0	1	0
16	赤旗文化部	1	0	0
17	赤旗編集局	4	4	0
18	赤穂年秀	6	17	0
19	赤松章見	0	1	0
20	赤松俊子	0	1	0
21	秋田雨雀	4	18	0
22	秋田雨雀氏生誕五十年祝賀会準備委員	0	1	0
23	秋田雨雀『三つの魂』出版記念会	0	1	0
24	秋山?	0	1	0
25	穠山鶴松	4	11	0
26	秋山良照	1	0	0
27	明智常院(広島)	0	2	0
28	浅沼喜実	0	1	0
29	浅野晃	0	4	0
30	浅野猛夫	0	2	0
31	浅野弥祐	1	3	0
32	朝日新聞	0	3	0
33	浅利瑞穂(和歌山)	0	3	0
34	足助素一	52	93	0
35	足助たつ	4	19	1
36	梓書房	2	1	0
37	東王源	1	12	0
38	東典一	4	1	0
39	麻生良方	1	0	0
40	安達武男	0	1	0
41	阿刀田令造	0	2	0
42	姉川盤根	1	0	0
43	阿部市次	0	1	0
44	阿部淑子	0	1	0
45	甘粕和子	1	3	0
46	天野武	1	0	0
47	天野安平(静岡)	0	2	0
48	雨田民	1	0	0
49	鮎澤實也	0	1	0
50	荒木如月	0	1	0
51	荒畑寒村	1	2	0
52	有地滋迪	0	2	0
53	有賀喜左衛門	35	18	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
54	有島武生	3	0	0
55	有島武郎	23	21	0
56	故有島武郎氏七周年記念会発起人一同	1	0	0
57	有島増蔵	0	3	0
58	有島行光(森雅之)	2	0	0
59	有田淳	1	0	0
60	有田平蔵	1	0	0
61	有村正吉	1	0	0
62	『アルト』編集部	1	0	0
63	安東仁兵衛	0	3	0
64	安東哲子	11	14	0
65	安藤英方	4	12	0
66	安東義雄	0	4	0
67	飯田正晴	1	1	0
68	飯塚半衛法律特許事務所	0	3	0
69	飯塚三枝子	1	0	0
70	飯沼章	2	1	0
71	飯沼よし子(芳子)	6	2	0
72	飯野武志	0	1	0
73	飯野農夫也	3	2	0
74	飯野二三子	0	1	0
75	飯盛良一	0	1	0
76	家の光協会	2	1	0
77	五十嵐広三をはげます色紙展実行委員会事務局	0	1	0
78	五十嵐久弥	1	11	0
79	五十嵐元三郎	2	1	0
80	生越相蔵	0	2	0
81	生田弥範	2	1	0
82	生田清	1	4	0
83	生田長江	1	0	0
84	井口耕宗	0	4	0
85	井汲越次	0	2	0
86	井汲清治	0	1	0
87	池一郎	0	1	0
88	池上喜作	3	3	0
89	池上鎌三	1	2	0
90	池上広正	0	1	0
91	池上廣正	1	0	0
92	池上隆祐	16	26	0
93	池田醇一	1	0	0
94	池田種生	2	1	0
95	池田哲夫	1	7	0
96	池田敏雄	1	2	0
97	池田弘子	0	2	0
98	池田弥三郎	1	0	0
99	池田美	0	1	0
100	池辺弥	1	1	0
101	池本利美	1	8	0
102	井阪康二	0	1	0
103	伊沢源一	1	0	0
104	伊澤湧一	1	1	0
105	石井修義	1	2	0
106	石井大三郎	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
107	石井のぶよし	0	1	0
108	石井英雄	4	3	0
109	石井芳雄	6	15	0
110	石垣柊子	1	1	0
111	石川薫	1	1	0
112	石川軍二	0	1	0
113	石川謙	0	1	0
114	石川こう治	0	1	0
115	石河つな子	0	1	0
116	石河大直	5	16	0
117	石川富士雄	1	0	0
118	石川正雄	1	0	0
119	石河吉男	4	0	0
120	石河良吉	0	1	0
121	石黒武重	1	2	0
122	石黒忠篤	0	3	0
123	石田英一郎	8	10	0
124	石田修一	0	1	0
125	石田幹之助	0	2	0
126	石塚?	1	0	0
127	石塚尊俊(島根県)	7	8	0
128	石津成方	0	1	0
129	石野在	1	2	0
130	石野宣之	0	4	0
131	石橋千代一	4	2	0
132	石原純	1	0	0
133	石原龍一	12	6	0
134	石母田正	0	1	0
135	石山節子	1	12	0
136	石山太柏	4	9	0
137	伊豆公夫	0	3	0
138	梶原郵便局	1	0	0
139	泉畏三士	1	0	0
140	泉盈乃進	2	2	0
141	泉歯科医院	0	5	0
142	泉正雄	3	0	0
143	泉正路	2	3	0
144	泉陽一	1	1	0
145	磯野富士子	1	3	0
146	板垣松三郎	0	1	0
147	市川一行	1	0	0
148	市川敬三	0	1	0
149	市川順吉	0	1	0
150	市川正一記念碑建設発起人会	1	0	0
151	市川信次	3	7	0
152	市川義雄	3	0	0
153	市来家隆	0	1	0
154	一條書房	1	0	0
155	市谷信義	56	37	0
156	市場徳太郎	2	1	0
157	市原寿一	0	2	0
158	市原忠義	0	2	0
159	市原宏	0	1	0
160	市村三男三	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
161	一志茂樹	0	1	0
162	一誠社	4	2	0
163	伊東?	1	0	0
164	伊藤栄治	0	1	0
165	伊藤憲一	0	2	0
166	伊藤三郎	1	0	0
167	伊藤繁治(長野県)	6	3	0
168	伊藤清遠	0	1	0
169	伊藤武次郎	0	1	0
170	伊藤月草	4	5	0
171	伊東月草(柳田宛)	1	0	0
172	伊藤徳重	13	23	0
173	伊藤敏博	1	0	0
174	伊藤弘子	1	1	0
175	伊藤吉紀	1	0	0
176	伊藤義持	0	1	0
177	井戸垣保三	0	1	0
178	糸川寿一	0	6	0
179	稲垣?(宣伝部)	1	0	0
180	稲木信夫	0	2	0
181	稲澤修	1	0	0
182	伊奈藤吉郎	0	1	0
183	井波清治(長崎)	1	1	0
184	稲村順二	0	2	0
185	稲村徹元	0	1	0
186	伊奈森太郎	2	2	2
187	井上謙治	0	1	0
188	井上佐久良	0	6	0
189	井上多々彦	0	1	0
190	井上達三	0	2	0
191	イノウエトクオ	0	1	0
192	井上福實	0	1	0
193	井上芳太郎	1	0	0
194	井上義道(白井番二)	13	43	0
195	井上頼壽	0	1	0
196	井上頼豊	0	2	0
197	井江耕宏	0	1	0
198	井之口章次	0	6	0
199	伊波普猷	2	2	0
200	伊波普猷生誕百年記念会	1	0	0
201	今井居一郎	0	1	0
202	今井孝一郎	1	0	0
203	今泉安蔵、木村貞蔵	0	1	0
204	今井武志	3	4	0
205	今井福治郎	0	2	0
206	今井満治郎	0	1	0
207	今谷?	1	0	0
208	今永正樹	0	2	0
209	今成隆良	3	0	0
210	今村よね子	1	0	0
211	伊宗東	1	0	0
212	井村義正	1	0	0
213	入江昶	0	2	0
214	岩?	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
215	岩倉市郎	0	3	0
216	岩倉栄	0	1	0
217	岩崎清美(長野)	1	10	0
218	岩崎書店	0	2	0
219	岩崎節子	0	1	0
220	岩崎敏夫	0	1	0
221	岩崎美術社	6	1	0
222	岩崎益治	0	1	0
223	岩佐作太郎	1	0	0
224	岩瀬秋子	1	1	0
225	岩瀬法雲	14	26	0
226	岩田準一	2	1	0
227	岩田親吉	0	1	0
228	板谷彩雲(彩雲居)	4	19	1
229	岩波茂雄	1	0	0
230	岩波書店	1	1	0
231	岩渕悦太郎	1	0	0
232	岩船雅一	1	0	0
233	岩間正男	0	2	0
234	岩美町中央公民館	1	0	0
235	岩美町役場	1	0	0
236	岩美町立大岩小学校PTA	1	0	0
237	岩村亀吉	12	11	0
238	岩村秀男	0	9	0
239	岩本観	2	6	0
240	岩本倭三太郎	1	0	0
241	因伯芸術家懇話会	2	0	0
242	因伯芸術祭関連	24	66	5
243	因伯社	1	7	0
244	上社会	2	0	0
245	上田幸一	0	1	0
246	上田祐三	1	3	0
247	上野勇(群馬県)	2	7	0
248	上野山博	1	1	0
249	上原陰人	0	1	0
250	上村角兵衛	1	1	0
251	鵜川静雄	37	64	0
252	浮世絵新聞社	2	0	0
253	氏家瑞枝	0	1	0
254	牛尾三千夫	2	3	0
255	牛島巖	0	2	0
256	牛島軍平	1	1	0
257	薄田研二	0	1	0
258	臼田甚五郎	0	1	0
259	内海延吉	0	1	0
260	内田孝夫	0	1	0
261	内田武志	0	2	0
262	内田満	4	4	0
263	内山勉	1	0	0
264	内山春雄	1	0	0
265	内山眞弓刊行会	4	0	0
266	宇野圓空	0	1	0
267	梅沢純子(四郎、はぎ子)	0	10	0
268	梅田博	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
269	梅田之	1	0	0
270	梅津四郎	2	1	0
271	埋橋千春	0	1	0
272	埋橋正治	0	3	0
273	梅原末治	2	5	0
274	梅原龍三郎	0	1	0
275	浦田武雄	1	1	0
276	浦辺史	1	0	0
277	関井ノブ隆	0	1	0
278	海野美代市	1	1	0
279	頼原退蔵	2	1	0
280	江川肇男	3	22	0
281	江口渙・栄子	7	13	0
282	江口繁雄	0	1	0
283	江崎勝茂	1	0	0
284	江刺昭子	1	0	0
285	越前栄太郎	0	1	0
286	江津誠(左翼劇場)	1	6	0
287	江戸喜久治	5	7	0
288	海老原勉	1	2	0
289	愛媛新聞社	4	0	0
290	江淵勝也	1	0	0
291	江馬隆、三枝子	22	56	0
292	榎本五美	0	2	0
293	榎本萬里	1	0	0
294	沿線社	0	1	0
295	笈川光蓉	0	1	0
296	小井川潤次郎	0	1	0
297	及川宏	2	3	0
298	小井田幸哉	0	2	0
299	大石勲	0	1	0
300	大内昭三	0	1	0
301	大内兵衛	0	1	0
302	大江賢治	1	4	0
303	大木遠吉	1	0	0
304	大久保忠利	0	1	0
305	大久保弘	3	17	0
306	大阪民俗談話会	0	1	0
307	大沢久明	0	1	0
308	大澤八十松	2	0	0
309	大島恭子	0	5	0
310	大島清子	1	0	0
311	大島哲	1	0	0
312	大島正隆	0	1	0
313	太田兼雄	0	1	0
314	大滝新蔵	7	1	0
315	太田慶太郎	12	5	0
316	太田典子	0	1	0
317	太田日吉	1	0	0
318	太田幸子	1	1	0
319	太田嘉四夫	0	1	0
320	太田陸郎	1	8	0
321	大塚金之助	0	2	0
322	大津寄花堂	2	3	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
323	大月源二	9	11	0
324	大月書店	1	0	0
325	大槻文彦	1	0	0
326	大月松二	0	1	0
327	大槻優利子	1	0	0
328	大西信治	0	5	0
329	大西正己	0	3	0
330	大沼涉	2	4	0
331	大野正男	0	2	0
332	大畑松枝	2	0	0
333	大畑黎二	1	1	0
334	大場千秋	2	2	0
335	大場秀子	0	6	0
336	大原慧	1	0	0
337	大平章	2	3	0
338	大藤時彦・ゆき	121	18	0
339	大間知千代	0	2	0
340	大間知篤三	40	110	1
341	大村健	0	1	0
342	大村英之助氏の還暦を祝い励ます会	1	0	0
343	大森詮夫	2	9	0
344	大森志郎	0	1	0
345	大森寿恵子	1	0	0
346	大森忠利	0	1	0
347	大森民子	4	1	0
348	大森敏明	1	2	0
349	大森宮原	0	1	0
350	大森幸夫	1	1	0
351	大山常善	1	0	0
352	岡?	0	1	0
353	岡垣菊法	1	0	0
354	岡倉捷郎	0	1	0
355	岡君後援会	1	0	0
356	岡崎一夫	0	1	0
357	岡崎義夫	0	1	0
358	小笠原栄治	5	12	0
359	小笠原信次	0	2	0
360	岡茂雄	7	17	0
361	岡田一郎	2	2	0
362	岡孝道	3	2	0
363	岡田京子	4	0	0
364	岡田健蔵	0	1	0
365	岡田十之松	0	1	0
366	岡田朋治	0	1	0
367	岡谷寿太郎	0	2	0
368	岡田陽一	1	0	0
369	岡野宏平	1	0	0
370	岡野他家夫	1	3	0
371	岡林重次	0	3	0
372	岡林辰雄	0	1	0
373	岡治道	2	1	0
374	岡部竜	0	2	0
375	岡部丹虹	1	2	0
376	岡部安加	3	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
377	岡正雄	4	1	0
378	岡正芳	1	0	0
379	小上賢治	0	1	0
380	岡見正雄	0	1	0
381	奥むめお	3	1	0
382	岡村肇	0	1	0
383	岡本?	0	1	0
384	岡本千秋	11	23	0
385	岡本唐貴	2	16	0
386	岡本唐貴救済会	2	1	0
387	岡本利三	1	1	0
388	岡本博	0	4	0
389	岡本実(三重県熊野)	6	3	0
390	岡森丑松	0	1	0
391	岡泰元	19	2	0
392	岡山民俗学会	3	0	0
393	小川健作	0	3	0
394	小川五郎	2	1	0
395	小川照子	1	1	0
396	小川妥枝子	0	7	0
397	尾川武太郎	1	0	0
398	小川正史	1	3	0
399	小川未明『未明選集』出版記念会	0	1	0
400	小川盛	1	0	0
401	小川竜一(龍一)	0	4	0
402	沖縄文化協会	1	0	0
403	「沖縄文化」編集所	1	0	0
404	荻野康児	0	2	0
405	荻原喜恵司(長野県)	2	1	0
406	荻原龍夫	2	4	0
407	奥島盛恵	2	6	0
408	奥田半亮	0	1	0
409	小口惣太郎(長野県)	16	1	0
410	奥村孫一	0	1	0
411	奥村林暁	0	2	0
412	小倉郷土会	1	0	0
413	小倉千秀	0	1	0
414	小倉正夫	3	15	0
415	「小倉正夫」記念展後援会	1	0	0
416	岡崎世民	0	1	0
417	尾崎定義	1	0	0
418	尾崎恒雄	1	0	0
419	尾崎陞	1	0	0
420	尾崎翠	2	1	0
421	尾崎陽之助	0	1	0
422	小沢生	0	1	0
423	小澤景勝	1	1	0
424	小澤熊一	0	1	0
425	小澤正元	1	3	0
426	小澤寛夫(長野県)	3	8	0
427	小沢三千雄	2	0	0
428	小澤路子	0	2	0
429	小田桐孫一	1	0	0
430	小田邦雄	1	1	0



番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
431	落合雄三	0	1	0
432	小野伸治	0	1	0
433	小野宮吉儀	1	0	0
434	小原阿利之介	1	1	0
435	小原賢治	0	1	0
436	小原福治	2	1	0
437	折口信夫	2	1	0
438	おりん口伝文学碑建設委員会事務局	0	1	0
439	尾張幸也	0	1	0
440	恩賜財団愛育会	1	1	0
441	恩賜財団母子愛育会	1	0	0
442	槐樹社	1	0	0
443	改造社	1	0	0
444	戒能通孝	12	3	0
445	解放運動旧友会	0	1	0
446	解放運動老人協同ホーム	2	3	0
447	解放社	0	3	0
448	科学文化編集部	1	0	0
449	垣田正一	0	1	0
450	柿本とみ	1	1	0
451	学習の友社	1	0	0
452	学習の友編集部	0	1	0
453	革新文化をすすめる文化人の会	1	0	0
454	角田健太郎	5	20	0
455	學燈社	1	0	0
456	笠井茂夫	4	6	0
457	笠置正	0	1	0
458	風早先生の喜寿を祝う会	0	1	0
459	風早八十二法律事務所	0	1	0
460	笠原茂登	0	1	0
461	笠原千鶴	5	11	0
462	風巻景次郎	1	2	0
463	梶田広雄	2	0	0
464	檜山茂樹	0	3	0
465	檜山嘉一	0	1	0
466	嘉治隆一	0	2	0
467	鹿地亘	1	0	0
468	春日兼喜	2	0	0
469	春日山常楽寺	1	0	0
470	片岡?	0	0	1
471	片岡気録	0	1	0
472	片口明	2	0	0
473	片口泰二郎	1	1	0
474	片口安太郎	3	1	0
475	片山潜生誕百年記念会	1	0	0
476	勝目テル	1	17	0
477	桂井和雄(高知県)	4	0	0
478	加藤勇	0	1	0
479	加藤齡明	2	1	0
480	角川源義	0	7	0
481	門脇等	1	0	0
482	金井満	36	62	0
483	香内佑一郎	3	0	0
484	金森徳次郎	0	3	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
485	金子健	0	1	0
486	金子正一	0	2	0
487	金子書店	1	0	0
488	金子浮水(浮水画房)	5	2	0
489	金関丈夫	2	2	0
490	金澤清一(鳥取)	0	2	0
491	金田進	3	2	0
492	金塚敬事	0	1	0
493	兼常清佐	1	0	0
494	金丸二郎	6	2	0
495	鎌田徳悦	2	0	0
496	鎌田久子	1	2	0
497	上坂間蔵	0	1	0
498	上坂茂男	0	1	0
499	神坂次郎	1	0	0
500	上條憲太郎	3	0	0
501	上條俊司	0	4	0
502	神山富吉	0	3	0
503	神山裕一	0	1	0
504	亀井旭彦	1	0	0
505	亀川澄治	2	0	0
506	亀子洋二	0	1	0
507	カメラ毎日	1	0	0
508	鹿屋修一	2	0	0
509	唐沢清八	1	0	0
510	辛島重三	1	1	0
511	狩野文朔	4	3	0
512	河相隆	1	0	0
513	河井哲後	0	1	0
514	川合彦充	1	0	0
515	川上勝夫	1	7	0
516	川上貞夫・みち子	12	28	0
517	川上茂登	2	11	0
518	河毛市治	2	0	0
519	川島武宣	0	2	0
520	河出書房	2	1	0
521	河野新	1	0	0
522	河野公平	1	0	0
523	川端豊彦	0	2	0
524	河平聖太郎	0	1	0
525	河村悟貴	1	0	0
526	河村包未	1	1	0
527	河村已来	0	1	0
528	川村武郎	0	1	0
529	川村千秋	2	6	0
530	川村哲太	1	0	0
531	河本市蔵	2	1	0
532	河本俊太郎	1	0	0
533	河本雄五郎	1	0	0
534	河森肇	1	0	0
535	神崎清	1	1	0
536	巖松堂書店	1	0	0
537	金田?	1	0	0
538	神田義山	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
539	神田泰雄	1	0	0
540	関東社会学会	1	1	0
541	関東消費組合連盟	4	1	0
542	関東大震災鮮人犠牲者慰霊祭実行委員	0	1	0
543	神庭白黎	1	7	0
544	紀尾井町	0	1	0
545	菊田一枝	1	0	0
546	菊田一雄	8	11	0
547	菊田寿	1	0	0
548	菊池勇	2	1	0
549	菊池昭子	1	0	0
550	菊池昌直	0	1	0
551	岸孝一	1	11	0
552	岸谷俊雄	0	4	0
553	岸谷やゑ・とき	0	2	0
554	岸田劉生	2	2	0
555	岸辺繁雄	0	1	0
556	木島甚久	2	1	0
557	木島紀子	0	1	0
558	木島幹世	0	3	0
559	貴司山司(作家クラブ)	3	5	0
560	紀州旧友会	1	1	0
561	北川幸比古	1	0	0
562	木田金次郎	27	4	0
563	北島廣男	1	0	0
564	喜多野清一	1	3	0
565	北原謙司	1	2	0
566	木田文子	0	2	0
567	喜多村進	1	0	0
568	北村誠子	0	1	0
569	木村哲也	1	0	0
570	木田泰夫	0	2	0
571	喜多幸章	0	3	0
572	喜多義次	0	2	0
573	城戸令峰	6	0	0
574	紀南地方旧友会	4	0	0
575	木下清茂	5	3	0
576	木下李太郎	3	3	0
577	木花茂雄	1	0	0
578	木原弘	1	0	0
579	『規範経済学』出版記念会	0	1	0
580	木部正行	0	7	0
581	奇峰句集刊行会	0	1	0
582	木全兼寿	1	0	0
583	君貞?	0	1	0
584	木村(電報)	0	0	1
585	木村重夫	1	4	0
586	木村重一	0	2	0
587	木村信吉	0	1	0
588	木村亨	0	12	0
589	木村信雄	1	0	0
590	木村泰太郎	0	4	0
591	木本忠人	0	5	0
592	九学会連合会	0	4	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
593	九州民俗の会	1	0	0
594	旧友クラブ、旧友会	0	7	0
595	旧友人会柳井	0	1	0
596	教育出版部	0	1	0
597	協同組合(杉並区久我山)	1	0	0
598	協同組合研究会	1	0	0
599	協同組合研究所	3	1	0
600	郷土発行所	0	1	0
601	共労閣書房	0	1	0
602	清沢芳郎	0	4	0
603	「漁村」編集局	0	1	0
604	記録映画社	0	1	0
605	金宇館	0	1	0
606	金田一京助	1	5	0
607	金田一春彦	8	1	0
608	近代漫画展同人	0	1	0
609	金野新一	2	1	0
610	勤労者新聞社	1	0	0
611	九鬼勉	0	1	0
612	草上発行所	1	0	0
613	草野熊吉	1	0	0
614	櫛田ふき	2	0	0
615	楠本寛	13	8	0
616	工藤紫村	1	0	0
617	工藤達	1	0	0
618	国枝伸	1	0	0
619	窪川鶴次郎	1	0	0
620	久保清(長崎県五島列島)	27	19	0
621	久保栄	1	2	0
622	熊谷順子	0	1	0
623	熊木勇次	1	0	0
624	隈崎渡	1	1	0
625	熊谷辰治郎	0	1	0
626	倉島弥三郎	0	1	0
627	倉田一郎	16	36	0
628	倉田正邦	0	10	0
629	倉田義喜	1	0	0
630	倉橋文雄	0	2	0
631	蔵原惟人	0	2	0
632	蔵前光家	1	1	0
633	倉光俊夫	1	1	0
634	倉本為慶	0	1	0
635	栗田協	1	0	0
636	栗田芳之助	1	1	0
637	栗林一路	0	2	0
638	栗山一夫	0	2	0
639	胡桃澤勸内	18	40	0
640	胡桃澤友男	7	13	0
641	黒川真前	1	1	0
642	黒田了一	0	2	0
643	桑江常夫	1	1	0
644	桑木正夫	0	1	0
645	桑野辰夫	1	0	0
646	景川弘道	0	2	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
647	啓明会	1	0	0
648	芸林荘	0	1	0
649	劇団東京芸術座	1	0	0
650	月明会	3	10	1
651	研究会係	0	1	0
652	「言語生活」編集部	0	1	0
653	現実会	1	0	0
654	建設社	1	0	0
655	現代十大家洋書展覧会	1	0	0
656	小池巖	1	0	0
657	小池憲索	0	1	0
658	小池昌	0	1	0
659	小池直太郎	0	1	0
660	小生夢坊	6	0	0
661	小泉幸一	1	3	0
662	小泉鉄	0	1	0
663	小泉義康	0	1	0
664	小井田武	1	0	0
665	小出勝明	3	6	0
666	小絲源太郎	0	1	0
667	孝	0	1	0
668	洪喆沫	0	2	0
669	工業大学新聞	0	1	0
670	交詢社	1	0	0
671	庚申懇話会	0	1	0
672	厚生省研究所国民栄養部研究会	1	0	0
673	香田惇太	1	3	0
674	香田清太	1	5	0
675	高知新聞社	1	0	0
676	江東民主商工会	0	1	0
677	康文社印刷所	4	1	0
678	ゴーリキイ追悼公演委員会	1	0	0
679	五月の会	6	3	0
680	五月の会世話人事務局	1	0	0
681	国画会	4	0	0
682	国学院大学	0	1	0
683	国学院大学国文学会	0	1	0
684	国学院大学雑誌部	0	1	0
685	国学院大学方言研究会	0	3	0
686	国学院大学民俗文学研究会	1	1	0
687	国書刊行会	2	0	0
688	国分剛二	0	1	0
689	国立松戸療養所	1	0	0
690	国立民族学博物館	2	0	0
691	小柴専造	1	0	0
692	小島(名前不明)	0	1	0
693	小島愛今	0	1	0
694	小島圓治	0	1	0
695	小島勝治	0	1	0
696	小島昂	1	0	0
697	小島威彰	0	1	0
698	小島保佐	1	0	0
699	児島幸夫	1	1	0
700	小島義正	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
701	小谷重雄	0	1	0
702	小谷眞太郎	1	0	0
703	小谷博貞・ふき子	0	1	0
704	小谷方明	0	1	0
705	小谷正巳	2	4	0
706	小谷義雄	0	2	0
707	児玉徹	2	0	0
708	小丹国男	0	1	0
709	小寺融吉	0	2	0
710	小寺廉吉	2	12	0
711	後藤興善	0	3	0
712	小西元	0	10	0
713	小林巳智次(北海道)	5	6	0
714	小林一男	0	1	0
715	小林國男	0	3	0
716	小林源三郎	0	1	0
717	小林源太郎	4	20	0
718	小林責	1	0	0
719	小林存	29	48	0
720	小林大門	0	1	0
721	小林利久	1	4	0
722	小林寅市	0	1	0
723	小林虎雄	0	1	0
724	小林のぶ子	0	1	0
725	小林正熊	1	0	0
726	小林芳一	1	0	0
727	小林龍介	4	1	0
728	駒井和愛	0	1	0
729	小牧近江	2	1	0
730	駒込勉	0	1	0
731	小松茂夫(和歌山)	7	1	0
732	五味鑑	0	2	0
733	小箕俊介	0	3	0
734	小村直	1	0	0
735	小室原義	1	0	0
736	米よこせ母子像再建の会	0	1	0
737	小山栄三	0	1	0
738	小脇陽一郎、佐伯新一郎	0	1	0
739	今官一	0	1	0
740	権田信子	0	1	0
741	近藤栄作	1	0	0
742	近藤一男	3	4	0
743	近藤清松	0	4	0
744	近藤憲二	1	0	0
745	近藤真柄	0	1	0
746	近藤守蔵	0	2	0
747	今野円輔	4	25	0
748	今野賢三	1	0	0
749	今和次郎	1	3	0
750	西園寺源透	0	2	0
751	西郊消費組合	0	1	0
752	西郷信綱	4	3	0
753	西郊民俗談話会	3	6	0
754	崔常寿	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
755	斎藤俊	0	1	0
756	斎藤太吉(山形)	5	12	0
757	斎藤寅次郎	1	0	0
758	斎藤一	1	0	0
759	斎藤未佐子	0	1	0
760	斎藤守國	1	2	0
761	斎藤彌十郎	2	2	1
762	斎藤隆介	0	1	0
763	在日朝鮮人帰国協力会杉並支部準備会	0	1	0
764	佐伯(名前不明)	0	2	0
765	佐伯(名前不明2)	1	0	0
766	酒井金安	0	1	0
767	酒井健	2	1	0
768	酒井定吉	6	17	0
769	堺利彦	3	14	0
770	坂井松太郎	0	3	0
771	阪口七郎	0	1	0
772	阪口恒治	6	3	0
773	坂田清正	2	13	0
774	坂間棟治	2	0	0
775	坂間裕	3	7	0
776	酒本幸太郎	0	1	0
777	坂本孝	0	9	0
778	坂本通	16	21	0
779	坂本敏雄	1	0	0
780	阪本之湯	0	3	0
781	坂本悠	0	2	0
782	向坂道治	0	1	0
783	佐久間昇	2	2	0
784	佐久良	0	1	0
785	桜井重太郎	1	0	0
786	桜井徳太郎	1	2	0
787	桜井俊雄	1	0	0
788	桜井誠	0	1	0
789	桜井政雄	1	0	0
790	櫻井増雄	7	2	0
791	桜田勝徳	21	63	0
792	桜田勝徳(比嘉春潮宛)	1	1	0
793	櫻田寿	1	0	0
794	笹井道義	0	1	0
795	佐々木(名前不明)	0	1	0
796	佐々木梅	3	2	0
797	佐々木喜善(岩手)	0	2	0
798	佐々木金之助	0	1	0
799	佐々木五郎	1	1	0
800	佐々木滋寛	0	6	0
801	佐々木重之助	1	1	0
802	佐々木高成	0	2	0
803	佐々木孝丸	2	6	0
804	佐々木武彦	0	2	0
805	佐々木チンパ	0	1	0
806	佐々木秀尚	1	0	0
807	佐々木秀光	0	3	0
808	佐々木正里	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
809	佐々木光子	1	2	0
810	笹鹿彪個人展覧会	1	0	0
811	笹沼孝蔵	0	1	0
812	笹野良造	0	1	0
813	笹村草家人	0	2	0
814	笹村良雄	0	1	0
815	佐田勝	0	1	0
816	佐藤カヤ子	2	0	0
817	佐藤謙三	0	2	0
818	佐藤湖太郎	2	0	0
819	佐藤禎子	1	0	0
820	佐藤紹	0	1	0
821	佐藤新一	0	1	0
822	佐藤信吉	0	1	0
823	佐藤泰三	7	1	0
824	佐藤忠	1	0	0
825	佐藤寿子	0	1	0
826	佐藤信彦	1	1	0
827	佐藤八郎	5	3	0
828	佐藤光雄	1	0	0
829	佐藤康郎	1	10	0
830	佐藤彌三	1	1	0
831	佐藤代市	0	2	0
832	佐藤隆三	0	1	0
833	里地三平	0	1	0
834	故・佐野碩君を偲ぶ会	1	0	0
835	佐野豊太郎(大成堂書店)	8	27	0
836	佐野豊	0	1	0
837	左翼劇場宣伝部	2	0	0
838	更科源蔵(北海道)	1	0	0
839	澤口寿太郎	0	2	0
840	佐分眞遺作展世話人	1	0	0
841	澤貞治	0	1	0
842	澤田謙	3	1	0
843	沢田四郎作	15	37	0
844	沢田俊蔵	1	1	0
845	澤村経夫(和歌山)	7	49	0
846	三一書房	0	1	0
847	産業組合中央会	2	2	0
848	三元社	1	4	0
849	山後浅美	0	7	0
850	珊瑚礁社	0	1	0
851	残務委員会(橋浦方)	1	0	0
852	塩沢凌子	0	1	0
853	汐谷格一	1	0	0
854	塩谷宗之助	0	1	0
855	志賀義雄	0	1	0
856	色紙展実行委員会	1	0	0
857	敷村寛治	0	2	0
858	重田和太郎	0	1	0
859	重藤義之	0	1	0
860	重山重次郎(鳥取)	9	32	0
861	重山満吉	0	1	0
862	静岡県周智郡気多村役場	2	0	0



番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
863	実業之日本社	2	0	0
864	詩と人生社	1	0	0
865	信濃教育会(東筑摩部会)	4	1	0
866	信濃毎日新聞松本支局	1	0	0
867	篠田定吉	0	1	0
868	篠原友来	3	0	0
869	篠光二	0	3	0
870	柴田誠一	1	2	0
871	柴田武雄	1	0	0
872	柴田秀蔵	0	1	0
873	柴田実	6	2	0
874	渋谷敬三	1	5	0
875	渋谷定輔	0	2	0
876	柴垣岩次郎	0	1	0
877	島香弥兵衛	0	2	0
878	島崎蕨助	1	0	0
879	島崎貢	1	11	0
880	島崎六九	5	4	0
881	島田清	0	1	0
882	島津良子	3	0	0
883	嶋中雄三	1	0	0
884	「島」編集事務所、発行所	1	2	0
885	清水和夫	0	1	0
886	清水俊雄	0	3	0
887	清水長輝	1	0	0
888	清水瑞穂	0	1	0
889	志村義雄	1	1	0
890	示野	0	1	0
891	下田龍子	1	0	0
892	下田萌	1	0	0
893	下田芳夫	4	5	0
894	下中彌三郎	1	0	0
895	社会教育連合会	0	1	0
896	社会評論編集部	0	1	0
897	寿岳文章	1	0	0
898	守随一	8	35	0
899	首藤直一郎	0	1	0
900	春秋社	0	1	0
901	春陽堂書店	1	0	0
902	蕉蔭生	0	1	0
903	庄司五郎	1	0	0
904	城西消費購買組合	2	0	0
905	小生共?	1	1	0
906	正田清三郎	0	1	0
907	庄内民俗学会	0	1	0
908	少年劇団	1	0	0
909	條半吾	2	0	0
910	消費組合新聞	1	1	0
911	上毛民俗の会	0	2	0
912	食物と民族の会	0	1	0
913	シライ	0	0	1
914	白井番二(井上義道)	22	33	0
915	白石寛	1	0	0
916	白石凡	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
917	白沢原一	0	1	0
918	新協劇団	2	1	0
919	新宮市立図書館	1	0	0
920	人口問題研究所	1	0	0
921	信州白樺	2	1	0
922	新谷清	1	0	0
923	神道寛次	0	1	0
924	進藤直作	0	1	0
925	神都教学館	1	0	0
926	新日本海新聞社東京支社	1	0	0
927	新日本出版社	2	0	0
928	新日本婦人の会中央本部	2	0	0
929	新表象美術協会・事務局	1	0	0
930	新評論社	2	0	0
931	新婦人しんぶん	6	2	0
932	人文科学者名鑑刊行会	0	1	0
933	新村出	0	3	0
934	新村編集室	0	1	0
935	新薬師寺	1	0	0
936	吹田順助	1	8	0
937	末弘巖太郎	1	0	0
938	末光績	8	7	0
939	須貝熊次郎	1	0	0
940	須貝栄	1	0	0
941	菅野直義	0	1	0
942	須川時夫	0	1	0
943	杉浦希子	1	0	0
944	杉浦健一	0	4	0
945	杉浦瓢	1	0	0
946	杉田文蔭	2	2	0
947	杉中浩一郎(和歌山)	4	0	0
948	杉並生活協同組合協議会	1	0	0
949	杉並鳥取県人会	2	5	0
950	杉本博	1	2	0
951	杉本万子	1	1	0
952	杉山一正	0	1	0
953	杉山照夫	0	5	0
954	杉友会	0	1	0
955	鈴木晃	0	1	0
956	鈴木市蔵	1	1	0
957	鈴木勝義	0	1	0
958	鈴木賢二・よし	7	5	0
959	鈴木黒門	1	0	0
960	鈴木重光	0	1	0
961	鈴木脩三	1	9	0
962	鈴木昭・光子	0	1	0
963	鈴木晋一	3	0	0
964	鈴木太吉	0	1	0
965	鈴木太良	0	2	0
966	鈴木正男	1	0	0
967	鈴木眞沙雄	1	0	0
968	鈴木正彦	0	1	0
969	鈴木眞洲雄	0	1	0
970	鈴木安代	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
971	鈴木幸子	1	0	0
972	須田元一郎	1	2	0
973	須藤荘一	0	2	0
974	隈野琢造	1	0	0
975	住治男(岩波書店)	0	2	0
976	須山計一	8	36	0
977	須山計一「現代世界漫画集」出版記念会	1	0	0
978	性科学研究会	6	16	0
979	生活協同組合久友会	0	2	0
980	生活問題研究所	2	0	0
981	青樹社書房	0	1	0
982	成城大学	1	0	0
983	成城大学図書館	0	1	0
984	正真堂洋画展覧会	1	0	0
985	青年劇場	1	0	0
986	清野久雄	0	2	0
987	青鸞社	2	1	0
988	世界社(池田寿夫)	2	0	0
989	瀬川清子	3	21	0
990	関鷺子	0	1	0
991	関鑑子音楽葬の御案内	0	1	0
992	関口七郎	1	1	0
993	関敬吾	3	5	0
994	関敬吾氏帰国歓迎会発起人	0	1	0
995	関正	1	0	0
996	関哲二	1	0	0
997	関根悦郎	2	3	0
998	汐文社	2	1	0
999	背古芳男	2	0	0
1000	妹尾丸夫	1	0	0
1001	芹沢国男	0	1	0
1002	戦旗復刻版刊行会	3	0	0
1003	全国農業会	1	0	0
1004	全国農業共済協会	1	0	0
1005	全国農村青年連盟	3	0	0
1006	前進座	1	1	0
1007	戦前の体験をきく会	1	0	0
1008	全東京都購買利用組合連合会	2	1	0
1009	全日本水墨画協会東京事務所	0	1	0
1010	善林社印刷所	0	1	0
1011	造形美術家協会	1	0	0
1012	総合プロレタリア芸術講座編集局	1	0	0
1013	草土文化	1	0	0
1014	叢文閣	1	5	0
1015	曾田共助(福岡)	5	1	0
1016	袖山富吉	1	1	0
1017	菌部澄	0	1	0
1018	曾宮一念書伯個人展覧会	1	0	0
1019	染谷格	1	1	0
1020	村落社会学会	0	3	0
1021	第一法規出版	0	1	0
1022	第一回近代漫画展	1	0	0
1023	大因伯	1	0	0
1024	大学新聞社	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1025	大雅堂	1	0	0
1026	大逆事件の真実をあきらかにする会	5	0	0
1027	大政翼賛会	2	0	0
1028	大山	0	1	0
1029	大地賛雄	5	0	0
1030	帯刀貞代	1	1	0
1031	大日本山林会	4	0	0
1032	大日本奨学会	0	4	0
1033	大日本水産会	7	1	0
1034	大日本農機具協会	9	19	0
1035	大日本農機具協会	1	0	0
1036	大日本文庫刊行会	1	0	0
1037	大日本連合青年団郷土資料陳列所	1	0	0
1038	平八州史	1	0	0
1039	田江裕	1	0	0
1040	田岡(名前不明)	1	0	0
1041	田岡香逸	4	4	0
1042	田尾喜久馬	1	0	0
1043	高橋一作	2	0	0
1044	高尾弘忍	1	1	0
1045	高沖陽造	1	0	0
1046	高木一夫	2	4	0
1047	高木誠一	0	8	0
1048	高木義史	0	1	0
1049	高倉新一郎	4	0	0
1050	高田一光	0	1	0
1051	高田次作	4	5	0
1052	高田政三	2	0	0
1053	高田民子	1	0	0
1054	高谷重夫	2	3	0
1055	高田治雄	0	1	0
1056	高野泰三	0	1	0
1057	高野橋定男	0	1	0
1058	高橋勇	0	1	0
1059	高橋嘉一郎	0	1	0
1060	高橋克己	1	0	0
1061	高橋功三	1	3	0
1062	高橋重蔵	0	1	0
1063	高橋尚	1	2	0
1064	高橋文太郎	3	6	0
1065	高橋政子	0	1	0
1066	高橋正信	0	1	0
1067	高橋芳夫	0	1	0
1068	高橋渡	0	1	0
1069	高浜虚子	1	0	0
1070	高藤武馬	0	5	0
1071	高松泰三	2	2	0
1072	高美書店	1	0	0
1073	田上義也	5	14	1
1074	高群逸枝	0	2	0
1075	高森巖水	0	1	0
1076	高山吉平	0	1	0
1077	高山巖	3	10	0
1078	高山龍也	0	2	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1079	瀧川貞蔵	19	21	0
1080	滝島直子	0	1	0
1081	田口謙蔵	0	1	0
1082	宅昌一	0	2	0
1083	たくみ割烹店	1	0	0
1084	武居不二美	1	0	0
1085	武居隣好	1	0	0
1086	竹内一郎	1	0	0
1087	竹内和義	2	0	0
1088	竹内貞	1	0	0
1089	竹内利美(長野)	8	6	0
1090	竹内道夫	1	0	0
1091	竹内芳太郎	2	0	0
1092	竹川義雄	0	1	0
1093	竹川義徳	0	2	0
1094	竹下力	0	1	0
1095	武田明	3	5	0
1096	武田敦史	2	0	0
1097	武田和太郎	2	1	0
1098	武田重郎	1	0	0
1099	武田静澄	0	9	0
1100	竹田聰洲	0	1	0
1101	タケダチョーザブロー	0	1	0
1102	武田久吉	2	4	0
1103	武田寿	0	1	0
1104	竹田幸江	0	1	0
1105	竹田旦	1	2	0
1106	竹部金作	1	1	0
1107	竹村書房	1	0	0
1108	竹村民郎	1	4	0
1109	竹本賢三	3	19	0
1110	竹安喜市	1	1	0
1111	田住のぶ子	6	4	0
1112	多田貞一	0	1	0
1113	多田治三郎	1	0	0
1114	多田助一郎	5	1	0
1115	多田政介	0	1	0
1116	館岡トミ	0	1	0
1117	館田正三	0	1	0
1118	橘友策	0	1	0
1119	辰野九紫	4	19	0
1120	伊達四郎	1	0	0
1121	田所輝明	0	1	0
1122	田中(名前不明)	0	1	0
1123	田中咄哉州	1	0	0
1124	田中栄次	1	0	0
1125	田中格郎	0	1	0
1126	田中寒楼	1	1	0
1127	田中吟蔵	4	0	0
1128	田中金太郎	4	0	0
1129	田中純一郎	0	1	0
1130	田中章五	0	2	0
1131	田中新次郎	11	22	0
1132	田中豊太郎	1	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1133	田中暢	4	1	0
1134	田中日佐夫	1	1	0
1135	田中久夫	4	1	0
1136	田中久大	1	0	0
1137	田中松次郎	0	1	0
1138	田中唯蔵	0	1	0
1139	田中義広	0	2	0
1140	田中義正	0	2	0
1141	田辺愛子	0	1	0
1142	田辺健太郎	1	0	0
1143	田辺芳計・貞平(新潟)	3	2	0
1144	田辺芳み	0	1	0
1145	田辺若男	0	3	0
1146	谷垣邦義	2	0	0
1147	谷口善太郎	0	4	0
1148	谷口長太郎	0	1	0
1149	旅と伝説編集部	0	1	0
1150	「旅」編集部	1	2	0
1151	田淵實夫	1	1	0
1152	田部朋之	0	1	0
1153	玉岡武子	0	1	0
1154	玉木茂治	4	7	0
1155	玉之浦尋常高等小学校	1	0	0
1156	玉星武子	2	4	0
1157	田村あい子	0	1	0
1158	田村岩雄	1	0	0
1159	田村良雄	4	1	0
1160	丹野幸吉(和歌山)	2	1	0
1161	丹野セツ	1	5	0
1162	治維法犠牲者国家賠償要求同盟	0	1	0
1163	千金貫事	6	24	1
1164	筑摩書房	1	1	0
1165	地主淳吉	3	14	0
1166	千葉徳爾	0	1	0
1167	地方史研究協議会	1	0	0
1168	「地方」編集部	2	0	0
1169	中央労済	8	0	0
1170	中國人民保衛世界和平委員会	1	0	0
1171	中国訪日科学家代表团	1	0	0
1172	中国民俗学会	1	0	0
1173	塚原健二郎(長野)	2	20	0
1174	塚原健太郎	1	0	0
1175	塚原幸雄(兵庫)	4	0	0
1176	塚原亮一	0	1	0
1177	塚本三樹	1	0	0
1178	辻野透	1	0	0
1179	辻誠	1	1	0
1180	津田秀夫	0	1	0
1181	土口勇次郎	0	2	0
1182	土橋啓次	5	4	0
1183	土藤老三郎	2	0	0
1184	土屋賢治	0	1	0
1185	角田和里	1	0	0
1186	坪井正五郎先生生誕百年記念会	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1187	坪井洋文	0	3	0
1188	津村秀弘	0	1	0
1189	津守照範	0	1	0
1190	鶴岡正美	0	4	0
1191	鶴丸昭彦	2	6	0
1192	帝国地方行政学会「地方」編集部	1	0	0
1193	帝国銅像製作所	1	0	0
1194	帝国農会	1	0	0
1195	逓信協会編集部	1	0	0
1196	笛桜	0	1	0
1197	手嶋増蔵	0	2	0
1198	手塚治虫	1	0	0
1199	手塚唯至	0	1	0
1200	手塚槻彦	1	0	0
1201	手塚力	0	1	0
1202	寺尾とし	1	0	0
1203	寺原伸夫	1	1	0
1204	寺山吉平	1	2	0
1205	傳田精爾	1	0	0
1206	「伝統と現代」編集部	1	0	0
1207	展覧会案内	6	45	0
1208	土居千一郎	0	1	0
1209	土井卓治	0	3	0
1210	土井秀信	0	1	0
1211	東海区水産研究所	1	0	0
1212	童画ぐる一ぶ車	0	1	0
1213	東京朝日新聞社	2	0	0
1214	東京解放運動旧友会	5	7	0
1215	東京学芸大学	1	0	0
1216	東京貴金属工芸品卸商業協同組合	0	1	0
1217	東京基督教女子青年会駿河合女学院体育師範部	0	1	0
1218	東京芸術座	3	0	0
1219	東京人類学会日本民族学会第二回総合大会	1	0	0
1220	東京西部生活協同組合連合会	1	0	0
1221	東京大学出版会	0	1	0
1222	東京都生活協同組合連合会	28	11	0
1223	東京都生活協同組合連合会淀橋支所	1	0	0
1224	東京都長官官房行政審査係	1	0	0
1225	東京都民生局生活課	2	3	0
1226	東京方言学会	0	10	0
1227	東條操	2	2	0
1228	童心社	1	0	0
1229	東畑精一	1	0	0
1230	遠山(名前不明)	2	1	0
1231	富樫健	3	1	0
1232	富樫不二雄	1	0	0
1233	戸川安章	6	13	0
1234	時田保雄	1	0	0
1235	時の美術社美術グラフ編集部	2	0	0
1236	時山勇	1	0	0
1237	「読書の友」編集部	1	0	0
1238	徳田安儀	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1239	土口石太郎	0	4	0
1240	戸沢貴志子	1	1	0
1241	戸沢照	26	11	0
1242	戸沢仁三郎	4	21	0
1243	戸田謙介	19	16	0
1244	栃木市教育委員会	1	0	0
1245	戸塚比ろ美	0	1	0
1246	鳥取県人会	0	21	0
1247	鳥取県人友の会	2	0	0
1248	鳥取県立鳥取図書館	1	0	0
1249	鳥取大丸文化部	1	0	0
1250	鳥取図書文化協会	1	0	0
1251	鳥取文化財協会	1	0	0
1252	鳥取民俗学会	6	1	0
1253	土橋里木(山梨)	3	2	0
1254	土橋仙太郎(鳥取)	1	5	0
1255	鳥羽志摩文化研究会	0	1	0
1256	都丸十九一	1	1	0
1257	富木友治(秋田)	6	3	0
1258	豊坂徳衛	15	8	0
1259	豊原五郎顕彰運動発起人会	0	1	0
1260	豊原五郎をたたえる会	0	1	0
1261	鳥居正己	2	0	0
1262	鳥越憲三郎	1	1	0
1263	内閣総理大臣官房内閣文庫	1	0	0
1264	直江広治	14	9	1
1265	長井栄助(和歌山)	1	6	0
1266	永井早苗	1	1	0
1267	中市謙三	1	3	0
1268	永井竜一	0	1	0
1269	中尾金満	1	2	0
1270	長岡博男(石川)	4	3	0
1271	中尾重弥	0	2	0
1272	長尾満寿子	0	1	0
1273	中川治	0	2	0
1274	中川一政	2	1	0
1275	中川小太郎	1	0	0
1276	中川忠男	0	2	0
1277	中川善之助	0	1	0
1278	中久木源一	1	5	0
1279	中越義幸	3	5	0
1280	中込虎一	0	5	0
1281	長崎県立長崎図書館	1	0	0
1282	中沢厚	3	2	0
1283	中島郷夫	18	15	0
1284	中島洋典	15	20	0
1285	中島正賢	0	1	0
1286	長島又男	1	0	0
1287	中島保彦	2	0	0
1288	中城蔵雄	1	0	0
1289	永田耀	0	4	0
1290	永田京子	0	1	0
1291	中谷泰	1	0	0
1292	仲西政一郎	0	1	0



番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1293	長野高等簿記学校	1	0	0
1294	中野重治	2	4	0
1295	長野市柳町尋常高等小学校	2	0	0
1296	中野柳瀬両君を祝ふ会	0	1	0
1297	中野好夫	1	0	0
1298	中林貞男	0	1	0
1299	仲原清(和歌山)	3	16	0
1300	中原多敬次	1	0	0
1301	中原中尉(名前不明)	1	0	0
1302	永見正治	1	0	0
1303	中村(名前不明1)	1	0	0
1304	中村(名前不明2)	0	1	0
1305	中村越郎	0	1	0
1306	中村興弥	8	3	0
1307	中村活	0	1	0
1308	中村清光	0	1	0
1309	中村金蔵	1	0	0
1310	中村興二郎	0	2	0
1311	中村重蔵	0	1	0
1312	中村章子	0	1	0
1313	中村成一郎	1	0	0
1314	中村誠三	11	3	0
1315	中村龍夫、青枝、紀子(長野)	4	1	0
1316	中村哲	2	0	0
1317	中村徳二郎	0	1	0
1318	中村寅一	0	2	0
1319	中村正臣	0	1	0
1320	中村盛弥(長野県)	8	1	0
1321	中村弥三次	1	2	0
1322	中村吉次郎	0	2	0
1323	中本誠一	1	1	0
1324	中森信江	8	22	1
1325	中山武雄	0	1	0
1326	中山太郎	0	2	0
1327	中山徳太郎	0	3	0
1328	中山一	1	0	0
1329	中山豊	1	0	0
1330	那智公民館	1	0	0
1331	ナップ旧友の会	0	1	0
1332	ナップ書記局	0	1	0
1333	難波英夫	0	2	0
1334	難波英夫さん古稀を祝う集い発起人連	1	0	0
1335	鍋澤元蔵	0	1	0
1336	奈良憲	8	1	0
1337	奈良大学	1	0	0
1338	成瀬清	1	1	0
1339	名和公菩提所長綱寺再建事務本部	1	0	0
1340	南島談話会世話人	0	1	0
1341	南方土俗学会	1	0	0
1342	新居格	5	2	0
1343	新居格を偲ぶ会	0	1	0
1344	新居好子	0	1	0
1345	新島善衛	0	1	0
1346	新村宇一	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1347	新村章一	0	1	0
1348	二階堂武夫	0	1	0
1349	二河良英(和歌山)	11	24	0
1350	西尾和子	0	1	0
1351	西岡虎之助	9	0	0
1352	西尾治郎平	0	2	0
1353	西尾よし子	0	1	0
1354	西尾寿造	1	0	0
1355	西川清朔	1	0	0
1356	西川政吉	1	0	0
1357	西谷勝也	1	3	0
1358	西塚定一	1	0	0
1359	西辻精一	9	5	0
1360	西常雄	1	0	0
1361	西角井正慶	1	4	0
1362	西照代	0	1	0
1363	西萩窪診療所	1	0	0
1364	西原(名前不明)	0	1	0
1365	西原豊治	3	0	0
1366	西村鐵馬	1	0	0
1367	日美日本画研究会月例会	0	6	0
1368	日ソ協会	10	34	3
1369	日ソ協会杉並支部	0	1	0
1370	日ソ協会東京都支部連合会	2	0	0
1371	日中友好協会	8	5	0
1372	日朝協会	3	0	0
1373	日本硫黄化学工業所	1	1	0
1374	日本海新聞社	1	0	0
1375	日本学術会議選挙管理会	0	1	0
1376	日本学術会議	0	2	0
1377	日本画研究会	0	4	0
1378	『日本共産党創立五十周年を祝う生協の集い』実行委員会	1	0	0
1379	日本共産党中央委員会党史資料室	1	0	0
1380	日本共産党中央委員会	47	6	0
1381	日本共産党中央指導部	2	0	0
1382	日本共産党本部	0	0	1
1383	日本協同組合同盟	6	0	0
1384	日本勤労者山岳連盟出版局『山と仲間』	2	0	0
1385	日本経済評論社	1	0	0
1386	日本厚生協会	1	0	0
1387	日本国民救援会	4	1	0
1388	日本コトバの会	5	12	0
1389	日本社会学会	3	2	0
1390	日本出版文化協会	1	0	0
1391	日本消費組合連盟	4	1	0
1392	日本生活協同組合連合会	7	0	0
1393	日本地名学研究所	0	1	0
1394	日本中国友好協会小金井支部	1	0	0
1395	日本中国友好協会和歌山県連合会	0	1	0
1396	にほんとうけん	0	1	0
1397	日本のうたごえ祭典(実行委員長井上頼豊)	0	1	0
1398	日本のうたごえ全国協議会	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1399	日本農民組合本部	1	0	0
1400	日本美術会	13	2	3
1401	日本評論社	6	2	0
1402	日本評論新社	1	0	0
1403	日本文学協会	1	1	0
1404	日本文学報国会	1	3	0
1405	日本文化厚生農業共同組合連合会	3	0	0
1406	日本文化中央連盟	0	1	0
1407	日本方言学会	0	3	0
1408	日本放送協会放送文化研究所	1	0	0
1409	日本法理研究会	5	0	0
1410	日本漫画研究会	1	1	0
1411	日本民俗学会	27	118	0
1412	日本民族学協会	4	1	0
1413	日本民俗学講座	2	1	0
1414	日本民族学会	7	11	0
1415	日本民俗協会	2	1	0
1416	日本無産者消費組合連盟	2	0	0
1417	日本歴史大辞典編集部	0	1	0
1418	縫谷誠三郎	3	0	0
1419	沼田市郎	0	10	0
1420	沼田秀郷	2	0	0
1421	ネヴオの会	0	1	0
1422	根岸正太郎	1	0	0
1423	根津芦丈(長野)	8	1	0
1424	年中行事刊行会	0	1	0
1425	野石與三	1	0	0
1426	農業復興会議	3	0	0
1427	農政懇談会	0	1	0
1428	能田多代子	0	10	0
1429	能田太郎(熊本県)	5	11	0
1430	農民運動社	1	0	0
1431	農民の友社	0	1	0
1432	農林省農政局長	1	0	0
1433	農林中央金庫	1	0	0
1434	野口?	0	1	0
1435	野口武徳(孝徳)	1	4	0
1436	野口永治	0	1	0
1437	野口長義	0	11	0
1438	野澤虎雄(長野)	2	7	0
1439	のじぎく文庫	0	1	0
1440	農村更生協会稗普及会	1	0	0
1441	野尻抱影	1	0	0
1442	野尻與顯	1	1	0
1443	能勢亀太郎	0	3	0
1444	野田甚エ門	0	5	0
1445	能智愛子	0	1	0
1446	野間吉夫	0	1	0
1447	野村愛正	59	82	0
1448	野村正大	5	0	0
1449	野村伝四	0	1	0
1450	野村直太郎	1	0	0
1451	芳賀修三	0	1	0
1452	袴田里見後援会	1	3	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1453	萩原正徳	1	11	0
1454	白鯨社	3	1	0
1455	柏窓社(柏窓会)	2	0	0
1456	博文館編集部	1	0	0
1457	白揚社	3	4	0
1458	羽下修三	1	0	0
1459	箱山貴太郎	9	21	0
1460	橋浦さんをねぎらう会(出欠の返信)	0	123	0
1461	橋浦時雄	74	84	0
1462	橋浦弘子	1	0	0
1463	橋浦増雄	0	1	0
1464	橋浦泰雄(差出人橋浦泰雄で返送または郵送しなかったもの)	3	32	0
1465	橋浦泰雄画伯五十年記念会(出欠の返)	3	144	2
1466	橋作一郎	0	1	0
1467	橋滋一	1	0	0
1468	橋爪利次	1	3	0
1469	橋詰延寿(高知)	0	3	0
1470	橋本英吉	1	0	0
1471	橋本興家	0	1	0
1472	橋本敬太郎	0	1	1
1473	橋本新吉	0	1	0
1474	橋本常永	0	1	0
1475	橋本満松	0	1	0
1476	橋本良一	0	1	0
1477	長谷川塊記	6	8	0
1478	長谷川清	1	0	0
1479	長谷川正	1	0	0
1480	長谷川榊蔵	1	2	0
1481	秦数馬	1	5	0
1482	畠田和一	0	1	0
1483	秦安雄	0	1	0
1484	服部諭	0	3	0
1485	服部之総	1	0	0
1486	服部知治	11	7	0
1487	服部なほ	1	0	0
1488	服部覆集	0	1	0
1489	服部実	8	20	0
1490	初山滋	0	1	0
1491	話をきく会	0	1	0
1492	羽根田一郎	1	0	0
1493	濱口録之助	1	0	0
1494	浜崎五百枝	1	1	0
1495	濱崎栄造	0	1	0
1496	濱崎正雄	1	0	0
1497	濱定(観光旅館)	1	1	0
1498	浜田宣伴	4	11	0
1499	浜中栄吉	2	0	0
1500	濱中種吉	1	0	0
1501	濱野厚義	1	0	0
1502	早川生	0	1	0
1503	早川巍一郎	1	4	0
1504	早川孝太郎	1	7	0
1505	早川静夫	3	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1506	早川昇	12	10	0
1507	早川稚彦	0	1	0
1508	林一夫	0	1	0
1509	林要	3	2	0
1510	林魁一	1	0	0
1511	林紅村	0	2	0
1512	林徹	1	1	0
1513	林文也	0	1	0
1514	林部修治	0	1	0
1515	林部俊治・はる	3	2	0
1516	林稚清	0	2	0
1517	林靖範	0	1	0
1518	林義孝	1	0	0
1519	原?	0	2	0
1520	原久米太郎	0	4	0
1521	原島陽一	1	1	0
1522	原寿一郎	0	2	0
1523	原貴雄	0	1	0
1524	原田幸子	1	0	0
1525	原田正名	1	0	0
1526	原田待五郎	0	1	0
1527	原田隆	0	1	0
1528	原田龍雄	1	1	0
1529	原徹一	1	0	0
1530	原彪	0	3	0
1531	原村一郎	0	1	0
1532	梁田政蔵	0	1	0
1533	巴陵宣正	0	1	0
1534	半田美好	1	0	0
1535	半田良平	2	6	0
1536	晩飯を喰ふ会	0	1	0
1537	晩翠軒	1	0	0
1538	板龍斎	1	0	0
1539	穆普及会配給部	0	1	0
1540	東隆(北海道)	1	1	0
1541	東筑摩教育部会	1	0	0
1542	東筑摩郡片丘尋常高等小学校	1	0	0
1543	東筑摩郡尋常高等小学校	5	0	0
1544	東山?	0	1	0
1545	比嘉春潮	6	22	0
1546	樋口忠次郎	1	20	0
1547	樋口信助	1	4	0
1548	樋口喜徳	1	0	0
1549	肥後和男	2	1	0
1550	久富達夫	1	0	0
1551	久當徳松	8	8	0
1552	土方梅子さんを偲ぶ集い	1	0	0
1553	土方敬太	4	0	0
1554	土方与志・没後二十年記念委員会	1	0	0
1555	美術家平和会議	4	5	0
1556	美術新論社	1	0	0
1557	日高ルミ	0	1	0
1558	肥田舜太郎	0	1	0
1559	日沼滉治	0	8	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1560	日野常	0	1	0
1561	日野照彦	0	1	0
1562	日野屋洋紙店	1	0	0
1563	氷見譲治	3	8	0
1564	平井?	1	0	0
1565	平井嘉代	2	0	0
1566	平方金七	0	1	0
1567	平沢清人	6	2	0
1568	平澤貞通	0	1	0
1569	平沢里子	0	1	0
1570	平沢寿夫	0	1	0
1571	平澤勇太郎	1	0	0
1572	平田清秀	7	1	0
1573	平田利数	1	0	0
1574	平田良	3	2	0
1575	平田良衛	1	0	0
1576	平野学	0	1	0
1577	平野實	0	1	0
1578	ひらのや旅館	0	1	0
1579	平野義太郎	1	0	0
1580	平林恒夫	0	7	0
1581	平松義彦	2	1	0
1582	平山謙三	1	0	0
1583	平山鐵夫遺作展覧会	0	1	0
1584	平山敏治郎	16	31	1
1585	広瀬為次郎	0	1	0
1586	深澤要	0	1	0
1587	深谷進	1	0	0
1588	深水正策	2	4	0
1589	深海政夫	1	1	0
1590	福井県社会教育科	1	0	0
1591	福島勸一	1	0	0
1592	福島文右エ門	1	0	0
1593	福田(景山)英子を記念する会	1	1	0
1594	福田圭一	0	1	0
1595	福田武雄	0	1	0
1596	福田寧雄	1	1	0
1597	福永寿雄	4	2	0
1598	藤間生大	0	3	0
1599	福間敏男	0	3	0
1600	福室松太郎	1	14	0
1601	福本和夫	5	11	0
1602	福本邦雄	0	1	0
1603	福山大雲	0	1	0
1604	福谷義親	1	0	0
1605	藤井伊沙子	1	0	0
1606	藤井貫一(朝鮮)	10	2	0
1607	藤井源一郎	1	0	0
1608	藤井信	0	1	0
1609	藤井濤子	1	0	0
1610	藤井孝治	0	1	0
1611	藤井敏夫	0	1	0
1612	藤岡良三	1	0	0
1613	藤川八蔵	0	5	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1614	藤川政弘	0	3	0
1615	藤沢清二	0	1	0
1616	布施辰治歓迎慰労の夕	0	3	0
1617	藤田真知男	2	0	0
1618	藤巻生	0	1	0
1619	藤巻和男	1	1	0
1620	藤松榊	1	0	0
1621	藤本浄本	1	0	0
1622	藤本一	1	0	0
1623	藤本光孝	0	1	0
1624	藤本由太郎	0	1	0
1625	藤森成吉	1	9	0
1626	藤森岳夫	1	0	0
1627	不二良一	1	0	0
1628	藤原勉	1	2	0
1629	藤原與一	0	4	0
1630	布施辰治	10	15	0
1631	舞台芸術学院	1	0	0
1632	舟木重信	1	0	0
1633	船越康寿	0	1	0
1634	船山信一	1	6	0
1635	古川瑞昌	1	0	0
1636	古川祐一	0	1	0
1637	古野清人	1	5	0
1638	古谷清	1	0	0
1639	古谷茂	1	0	0
1640	文会堂書房	0	1	0
1641	文化商会印刷所	1	0	0
1642	文化生活研究会	0	2	0
1643	文化評論編集部	4	0	0
1644	文芸タイムス社(藤田外治宛)	1	0	0
1645	平凡社	4	1	0
1646	平和運動三〇周年記念事業実行委員会	0	1	0
1647	平和ふじん新聞社	0	2	0
1648	別府貫一郎	5	6	0
1649	報告新聞	1	0	0
1650	法政大学生生活協同組合	1	0	0
1651	報知新聞社	2	0	0
1652	朋文社	2	0	0
1653	豊林社印刷所	1	0	0
1654	朴の会	0	2	0
1655	北冥を支持する会	1	0	0
1656	星野?	1	0	0
1657	星野力	1	3	0
1658	穂積健児	1	1	0
1659	帆足計	2	1	1
1660	細田民樹	12	23	0
1661	北方文芸刊行会	1	0	0
1662	堀井度	0	1	0
1663	堀一郎	4	12	0
1664	堀内節	1	0	0
1665	堀尾とらゑ	1	0	0
1666	堀田吉雄(三重県)	0	12	0
1667	堀ミチ	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1668	本田昇	0	1	0
1669	本田文三	1	0	0
1670	本田安次	0	1	0
1671	本間清子(新潟県佐渡)	1	4	0
1672	毎日新聞社	3	0	0
1673	前芝茂人	1	0	0
1674	前島省三	0	2	0
1675	前田孤泉	0	1	0
1676	前田重信	0	1	0
1677	前田夕暮	2	0	0
1678	真垣武勝	1	0	0
1679	牧田茂	3	17	0
1680	眞木虎雄	1	1	0
1681	牧野巽	0	1	0
1682	眞木正夫	0	1	0
1683	馬島個	0	2	0
1684	眞島善三郎	0	1	0
1685	間島惣兵門	1	0	0
1686	眞島善太郎	1	0	0
1687	榊川義雄	0	1	0
1688	眞澄遊覧記刊行会	1	0	0
1689	魔棹(橋浦昌雄?)	0	1	0
1690	町田嘉章(鳥取・美保関)	3	3	0
1691	松井多枝	1	1	0
1692	松井秀枝	1	0	0
1693	松井良衛	0	1	0
1694	松岡?	0	1	0
1695	松岡朝子	1	1	0
1696	松岡浅右エ門	1	3	0
1697	松岡皆々(福井大野)	1	1	0
1698	松岡興吉	0	2	0
1699	松岡駒吉	5	6	0
1700	松岡幸恵	0	4	0
1701	松岡恒治	1	1	0
1702	松岡二十世	0	1	0
1703	松岡みか子	1	0	0
1704	松岡道男	1	0	0
1705	松川伊勢雄	1	0	0
1706	松川事件被告家族会	0	1	0
1707	松川事件無罪釈放百万人署名世話人会	0	1	0
1708	松川三鷹対策委員会	0	1	0
1709	松坂兵三郎	1	0	0
1710	松島正光	0	1	0
1711	松田解子	0	1	0
1712	松田火工	19	19	0
1713	松田晃八	4	5	0
1714	松田在から吉村撫骨へのはがき(そのはがきを吉村から橋浦泰雄へ)	0	9	0
1715	松田利吉	0	1	0
1716	松田風骨	0	1	0
1717	松野(妻代筆)	0	1	0
1718	松野尾辰五郎	0	1	0
1719	松野宣	0	2	0
1720	松林六郎	2	2	0



番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1721	松村集	0	2	0
1722	松本浅三	1	0	0
1723	松本一三	0	2	0
1724	松本鹿市	1	0	0
1725	松本一朗	0	1	0
1726	松本菊	1	0	0
1727	松本銀行	2	0	0
1728	松本広治	3	0	0
1729	松本弘二	1	0	0
1730	松本悟朗	0	2	0
1731	松本七郎	0	1	0
1732	松本惣一	0	1	0
1733	松本治一郎	0	2	0
1734	松本正雄「過去と記憶」出版とご病気の 全快を喜ぶ会発起人	0	1	0
1735	松本正雄	23	10	0
1736	松本喜明	0	5	0
1737	松山?	2	2	0
1738	松山繁三郎	1	0	0
1739	松山照夫	4	3	0
1740	松山治三	1	0	0
1741	松山英夫	0	1	0
1742	松山義雄(長野)	1	1	0
1743	真鍋節子	0	4	0
1744	間宮照子	2	1	0
1745	丸岡秀子	1	0	0
1746	丸金旅館	0	1	0
1747	丸木位里・赤松俊子	0	6	0
1748	圓田陽一	1	0	0
1749	丸山哉治	0	1	0
1750	丸山光治	1	0	0
1751	丸山久子	0	2	0
1752	丸山学	2	6	0
1753	丸山義紹	1	4	0
1754	三浅勇吉	1	0	0
1755	三浦薫雄	2	1	0
1756	三浦一枝	0	1	0
1757	三浦健次	1	1	0
1758	三浦成子	1	0	0
1759	三浦實生	1	0	0
1760	三浦勇吉	1	2	0
1761	三重県民謡研究所	1	0	0
1762	三川秀夫	0	1	0
1763	三木茂	1	3	0
1764	宮坂源一	2	0	0
1765	三嶋章道	0	1	0
1766	水木直箭	0	1	0
1767	水澤澄夫	1	0	0
1768	水島増蔵	0	15	0
1769	水野成夫	2	0	0
1770	水野葉舟	0	18	0
1771	三角泰	1	0	0
1772	三角正子	3	14	0
1773	水流郁郎	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1774	路	0	1	0
1775	三井博	0	1	0
1776	三井禮子	1	1	0
1777	満岡忠成	0	7	0
1778	皆川滉	2	4	0
1779	湊七良	1	1	0
1780	南巖	0	2	0
1781	湊正一	2	4	0
1782	ミナモト	0	0	1
1783	峰尾ふくじ	1	0	0
1784	峰元	1	0	0
1785	三原良吉	1	0	0
1786	三原よし子	0	1	0
1787	美作太郎	8	7	0
1788	三村邦雄	1	0	0
1789	三村大太郎	0	1	0
1790	三村大八郎	6	5	0
1791	都館(旅館)	0	1	0
1792	宮坂栄一	3	3	0
1793	宮崎一枝	1	0	0
1794	宮崎公子	0	1	0
1795	宮崎哲	1	0	0
1796	宮崎世民	3	8	0
1797	宮澤潔	0	1	0
1798	宮下質	2	0	0
1799	宮田猪一郎	1	0	0
1800	宮田登	0	4	0
1801	宮部一郎(生協)	2	0	0
1802	宮山巖	1	0	0
1803	宮本馨太郎	0	10	0
1804	宮本せつ子	0	1	0
1805	宮本常一	20	44	0
1806	宮本十久一	1	2	0
1807	宮本俊夫	0	1	0
1808	宮本能成	3	4	0
1809	宮良當壮	2	3	0
1810	御幸生活協同組合	1	0	0
1811	三好泰三	0	3	0
1812	三好寿子	1	1	0
1813	未来社	3	0	0
1814	民間伝承の会(大阪支部)	1	0	0
1815	民間伝承の会(大阪支部とは別)	1	6	0
1816	民生館	0	2	0
1817	民俗学研究所	22	57	0
1818	民俗学会	0	1	0
1819	民族歌舞団わらび座	0	1	0
1820	「民族芸術研究所」建設五か年計画を祝う会事務局	0	1	0
1821	民族芸術研究所設立準備委員会	1	0	0
1822	民族研究談話会	0	1	0
1823	民族建築学会	1	0	0
1824	民俗談話会	0	1	0
1825	民報社	1	0	0
1826	民謡の会	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1827	向井太喜巳	1	1	0
1828	向井太喜巳・榎本五美結婚式実行委員	1	0	0
1829	木権会世話人	0	1	0
1830	ムサシノ生活協同組合	12	3	1
1831	武者小路実篤	1	2	0
1832	武藤泰子(足助素一宛)	0	1	0
1833	村山新之丞	1	5	0
1834	村岡靖秀	0	1	0
1835	村岡美恵	1	1	0
1836	村上儀一郎	0	1	0
1837	村上国治	1	0	0
1838	村上景雲	0	1	0
1839	村上シエ	1	0	0
1840	村上吉蔵	1	4	0
1841	村雲大樸子	4	7	0
1842	むらさき編集部	1	0	0
1843	村治能就	1	0	0
1844	村生	0	1	0
1845	村瀬右仲(木村哲也宛)	0	1	0
1846	村田祐作	14	26	0
1847	村松正俊	1	0	0
1848	村山重忠	2	1	0
1849	村山籐四郎	1	0	0
1850	村山知義	1	0	0
1851	室橋五郎(島崎貢宛)	1	0	0
1852	鳴潮社	1	0	0
1853	名著出版	4	0	0
1854	目黒不二夫	1	0	0
1855	召田潔	0	1	0
1856	モース・ロナルド	1	0	0
1857	最上孝敬	0	5	0
1858	李太郎記念館	2	0	0
1859	木曜会有志	0	1	0
1860	門司地方海員審判所	1	0	0
1861	望月明美	0	2	0
1862	望月桂	2	10	0
1863	望月定子	1	1	0
1864	持永貴子	0	1	0
1865	茂木由子	4	3	0
1866	茂原千代	1	0	0
1867	百瀬晋	0	2	0
1868	百瀬達子	0	1	0
1869	百瀬正美	6	2	0
1870	森泉音三郎	1	0	0
1871	森岡嘉門次	0	2	0
1872	森岡柳蔵	2	13	0
1873	森喜代造	0	1	0
1874	森口多里	3	2	0
1875	森下當	0	1	0
1876	森下岩太郎	1	3	0
1877	森下續紀	0	2	0
1878	森下尚	0	1	0
1879	森下勇太郎	0	1	0
1880	森島幸章	0	1	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1881	森瀬真	1	0	0
1882	森田良三	0	1	0
1883	森俊秀	1	0	0
1884	森長英三郎	1	1	0
1885	森本政一	0	2	0
1886	森本長吉	1	0	0
1887	森本安市	1	0	0
1888	守屋典郎	0	1	0
1889	森山重雄	1	0	0
1890	森山泰太郎	0	2	0
1891	森山太郎	2	5	0
1892	諸木源造	0	2	0
1893	文部省映画認定事務所	1	0	0
1894	門馬鉄雄	1	0	0
1895	弥	0	1	0
1896	矢ヶ崎栄次郎	61	46	0
1897	矢ヶ崎賢治	3	1	0
1898	矢ヶ崎雄太郎	0	2	0
1899	八木茂一	1	0	0
1900	柳生作郎	1	0	0
1901	矢口進也	0	2	0
1902	矢崎源蔵	3	2	0
1903	屋代謙	1	0	0
1904	八代康	0	1	0
1905	安田清	1	0	0
1906	安田健三	0	1	0
1907	安成二郎	1	0	0
1908	安間清	3	0	0
1909	安之薫	0	1	0
1910	矢谷寿雄	1	0	0
1911	やちだも吟社	0	1	0
1912	安津素彦	1	0	0
1913	柳宗悦	1	0	0
1914	柳田國男	27	3	1
1915	柳田國男書簡ファイル	67	0	0
1916	柳田國男生誕百年記念会	1	0	0
1917	柳田國男・松岡家顕彰会	1	0	0
1918	柳田孝	5	3	0
1919	柳田賞委員会	11	1	0
1920	柳田為正	2	0	0
1921	柳瀬正夢三十三回忌追悼会御案内	0	1	0
1922	八名照子	0	2	0
1923	矢浪さだ	1	0	0
1924	藪中寿治	1	0	0
1925	矢部友衛	9	11	0
1926	山口麻太郎	16	38	0
1927	山内サダ子	4	5	0
1928	山内みな	1	1	0
1929	山縣喬	1	0	0
1930	山上(名不明)	1	0	0
1931	山上八郎	0	1	0
1932	山川菊栄	2	2	0
1933	山川均	2	0	0
1934	山川亮	0	2	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1935	山岸信威	0	1	0
1936	山口(名不明)	0	1	0
1937	山口幸洋	1	0	0
1938	山口貞夫	8	22	0
1939	山口貞昌	1	0	0
1940	山口書店	0	1	0
1941	山口寿々栄	3	2	0
1942	山口彌一郎	5	2	0
1943	山口良吾	7	4	0
1944	山崎岡八	0	1	0
1945	山崎今朝弥	2	25	0
1946	山崎さい	0	1	0
1947	山崎勉治	1	0	0
1948	山崎正利	0	7	0
1949	山下久男	10	4	0
1950	山下嘉吉	0	1	0
1951	柳瀬(名不明)	0	1	0
1952	山田生(岐阜)	0	4	0
1953	山田裕世	1	0	0
1954	山田昭夫	0	1	0
1955	山田清三郎出版記念会	0	2	0
1956	山田隆夫	1	0	0
1957	山田次三	1	0	0
1958	山田宗睦	0	1	0
1959	山田良隆	0	1	0
1960	山と高原編集部(朋文堂)	1	0	0
1961	山根宵葩	1	0	0
1962	山根清太良	0	2	0
1963	山根徳太郎	2	0	0
1964	山根雅郎	0	1	0
1965	山野(名不明)	1	0	0
1966	山野宮吉	1	0	0
1967	山村書院	10	5	0
1968	山本秋	28	23	0
1969	山本潔	1	0	0
1970	山本健二	2	0	0
1971	山本幸世	0	1	0
1972	山本祥子	0	1	0
1973	山本卓	0	1	0
1974	山本達男	3	2	0
1975	山本太郎	0	2	0
1976	山本芳枝	1	0	0
1977	鐘田研一	2	0	0
1978	湯浅謙	0	1	0
1979	湯川制	1	0	0
1980	湯口亀吉	0	1	0
1981	由谷義治	1	0	0
1982	『ユマニテ』編集部	0	3	0
1983	横井照秀	4	0	0
1984	横山和雄	1	2	0
1985	横山輝一	1	0	0
1986	横山百合子	0	1	0
1987	横山林二	2	0	0
1988	与謝野晶子	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
1989	吉井忠	0	2	0
1990	芳夫(姓不明)	0	1	0
1991	吉岡(名不明)	1	0	0
1992	吉岡生	1	0	0
1993	吉川文次	1	3	0
1994	由子(姓不明)	1	0	0
1995	吉澤遂実	1	0	0
1996	吉田栄治	0	1	0
1997	吉田意之	0	1	0
1998	吉田喜一郎	0	1	0
1999	吉田喜蔵	0	1	0
2000	吉田敬市	0	1	0
2001	吉田三蔵	1	0	0
2002	吉田資治	1	0	0
2003	吉田澄夫	0	1	0
2004	吉田節俊	3	6	0
2005	吉田璋也	0	1	0
2006	吉田正	0	2	0
2007	吉田只次	0	1	0
2008	吉田信博	1	0	0
2009	吉田肇	1	0	0
2010	吉田政博	1	0	0
2011	吉田光実	1	5	0
2012	吉永永吉	0	1	0
2013	吉野元章	1	1	0
2014	吉原朝彦	1	0	0
2015	吉町義雄	0	1	0
2016	吉水白雨	1	0	0
2017	吉村進司	0	1	0
2018	吉村秀治(撫骨)	159	109	0
2019	吉村光子	6	2	0
2020	吉本三代治	1	0	0
2021	依田泰八	3	0	0
2022	米沢健一	2	0	0
2023	米谷利夫	1	0	0
2024	米原昶	1	0	0
2025	米原いたる	0	5	0
2026	米村健	17	11	0
2027	読売新聞社	2	0	0
2028	寄峰(名不明)	0	1	0
2029	寄本光子	1	0	0
2030	寄本麟二・美代子	2	32	0
2031	リーダーズダイジェスト編集部	0	1	0
2032	臨川書店	3	1	0
2033	歴史学研究会	1	0	0
2034	聯合大会	4	0	0
2035	蓮仏重寿	30	74	0
2036	蓮仏亨	2	3	0
2037	老人協同ホーム(沼津市)	15	0	0
2038	労働雑誌の会	0	1	0
2039	労働者教育協会	1	0	0
2040	六人社	1	0	0
2041	若木(名不明)	0	1	0
2042	若葉渉	1	0	0

番号	氏名	封書類	はがき	電報・その他
2043	若林果樹園	0	1	0
2044	若林芳樹	3	0	0
2045	和歌森太郎	1	4	0
2046	若山和夫	1	1	0
2047	和歌山民報社	1	0	0
2048	涌島義博・りつ子	24	39	0
2049	鷺尾三郎	4	7	0
2050	鷺尾正久	0	1	0
2051	和田正洲	0	2	0
2052	和田一夫	2	1	0
2053	和田清	0	2	0
2054	和田重種	1	0	0
2055	渡辺該	0	1	0
2056	渡辺行一	5	1	0
2057	渡辺順三	7	26	0
2058	渡辺武雄	1	0	0
2059	渡辺達也	1	4	0
2060	渡辺敏夫	1	6	0
2061	渡辺芳晴(長野)	10	1	0
2062	渡辺正知	0	4	0
2063	渡辺守太郎	0	1	0
2064	渡部義通君を祝う会	0	1	0
2065	渡部義通	0	1	0
2066	渡辺義光	0	1	0
2067	和田文夫	7	10	0
2068	和田光代	1	1	0
2069	綿屋寿雄	0	1	0
2070	和辻哲郎	1	1	0
2071	和貫中	1	0	0
2072	わらび座	3	1	0
2073	剛(苗字不明)	0	1	0
2074	治永(苗字不明)	0	1	0
2075	洋二(苗字不明)	0	1	0
2076	差出人不明	2	25	1
2077	判読不能	5	28	0
	合計	4196	6461	35

2004(平成16)年度・2005(平成17)年度 科学研究費補助金  
基盤研究(C) 研究成果報告書

昭和十年代における郷土研究の体制化

研究代表者 鶴見太郎

---

2006年3月31日発行

編集・発行 鶴見太郎

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部

TEL 03(5286)3738(研究室直通)

印刷所 株式会社早稲田大学メディアミックス

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-1-7

TEL 03(3203)3308